

2017(平成29)年度

事業報告書

学校法人 麻布獣医学園



2017(平成29)年度 事業報告書

目次

I 法人の概要

1. 建学の精神	1
2. 基本経営方針 ミッションステートメント	1
3. 設置する学校	2
4. 沿革	2
5. 将来に向けてのビジョン[学校法人麻布獣医学園中期目標・中期計画]	5
6. 機構図	7
7. 役員・評議員	8
(1) 役員	8
(2) 評議員	9
8. 学生・生徒の状況	10
(1) 入学定員, 収容定員, 学生・生徒数, 収容定員充足率	10
(2) 専任教員一人当たりの学生数	10
(3) 非正規課程履修者	11
9. 教職員の状況	11
(1) 大学教員(常勤)	11
(2) 高等学校教員(常勤)	12
(3) 職員(常勤)	12
(4) 非常勤教職員	12

II 事業の概要

1. 平成29年度事業計画の実施状況	13
2. 教育研究の概要	32
(1) 2017(平成29)年度の教育実施体制	32
(2) 入学試験実施状況	33
(3) 卒業者・修了者数及び進路状況	39
(4) 国家試験	43
(5) 退学者数・中退率・留年者数	44
(6) 国際交流	45
(7) 研究・知的財産等	46
(8) 産官学連携	49
(9) 地域連携	50
(10) 麻布大学附属高等学校に関する情報	52
3. 管理運営の概要	54
(1) 学園運営に係る会議等	54
(2) 会議等の開催状況	54
(3) 2017(平成29)年度 主要行事	61

III 財務の概要

1. 学校法人会計の特徴と企業会計との比較	64
2. 財務状況の推移	65
3. 財務比率の推移	67

I 法人の概要

法人名	学校法人 麻布獣医学園
理事長名	柏崎 直巳
所在地	神奈川県相模原市中央区淵野辺 1 - 1 7 - 7 1
目的	教育基本法及び学校教育法に従い、大学教育及び高等学校教育を行う。

1. 建学の精神

「学理の討究と誠実なる実践」

本学は、創設者 與倉東隆（よくら はるたか）先生の建学の精神である、学理を討究し実践を重んじる誠実なる校風を受け継ぎ、人と動物との共存及び人と自然環境との調和の途を探求することを目的として、獣医学、畜産学、動物応用科学、生命科学及び環境科学に関する専門の知識を教授研究し、その応用力の展開をはかるとともに、進んで学術の進歩と国民生活の向上に寄与し、平和社会の建設に貢献することとしています。

2. 基本経営方針 ミッションステートメント

私たちは「学生・生徒第一主義」をモットーに、「学理の討究と誠実なる実践」を教育理念とし、人と動物と環境の共生を探求する「地球共生系」の実現を目指し、常に学生・生徒の夢と希望を正面から受け止め、社会の変化を見通して、社会に貢献するよう、教育研究を実践していきます。

5つの重点改善事項

- 1) 学園組織の活性化
- 2) 志願者数の安定的確保
- 3) ステークホルダー満足度の向上
- 4) 学園プレゼンスの向上
- 5) 財政基盤の安定化

麻布獣医学園はこれらの事項に重点的に取り組むことにより、安定した経営を実現する。

3. 設置する学校

麻布大学

設置認可年月 昭和 25 (1950) 年 2 月

学 長 名 浅利 昌男

所 在 地 神奈川県相模原市中央区淵野辺 1 - 1 7 - 7 1

目 的 [大学]

獣医学，畜産学，動物応用科学，生命科学及び環境科学に関する専門の学術を教授研究し，その応用能力の展開をはかるとともに，人格の完成につとめ，進んで学術の進歩と人類の生活向上に寄与し，平和社会の建設に貢献する。

[大学院]

建学の精神に則り，学部における教育の基礎の上に，学術の理論及び応用を教授研究し，その深奥をきわめ，高い技術力及び研究指導能力を養い，また，高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い，文化の進展に寄与する。

◆ 教育研究の理念 ◆

地球共生系

～人と動物と環境の共生を目指して～

麻布大学附属高等学校

設置認可年月 昭和 36 (1961) 年 5 月

校 長 名 飯田 敦往

所 在 地 神奈川県相模原市中央区淵野辺 1 - 1 7 - 5 0

目 的 教育基本法及び学校教育法に基づき，中学校における教育の基礎の上に，心身の発達及び進路に応じて高度な普通教育を施す。

4. 沿革

明治23 (1890) 年 9 月	東京獣医講習所開所 (現 東京都港区南麻布)
明治27 (1894) 年 4 月	麻布獣医学校開設
明治45 (1912) 年 3 月	麻布獣医畜産学校と改称
大正 9 (1920) 年 9 月	財団法人麻布獣医畜産学校設立
昭和 9 (1934) 年 4 月	実業専門学校令による麻布獣医専門学校の設置 財団法人麻布獣医専門学校と校名変更
昭和19 (1944) 年12 月	麻布獣医畜産専門学校と改称
昭和22 (1947) 年 6 月	現在地 (神奈川県相模原市) に移転
昭和25 (1950) 年 2 月	新学制による麻布獣医科大学の設置認可 財団法人麻布獣医学園
4 月	麻布獣医科大学として開学
昭和26 (1951) 年 3 月	財団法人から学校法人へ改組，学校法人麻布獣医学園となる
昭和27 (1952) 年 3 月	麻布獣医畜産専門学校廃止

昭和32(1957)年 4月	麻布獣医科大学獣医学部獣医学専攻科開設
昭和35(1960)年 4月	麻布獣医科大学大学院修士課程開設
昭和36(1961)年 5月	麻布獣医学園瀏野辺高等学校開校
昭和37(1962)年 4月	麻布獣医科大学大学院博士課程開設
昭和40(1965)年 4月	麻布公衆衛生短期大学開学
昭和51(1976)年 4月	麻布獣医科大学獣医学部家畜環境学科開設
昭和53(1978)年 4月	麻布獣医科大学環境保健学部（環境保健学科及び衛生技術学科）開設
11月	麻布獣医科大学獣医学部獣医学専攻科廃止
昭和54(1979)年 6月	麻布公衆衛生短期大学廃止
昭和55(1980)年 4月	麻布獣医科大学を麻布大学に名称変更 獣医学部家畜環境学科を獣医学部環境畜産学科に名称変更
昭和59(1984)年 4月	獣医学教育6年制発足（学校教育法の一部改正による）
昭和60(1985)年10月	瀏野辺高等学校を麻布大学附属瀏野辺高等学校に名称変更認可
昭和63(1988)年 4月	麻布大学附置生物科学総合研究所設置
平成元(1989)年12月	獣医学部環境畜産学科，環境保健学部 臨時定員増認可
平成 2(1990)年 4月	麻布大学大学院獣医学研究科博士課程（4年制）開設
平成 5(1993)年 4月	麻布大学大学院獣医学研究科動物応用科学専攻（修士課程）開設
平成 6(1994)年 4月	麻布大学大学院環境保健学研究科環境保健科学専攻（修士課程）開設 麻布大学獣医学部環境畜産学科を獣医学部動物応用科学科に改組 麻布大学獣医学部環境畜産学科募集停止 麻布大学大学院環境保健学研究科環境保健科学専攻（修士課程）開設
平成 7(1995)年 4月	麻布大学大学院獣医学研究科動物応用科学専攻（博士課程）開設
平成 8(1996)年 4月	麻布大学大学院環境保健学研究科環境保健科学専攻（博士課程）開設
平成 9(1997)年 7月	麻布大学附属動物管理センター設置 麻布大学大学学生部保健課を麻布大学健康管理センターに組織変更
平成10(1998)年 4月	麻布大学環境保健学部環境保健学科を環境保健学部健康環境科学科に名称変更
12月	麻布大学獣医学部動物応用科学科，環境保健学部健康環境科学科・衛生技術学科の期間付入学定員増に係る学則認可（平成11年度まで）
平成11(1999)年 3月	麻布大学獣医学部環境畜産学科廃止認可
4月	麻布大学環境保健学部環境政策学科開設
7月	麻布大学獣医学部動物応用科学科，環境保健学部健康環境科学科・衛生技術学科の期間付入学定員増に係る学則認可（平成16年度まで） 麻布大学獣医学部動物応用科学科，環境保健学部健康環境科学科・衛生技術学科の期間付入学定員の廃止に伴う収容定員増に係る学則変更認可
10月	麻布大学環境保健学部健康環境科学科・衛生技術学科の編入学定員設定認可
平成12(2000)年 4月	麻布大学附属図書館と麻布大学附属情報処理センターを統合し，麻布大学附属学術情報センターを設置
平成15(2003)年 4月	麻布大学大学院環境保健学研究科環境衛生政策専攻（修士課程）開設

平成18(2006)年 7月	麻布大学獣医学部動物応用科学科の入学定員増に係る学則変更認可
平成19(2007)年 4月	麻布大学獣医学部附属動物病院を麻布大学附属動物病院に組織及び名称変更 麻布大学附属教育推進センター設置
平成20(2008)年 4月	麻布大学環境保健学部を改組し、生命・環境科学部臨床検査技術学科、食品生命科学科及び環境科学科を開設（環境保健学部健康環境科学科、衛生技術学科及び環境政策学科は募集停止） 麻布大学研究推進・支援本部を設置
平成25(2013)年 3月	麻布大学環境保健学部（健康環境科学科、衛生技術学科及び環境政策学科）を廃止
平成26(2014)年 4月	麻布大学附属渋野辺高等学校を麻布大学附属高等学校に名称変更
平成27(2015)年 4月	麻布大学地域連携センター設置
9月	麻布大学いのちの博物館開館
平成28(2016)年 3月	麻布大学大学院環境保健学研究科環境衛生政策専攻（修士課程）廃止
4月	麻布大学大学院獣医学研究科動物応用科学専攻博士前期課程収容定員変更
平成29(2017)年 4月	麻布大学獣医学部動物応用科学科収容定員変更

5. 将来に向けてのビジョン

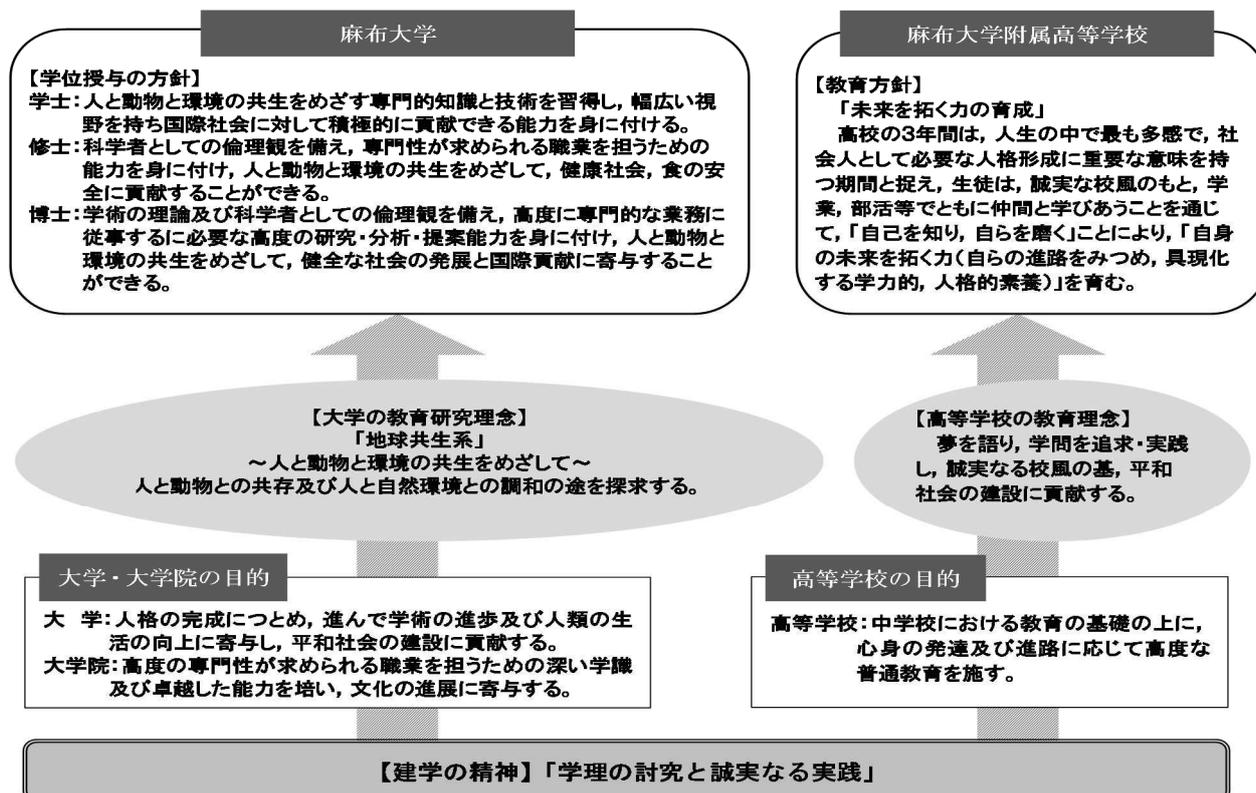
学校法人麻布獣医学園 中期目標・中期計画 [2015（平成27）年度～2020（平成32）年度]

- ◆ 中期目標・中期計画は、「学校法人」「大学」「高等学校」が、2015（平成27）年度から2020（平成32）年度までに達成すべき事項を掲げたものである。【平成27年5月28日理事会・評議員会決定、平成30年2月27日理事会一部改定】
- ◆ 中期目標・中期計画は、学校教育法に規定する認証評価機関が定めた大学における評価項目を基に取りまとめたものである。また、高等学校については、文部科学省が定めた学校評価ガイドラインに基づいた評価項目を基に取りまとめたものである。

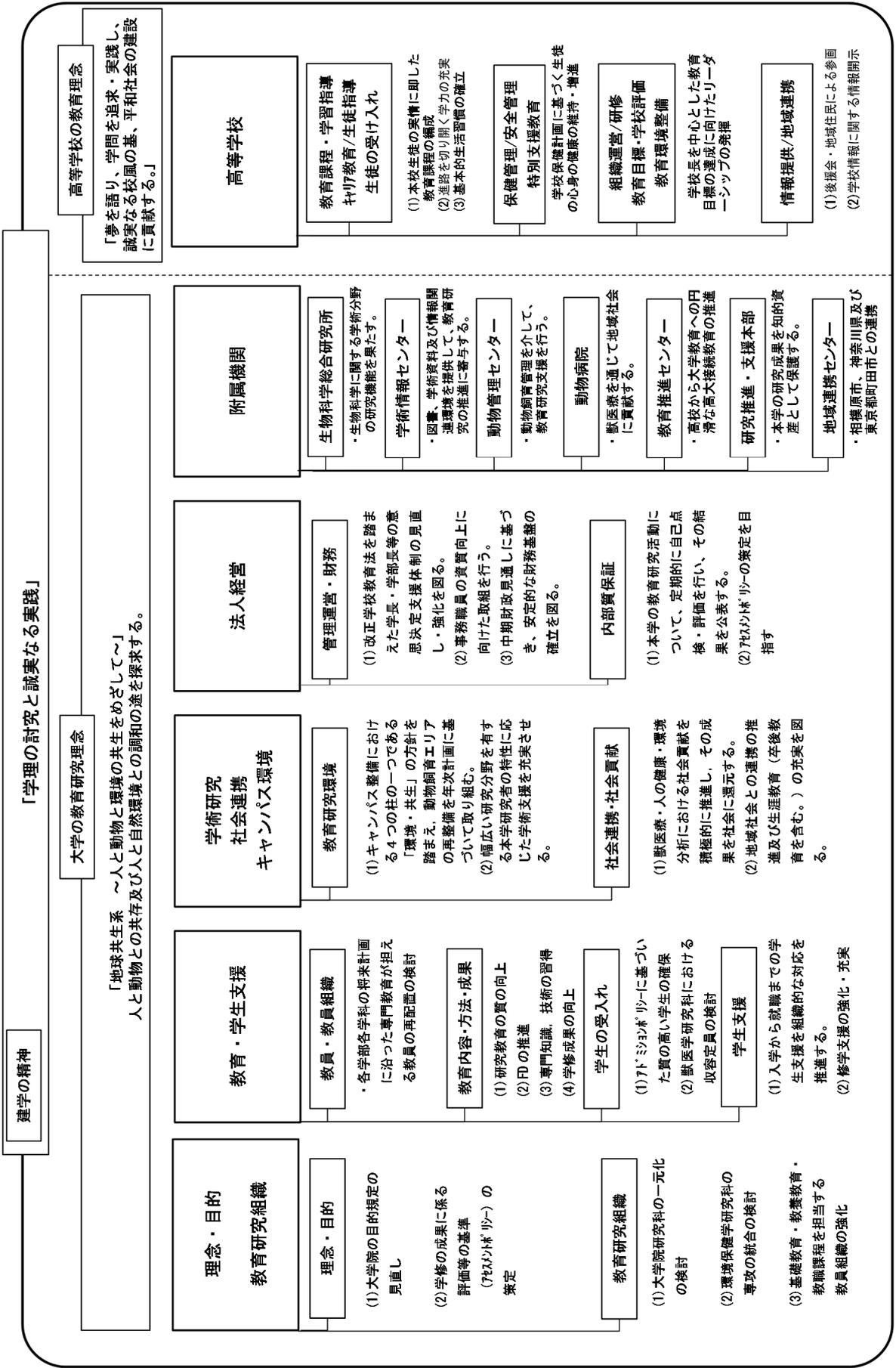
学校法人麻布獣医学園 中期目標・中期計画〔平成27年度～平成32年度〕 将来に向けてのビジョン

麻布獣医学園では、学園の使命を遂行するに当たり、第3期中期目標・中期計画〔平成27年度～平成32年度〕期間の到達目標として6つのビジョンを設定し、これらのビジョンに基づいた重点戦略を策定し、具体的な活動を展開します。

VISION-1 教育・学生支援	法人の方針である「学生・生徒第一主義」の下、大学の教育研究理念に基づき、学位授与の方針に見合う、質の高い専門性を備えた人材の育成を目指します。	VISION-4 高等学校	法人の方針である「学生・生徒第一主義」の下、高等学校の教育理念に基づき、高等学校の教育方針に見合う、生徒自身の未来を拓く力を育む人材の育成を目指します。
VISION-2 学術研究	本学の教育研究者の特性に応じて、各教育研究者の能力が発揮されるよう、必要な学術研究支援体制の充実及び研究倫理の醸成に努めていくことを目指します。	VISION-5 キャンパス環境	大学の教育研究理念に基づき、人・動物・自然環境を意識するキャンパス整備を推進し、環境共生の調和を図りつつ、時を経るごとに価値を高めるキャンパスづくりを目指します。
VISION-3 社会連携	大学の教育研究理念に基づき、獣医療・人の健康・環境分析における教育研究成果を広く社会に還元することを目指します。	VISION-6 法人経営	建学の精神に基づいた健全経営の下、学納金収入はもとより、新たな財源確保の取組として、法人事業の創出など、安定的な財務基盤の確立を目指します。

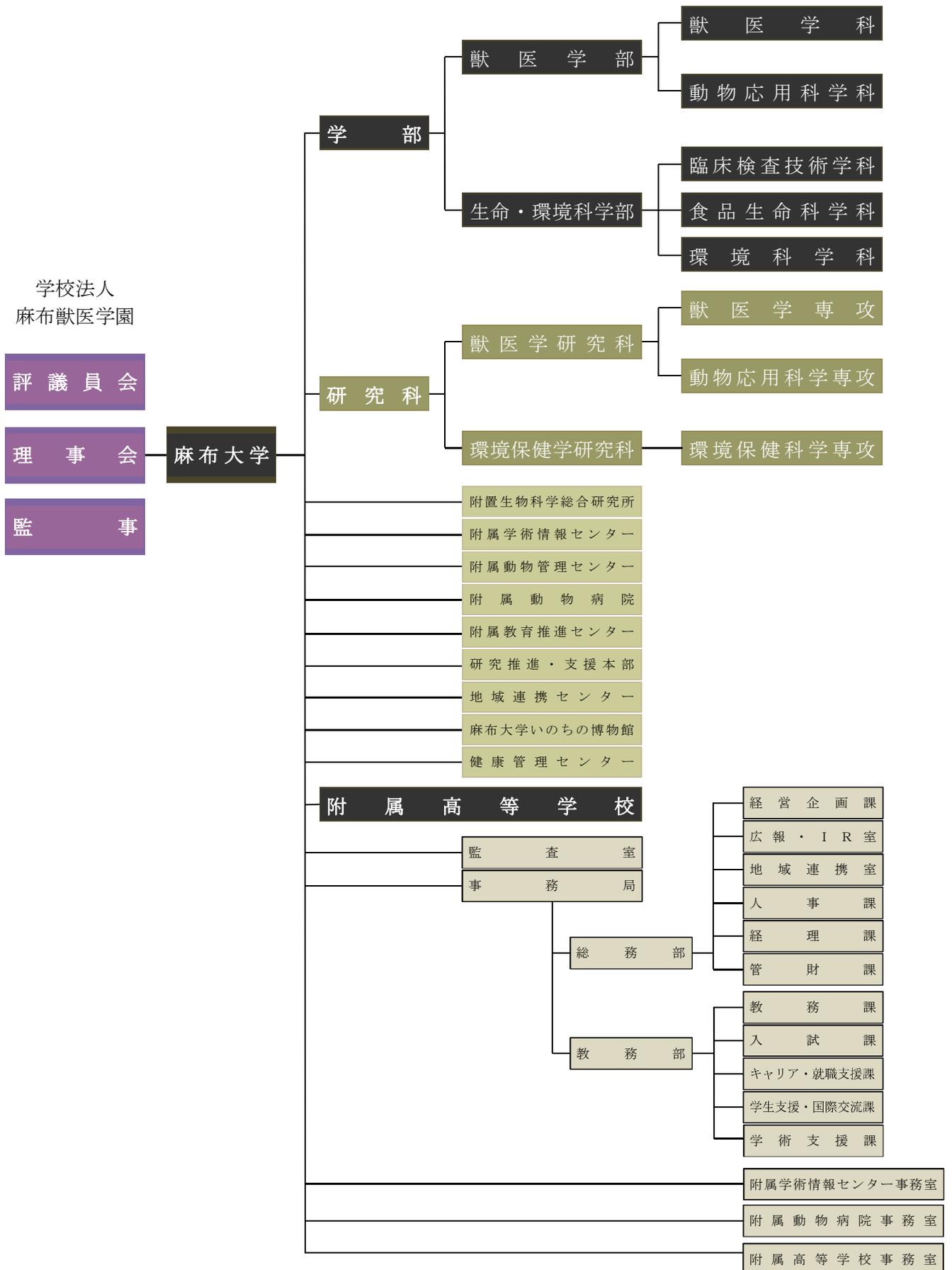


第3期 中期目標・中期計画〔平成27年度～平成32年度〕概要図



6. 機構図

2018(平成30)年5月1日現在



7. 役員・評議員

2018(平成30)年5月1日現在

	任期	定数	現員
理事	4年	10～11人	11人
監事	4年	2人	2人
評議員	4年	28～34人	34人

(1) 役員

理事・監事の区別	担当職務等	氏名	就任年月日 (重任年月日)	寄附行為	選任区分	常勤/ 非常勤	備考
理事	理事長	柏崎直巳	平成21年6月1日 (平成28年6月1日)	第8条第2号	評議員 (評議員会選任)	常勤	平成26年6月25日 理事長就任
理事		浅利昌男	平成26年6月25日	第8条第1号	大学長	常勤	
理事	総務・高校担当	滝沢達也	平成28年6月1日	第8条第2号	評議員 (評議員会選任)	常勤	
理事	改革(教育・研究)担当 動物病院支援副担当	山下 匡	平成28年6月1日	第8条第2号	評議員 (評議員会選任)	常勤	
理事	財務担当	川上 泰	平成28年6月1日	第8条第2号	評議員 (評議員会選任)	常勤	
理事	総務・高校副担当 動物病院支援副担当	高橋 徹	平成15年6月1日 (平成28年6月1日)	第8条第2号	評議員 (評議員会選任)	非常勤	
理事	総務・高校副担 当	横尾清文	平成24年6月1日 (平成28年6月1日)	第8条第2号	評議員 (評議員会選任)	非常勤	
理事	改革(教育・研 究)副担当	松家芳実	平成28年6月1日	第8条第2号	評議員 (評議員会選任)	非常勤	
理事	財務副担当	中村 滋	平成28年6月1日	第8条第2号	評議員 (評議員会選任)	非常勤	
理事		武本成十	平成28年6月1日	第8条第3号	学識経験者 (理事会選任)	非常勤	
理事		中田祐児	平成28年6月1日	第8条第3号	学識経験者 (理事会選任)	非常勤	
監事		小野口勝巳	平成24年6月1日 (平成28年6月1日)	第9条		非常勤	
監事		保坂 広	平成28年6月1日	第9条		非常勤	

(2) 評議員

2018(平成30)年5月1日現在

氏名	就任年月日 (重任年月日)	寄附行為	選任区分	備考
小栗山茂	平成28年6月1日	第18条第2号	卒業者	議長
佐藤正広	平成28年6月1日	第18条第2号	卒業者	副議長
柏崎直巳	平成18年6月1日 (平成28年6月1日)	第18条第1号	法人職員	評議員会選任理事
金子一幸	平成28年6月1日	第18条第1号	法人職員	
川上 泰	平成24年6月1日 (平成28年6月1日)	第18条第1号	法人職員	評議員会選任理事
佐原弘益	平成28年6月1日	第18条第1号	法人職員	
滝沢達也	平成28年6月1日	第18条第1号	法人職員	評議員会選任理事
田原口智士	平成28年6月1日	第18条第1号	法人職員	
藤井洋子	平成28年6月1日	第18条第1号	法人職員	
古畑勝則	平成28年6月1日	第18条第1号	法人職員	
松井久実	平成28年6月1日	第18条第1号	法人職員	
三宅 太	平成24年6月1日 (平成28年6月1日)	第18条第1号	法人職員	
村上 賢	平成24年6月1日 (平成28年6月1日)	第18条第1号	法人職員	
柳原新太郎	平成24年6月1日 (平成28年6月1日)	第18条第1号	法人職員	
山下 匡	平成28年6月1日	第18条第1号	法人職員	評議員会選任理事
高橋 徹	平成12年6月1日 (平成24年6月1日)	第18条第2号	卒業者	評議員会選任理事
中村 滋	平成24年6月1日 (平成28年6月1日)	第18条第2号	卒業者	評議員会選任理事 平成24年6月1日～平成28年5月31日寄附行為第18条第3号評議員
有賀 誠	平成18年6月1日 (平成28年6月1日)	第18条第2号	卒業者	
横尾清文	平成24年6月1日 (平成28年6月1日)	第18条第2号	卒業者	評議員会選任理事
柴田武志	平成28年6月1日	第18条第2号	卒業者	
函城悦司	平成28年6月1日	第18条第2号	卒業者	
前田 茂	平成28年6月1日	第18条第2号	卒業者	
松家芳実	平成24年6月1日 (平成28年6月1日)	第18条第2号	卒業者	評議員会選任理事
長友士郎	平成24年6月1日 (平成28年6月1日)	第18条第2号	卒業者	
白石政美	平成21年6月1日 (平成28年6月1日)	第18条第2号	卒業者	
佐藤 泰	平成24年6月1日 (平成28年6月1日)	第18条第2号	卒業者	
牛尾光宏	平成28年6月1日	第18条第3号	学識経験者 (評議員会選任)	
酒井健夫	平成28年6月1日	第18条第3号	学識経験者 (評議員会選任)	
佐藤英明	平成28年6月1日	第18条第3号	学識経験者 (評議員会選任)	
武本成十	平成24年6月1日 (平成28年6月1日)	第18条第3号	学識経験者 (評議員会選任)	理事会選任理事 平成24年6月1日～平成28年5月31日寄附行為第18条第2号評議員
中田祐児	平成28年6月1日	第18条第3号	学識経験者 (評議員会選任)	理事会選任理事
宮島成郎	平成28年6月1日	第18条第3号	学識経験者 (評議員会選任)	
浅利昌男	平成24年6月1日 (平成26年6月25日)	第18条第4号	大学長	兼理事 平成24年6月1日～平成26年6月24日寄附行為第18条第1号評議員
飯田敦往	平成30年4月1日	第18条第5号	高等学校長	

8. 学生・生徒の状況

2018(平成30)年5月1日現在

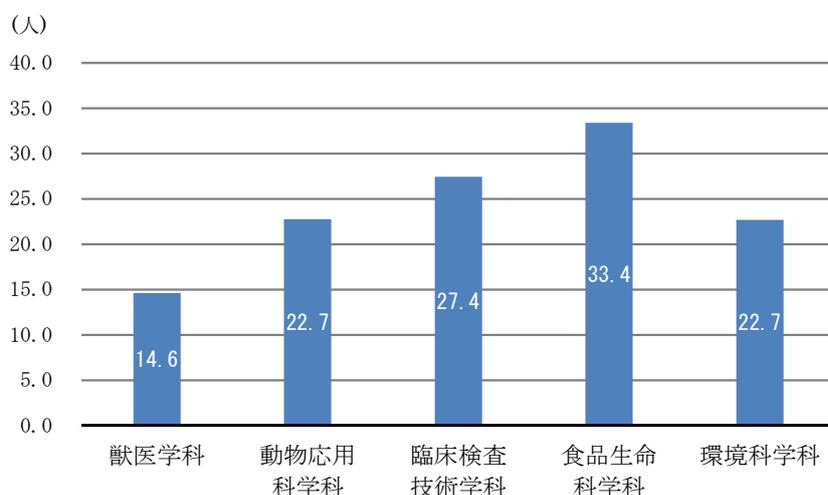
(1) 入学定員, 収容定員, 学生・生徒数, 収容定員充足率

(人)

学部・学科等			入学定員	収容定員	学生・生徒数						収容定員充足率		
					1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次		合計	
学部	獣医学部	獣医学科	120	720	151	150	153	143	144	136	877	121.8%	
		動物応用科学科	130	500	144	176	137	134	—	—	591	118.2%	
		小計	250	1,220	295	326	290	277	144	136	1,468	—	
	生命・環境科学部	臨床検査技術学科	80	320	98	101	92	93	—	—	384	120.0%	
		食品生命科学科	80	320	102	85	85	95	—	—	367	114.7%	
		環境科学科	80	320	90	88	83	79	—	—	340	106.3%	
		学部計	490	2,180	585	600	550	544	144	136	2,559	—	
研究科	獣医学研究科	獣医学専攻博士課程	10	40	8	6	6	8	—	—	28		
		動物応用科学専攻	博士前期課程	20	40	16	14	—	—	—	—	30	
			博士後期課程	4	12	2	2	4	—	—	—	8	
		小計	34	92	26	22	10	8	—	—	66		
	環境保健科学研究科	環境保健科学専攻	博士前期課程	7	14	9	3	—	—	—	—	12	
			博士後期課程	2	6	2	1	0	—	—	—	3	
		小計	9	20	11	4	0	—	—	—	15		
研究科計	43	112	37	26	10	8	—	—	81				
附属高等学校			258	774	267	333	518	—	—	—	1,118		
総合計			791	3,066	889	959	1,078	552	144	136	3,758		

※ 2017(平成29)年度から獣医学部動物応用科学科の入学定員を変更したことから、同学科の2018(平成30)年度の収容定員は次のとおり。収容定員 計500人:1年次130人,2年次130人,3年次120人,4年次120人

(2) 専任教員一人当たりの学生数



1. 獣医学科には附属動物病院所属専任教員, 動物応用科学科には基礎教育系及び附置生物科学総合研究所所属専任教員, 環境科学科には国際コミュニケーション及び教職課程所属専任教員を含む。

2. 学長及び特任教員は除く。

(3) 非正規課程履修者

(人)

区分	獣医学部	生命・環境科学部	獣医学研究科	環境保健学研究科	動物病院	合計
研究生	23	5	0	0	0	28
研修生	1	0	0	0	0	1
研修獣医師	—	—	—	—	58	58
聴講生	1	0	0	0	0	1
科目等履修生	1	0	0	0	0	1
外国人研究生	0	0	0	0	0	0
特別聴講学生(受入)	0	0	0	0	0	0
特別研究学生(受入)	0	0	0	0	0	0
合計	26	5	0	0	58	89

※ 特別聴講学生、特別研究学生として各協定大学大学院研究科に派遣する大学院学生は、両研究科ともになし。

9. 教職員の状況

2018(平成30)年5月1日現在

(1) 大学教員(常勤)

(人)

学部・学科等	学長		教授		准教授		講師		助教		助手		特任教員		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
学長	1	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	
獣医学部	獣医学科	—	—	16	1	13	2	9	6	5	1	0	0	1	0	54
	動物応用科学科	—	—	8	0	6	0	2	3	0	0	0	0	1	0	20
	基礎教育系	—	—	1	0	2	0	3	0	0	0	0	0	0	0	6
	小計	1	0	25	1	21	2	14	9	5	1	0	0	2	0	80
生命・環境科学部	臨床検査技術学科	—	—	5	0	4	2	2	1	0	0	0	0	0	0	14
	食品生命科学科	—	—	3	3	1	0	2	0	1	1	0	0	0	0	11
	環境科学科	—	—	3	0	3	1	4	0	0	0	0	0	0	0	11
	国際コミュニケーション	—	—	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
	教職課程	—	—	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
	寄附講座	—	—	(2)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1(2)
小計	0	0	12(2)	3	8	3	11	1	1	1	0	0	0	1	41(2)	
大学院	獣医学研究科	—	—	(27)	(1)	(20)	(2)	(8)	(4)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(62)
	環境保健学研究科	—	—	(9)	(3)	(4)	(3)	(4)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(23)
	小計	0	0	(36)	(4)	(24)	(5)	(12)	(4)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(85)
附置生物科学総合研究所	—	—	1(2)	0	(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1(3)
附属学術情報センター	—	—	(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(1)
附属動物管理センター	—	—	(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(1)
附属動物病院	—	—	2(2)	0	1	0	2	0	2	0	0	0	6	3	16(2)	
附属教育推進センター	—	—	(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(1)
研究推進・支援本部	—	—	(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(1)
地域連携センター	—	—	0	0	(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(1)
健康管理センター	—	—	(1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	(1)
合計	1	0	40	4	30	5	27	10	8	2	0	0	8	4	139	

- ()は兼務者を表す。ただし、同一部門内兼務者を除く。
- 附属施設の長は兼務者とする。また、副病院長も兼務者とする。

2018(平成30)年5月1日現在

(2) 高等学校教員 (常勤)

(人)

	校長		副校長		教頭		教諭		契約講師		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
附属高等学校	1	0	0	0	1	0	32	12	1	0	47

(3) 職員 (常勤)

(人)

	事務局長		事務局長待遇		事務局次長		部長		課長・事務長 室長・主監	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
麻布大学	(1)	0	1	0	0	1	1	0	10	3
附属高等学校	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
合計	(1)	0	1	0	0	1	1	0	11	3

(人)

	補佐		主査		主任		一般職		契約職員		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
麻布大学	7	0	10	4	12	5	13	6	0	10	83
附属高等学校	0	0	0	1	0	0	1	2	0	0	5
合計	7	0	10	5	12	5	14	8	0	10	88

※ () は兼務者を表す。

常勤教職員

男 205人	女 69人	総合計 274人
--------	-------	----------

※ 常勤教職員の合計欄は、実人数である。

(4) 非常勤教職員

(人)

学部等	非常勤講師	非常勤職員	合計
獣医学部	53	12	65
生命・環境科学部	41	7	48
附属高等学校	31	1	32
事務組織	0	34	34
合計	125	54	179

1. 非常勤講師欄は、獣医学部、生命・環境科学部及び附属高等学校を兼務する者を含む延べ人数である。
2. 非常勤講師には、業務委託による講師を含む。
3. 非常勤職員には、派遣職員を含む。

II 事業の概要

1. 平成 29 年度事業計画の実施状況

学園のミッションと建学の精神を遂行するため、2015（平成 27）年度～2020（平成 32）年度までの第 3 期中期目標・中期計画（以下「中期目標・中期計画」という。）を定め、6つのVISIONを設定し、各 VISIONに基づく重点戦略を具現化させるため、年度ごとに事業計画を策定している。平成 29 年度事業計画（平成 29 年 2 月 28 日開催の理事会及び評議員会で承認）は、2017（平成 29）年度に学園全体として事業を推進するに当たり、学園の中期目標・中期計画を基に、本学園の役員及び教職員が共通の認識に立って学内外ともに明確にしておかなければならない事項を取り上げたもので、その実施状況は、次のとおりである。

決算額・予算額（単位：百万円）

平成 29 年度事業計画	実施状況			
VISION1. 教育・学生支援	決算額	3,032	予算額	3,028
法人の方針である「学生、生徒第一主義」の下、大学の教育研究理念に基づき、学位授与の方針に見合う、質の高い専門性を備えた人材の育成を目指します。				
1. 教育の円滑な実施と質の向上（教育の質保証）				
1) 平成 29 年度実施の大学評価（認証制度）及び獣医学教育評価受審に係る実地調査	平成 29 年度に公益財団法人大学基準協会による大学評価（認証制度）及び獣医学教育評価を受審し、同協会の大学基準に適合しているとの認定を受けた。認定の期間は、2018（平成 30）年 4 月～2025（平成 37）年 3 月までとなる。大学評価（認証評価）において指摘された「努力課題」への対応状況を、「改善勧告」についてはその改善状況を「改善報告書」として取りまとめ、2021（平成 33）年 7 月末までに同協会に提出する。			
(2) 国家試験を有する 2 学科の合格率・教育成果の向上の取組	<p>獣医学科では、国家試験対策として、補講を実施して最終学年の 6 年間の復習をサポートした。結果として、第 69 回獣医師国家試験（平成 29 年度）の本学の合格率（新卒者）は 96.4%（全国平均 96.9%）となり、獣医系 16 大学中最多の合格者を出した。平成 26 年度から継続的に教育成果を評価する指標として、成績表に学年順位を掲載して学生自身及び学資出資者に知らせており、成績の現状把握や経年推移の把握による学生の修学支援に役立てた。</p> <p>臨床検査技術学科では、国家試験対策委員会を中心に学科をあげて取り組み、平成 29 年度の本学の合格率は過去 10 年で最高の 95.9%（全国平均 79.3%）であった。</p>			
(3) 国家試験を有しない 3 学科の教育成果（進級率、就職率、資格の取得など）の向上の取組	食品生命科学科は・環境科学科ともにキャリア演習等の充実を図り、就職支援に取り組んだ。平成 29 年度の実就職率は食品生命科学科が 100%、環境科学科が 93.9%であった。また、動物応用科学科では、動物ジェネラリスト養成のための講義実習等の見直し・充実を図った。			

<p>(4) アセスメントポリシー (内部質保証実施要綱)の策定</p>	<p>内部質保証システムの機能を高めるため、「DP・CP・AP」の3ポリシーの一体的な策定を図り、ホームページで公表している。</p> <p>平成29年度は、教学マネジメントの推進を行う中、各学科において「教育成果を向上させる取組」の実施及び3ポリシー・教育課程の適切性に関する検証を行うこととしたことから、これを優先させ、アセスメントポリシーの策定は次年度に取り組むこととした。</p>
<p>(5) 内部質保証に向けたPDCAサイクルの確立</p>	<p>第3期中期目標・中期計画の着実な履行、PDCAサイクルの実質化、具体的な到達目標・到達時期の明示や複数年度にわたる事業の可視化を行うため、「ロードマップ方式による中期目標・中期計画のPDCAサイクル」を新たに導入し、各事業計画の進捗状況や達成状況を評価、確認した上で、各取組と予算を連携させ、平成30年度事業計画の策定及び予算編成に寄与した。</p> <p>また、広報・IR室において、継続して学内の様々なデータ（入試、学生、教学、研究及び法人に係る情報）の継続的な収集・分析・検証に取り組んだほか、IRプロジェクトの下、前年に続き、「ファクトブック2017」を作成し、IR掲示板により専任教職員に情報提供を行った。</p>
<p>(6) 学生による授業評価</p>	<p>シラバスと授業内容の整合性については学生による授業評価に基づいて確認を行い、その結果を反映し、「グッドティーチング賞」受賞者を決定するなど、FD活動に役立て、大学全体の授業の改善を実施した。</p>
<p>(7) シラバスの有効活用を図り、内部質保証に活用できる制度を構築する</p>	<p>第3者によるシラバスチェック体制としたが、教育改善に繋がる仕組みとしては不十分であるため、平成30年度から学生の意見を速やかに反映できるようWEB授業評価を導入し、シラバスと連携した取組の検討及びFDに活かす運用方法の構築を図った。</p>
<p>(8) 学生の質を高める取組</p>	<p>①在学調査の実施</p> <p>よりきめ細やかな修学指導に繋がるように在学調査項目の見直しを行い、学内にある様々なデータと学籍番号を連結して複数年にわたり収集し、学生の学習時間等の把握も含め、学生がどのような経過をたどり入学から卒業に至ったのかを追跡することで、学生教育の改善に努める仕組みを構築した。</p> <p>②カリキュラムツリー及びカリキュラムマップの作成について</p> <p>教学マネジメントの推進の一環として、教学会議でカリキュラムツリー・カリキュラムマップを作成した上、3ポリシーの検証等、教育課程の適切性を検証し、平成30年3月に「教育成果を向上させる取組」に関する報告会を実施し、各学科毎に報告し教職員の情報共有を図った。獣医学部獣医学科では、30年度から新カリキュラムに移行するため、現行の再確認を行った。獣医学部動物応用科学科ではカリキュ</p>

	<p>ラムマップの整合性の検証・実施・継続的な見直しの実施及びディプロマポリシー・カリキュラムポリシーと科目・科目群（科目区分）の関係性（整合性）の中で学士力との関わりの再評価・再検討を行い、カリキュラムツリーについて検証を継続し、新カリキュラムを31年度にスタートさせるため、継続して見直しを検討した。生命・環境科学部3学科ではカリキュラムマップ、カリキュラムツリーを作成し、現行カリキュラムの検証及びディプロマポリシー・アドミッションポリシーの検証に利用するとともに、学生の履修計画に役立てた。</p> <p>③GPA制度の導入</p> <p>GPAの導入に当たり各学科でメリット（修学モチベーション向上等）、デメリット（各科目・各教員間での評価基準の差異等）について整理し、学生の教育成果と修学支援の指標の方策の一つとして継続して検討した。</p> <p>④履修登録上限単位数設定</p> <p>単位の実質化の観点から、全ての学科において履修登録上限単位数年間50単位未満の設定が完了した。これにより、授業科目の学修の実質化を進め、授業と授業時間外学修の確保による学生の自主的な学修の推進を図った。</p> <p>⑤PROGテストの実施</p> <p>これまで実施していなかった学生のコンピテンシー、リテラシーといった能力を測定し、学生の自己能力把握を行うとともに、そのデータを公開することで各研究室における学生指導に役立てた。また、PROGテストの結果について、平成30年3月に教職員向け解説会を実施し、情報共有を行った。</p>
2. 学生の教育・実習体制の支援・充実	<p>学生が高い専門性と確かな技術が身につけられるよう、各種実習用機器を充実させ、学生の実習・実験への支援を行った。</p>
3. FD活動の推進	
(1) グッドティーチング賞の実施	<p>教員の授業改善への意欲を高めるため、「学生による授業評価」の結果を活用し、学生からの評価の高い授業を表彰する「グッドティーチング賞」を継続実施し、平成26年度及び平成27年度分の受賞者4人を決定した。また、平成29年7月に、表彰式と受賞者による「自身の授業での工夫」についての講演会を開催し、授業の質の向上を図った。</p>
(2) 教育改善プログラムの実施	<p>課題解決型学習、アクティブラーニング、社会人基礎力の習得等の教育開発（FD）に繋がる萌芽的な取組支援として公募を行い、うち1件を採択して新たな授業方式等の開発を行った。</p> <p>また、平成27年度採択課題に係る成果報告会を実施した。</p>

<p>(3) 学科における 3 ポリシーと授業内容を検証し、カリキュラムマネジメントの向上に取り組み、授業改善につなげる</p>	<p>教学マネジメントの推進の一環として、教学会議の下、各学科においてカリキュラムツリー・カリキュラムマップを作成の上、3 ポリシーの検証等、教育課程の適切性を検証し、平成 30 年 3 月に「教育成果を向上させる取組」に関する報告会を実施し、教職員の情報共有を図った。</p>
<p>(4) 非常勤講師を対象とした授業改善講習会の実施</p>	<p>各学科の教育理念・目的に沿った授業実施体制を支援するため、非常勤講師を対象とした授業改善講習会を予定していたが、教職課程再課程認定等業務対応のため、平成 29 年度は実施できなかった。</p>
<p>(5) FD 体制の整備と教員の積極的参加</p>	<p>FD ワーキンググループを設け、在学生調査に係る調査項目を精査し、WEB 授業評価アンケートの実施について検討した結果、在学生調査については今年度から新たな項目で実施し、WEB 授業評価アンケートについては平成 30 年度から実施することとした。</p>
<p>4. 獣医学教育モデルコアカリキュラムへの対応準備</p>	<p>平成 29 年度からの参加型臨床実習開始に伴い、約 2 年をかけて検証し、平成 30 年度入学者を対象としたカリキュラム改正に向けた検討を行い、最終案を作成した。全国の獣医学教育課程の学生が参加する共用試験制度が導入され、本学では 5 年次前期終了時に試験が実施されることになった。また、共用試験、参加型臨床実習を予定どおり実施した。</p>
<p>5. 生命・環境科学部の充実方策</p>	<p>学部の将来構想の抜本的検討を行うため、教育課程の見直しを継続して検討してきたが、具体的な方向は見い出せなかった。社会のニーズを捉え、志願者の安定的確保に向けて将来構想を検討するため、8 月以降、学長の諮問機関として設置された「麻布大学の今後の将来構想に関する検討委員会」が、本件の検討を引き継ぎ、審議を重ね、報告書をまとめ答申することとしている。</p>
<p>6. 大学院教育の充実</p>	<p>コースワークの充実等大学院教育の充実の多面的検討を行った。</p> <p>①両研究科の一元化について継続して検討してきたが、当初の方向性を修正し、研究科活動の充実に繋がる体制を構築し、共通科目の設定と他研究科開講科目の履修を認め、コースワークの充実に取り組んだ。</p> <p>②文系・臨床系に係る大学院教員の資格審査基準の見直しに着手し、両研究科合同の検討ワーキンググループを設置した。臨床系教員の資格審査基準の見直しを実施の上、「麻布大学大学院教員の資格審査基準」の一部改正を行った。</p> <p>③獣医学研究科においては、卒業式及び入学式時に在学生及び新入生アンケートを継続実施し、結果を分析して研究科教授会で共有した上で、教育成果について定期的に検証を行い、教育方法や学習指導の改善に活用した。</p> <p>④環境保健学研究科においては、専門社会調査士取得をカリキュラムに入れ、本格稼働した。</p>

7. 学生の修学支援・生活支援体制の充実（入学から卒業・就職までの一貫した学生支援体制の構築の検討）

(1) 修学支援

①各学部学生指導委員会を中心としたきめ細かな修学支援の実施及び指導方針の検証

前期・後期ともに授業 5 回及び 10 回終了時に学生の出席状況を調査し、欠席の多い学生に対する指導を実施した。

また、前期科目成績確定時に進級が危ぶまれる学生を対象にクラス担任による個別指導を実施し、学生が自身の状況を把握できるようにし、自ら学ぶ意識付けを行った。指導対象とする学生の抽出に当たっては、平成 28 年度の進級結果から留年懸念者の抽出条件の適切性を検証し、その結果を平成 29 年度の指導内容に反映することで改善に繋げた。

②正規授業とリメディアル教育が連携した授業の実施

教育推進センターにおいて、以下の学科特化型リメディアル教育を実施した。

- ・獣医学科（生物学入門，化学入門，生態学）
- ・動物応用科学科（生物学入門，化学入門，生態学）
- ・臨床検査技術学科（基礎教育科学演習）
- ・環境科学科（基礎化学，基礎数学，基礎生物学，基礎科学演習，化学，環境生態学）

(2) 生活支援

①学生相談，経済的支援等，学生生活に係る支援及び体制の整備

- ・メンタルヘルス相談室による学生サポートを継続した。
- ・経済的支援については，大学奨学金として平成 29 年度 4 件の貸与を行った。
- ・聴覚に障がいをもった学生に対し，ノートテイク（口述筆記者）によるノートテイク（口述筆記）を用いた受講支援のほか，教員の協力を得て講義でのプロジェクター使用，資料配付，定期試験での席配置等の配慮を行った。また，講習会を開催し，全課程修了者には修了証を発行し，ノートテイクの養成を行った。
- ・障がいを持つ学生の学習環境の改善のため，平成 30 年 2 月に障がいを持つ学生を対象としたアンケートを実施し，支援内容や施設整備に関する意見や要望を確認した。
- ・新入生の修学及び学生生活の支援のため，新入生対象の先輩学生による学生相談会を平成 30 年度からの実施に向けて検討した。

②大学祭等の学生行事，課外活動等，学生活動に係る協力・支援

平成 28 年度から継続して大学祭準備の作業場としてコンテナハウスの借用料を補助した。

③学生の福利厚生及び設備等の整備，充実

平成 29 年 7 月に，学部学生の研究活動に係る費用を助成したほか，平成 30 年 2 月に器具等の修繕を実施した。

	<p>④父母会運営の円滑な実施</p> <p>定期総会，地区懇談会等を開催して意見や要望を伺い，保護者への成績通知を年2回に増やす等，教育サービスの一層の充実を図った。</p>
<p>8. キャリア教育・就職支援の強化と充実</p>	
<p>(1) 就職活動支援体制の充実</p>	<p>就職活動スケジュールの変更や学生の就職活動及び企業の採用活動の多様化に伴う様々な問題に対応するため，以下のとおり進路選択に関わる指導・ガイダンスを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路選択に関わる指導・ガイダンスを，年度初めの4月に実施した。就職活動を始める1年前にあたる学部3年次（獣医学科では5年次）のガイダンスでは，本学で独自に編集した就職活動ガイドブックを配布し，併せて，学生が生涯を通じて自らの資質の向上を目指すよう，同時にキャリア形成支援講座を開催した。 ・進路への実践的アプローチとして，5月上旬から6月下旬にかけて就職活動対策講座（業界・企業研究，ビジネスマナー，文章力養成，採用試験対策，SPI対策），9月下旬から12月上旬にかけて就職活動実践講座（企業へのアプローチ，人事の視点を知る，自己PR作成，面接対策，志望動機作成，履歴書・自己紹介書作成対策，小論文・エントリーシート作成対策，文章力強化等）を開催した。 ・11月下旬から3月上旬に開催する就職活動実習において，面接対策実習，グループディスカッション対策実習，模擬面接会を開催した。 ・3月上旬から下旬にかけて開催する公務員対策集中講座においては，公務員ガイダンス及び科目別試験対策を行い，最後に公務員全国公開模擬試験を行った。 ・就職説明会として，合同地方自治体（公務員）説明会，合同企業説明会，合同企業面接会，合同NOSAI説明会，合同動物病院説明会を開催した。 ・関連特別講座として，リクルートスーツセミナー，メイクアップレッスン，毎年多くの学生が就職先として選ぶ業界の企業による業界（製薬・食品・治験ほか）研究セミナーを開催した。 ・就職情報会社及び本学の学びが活かせる採用実績企業等と密な情報交換を行い，企業側の採用活動の現状や就職活動のポイントや求める人材を理解し，キャリア・就職支援ガイダンスや就職相談等で情報提供を行った。 ・就職に向けた企業や各施設等の訪問も随時行い，学生の雇用機会を広げるための活動にも力を入れた。

<p>(2) 就職相談員の増員等による個別相談の拡充，ハローワーク相模原との連携により未内定学生の就労支援を行うなど，体制の強化</p>	<p>従来からの「Face to Face の支援」を更に充実させるため，以下のとおり体制強化を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職個別相談は，就職相談室において，将来の自分の進路に関することや，就職に関する様々な学生の個別相談に対応し，進路についての考え方，業種の選択，自己PRの方法，提出書類，OB・OG 訪問，企業との連絡方法等についての指導，相談を行ったほか，企業等に提出する履歴書，エントリーシートといった書類の添削指導を実施した。 ・就職相談室の予約状況を鑑み，繁忙期にあっては相談時間外及び各担当者の担当曜日以外についても柔軟な対応を行い，就職指導体制の強化を図った。 ・ハローワーク相模原と連携して未内定学生の就労支援を行うなど，体制の強化を図った。
<p>(3) キャリア教育の充実 （正課内授業における社会的・職業的自立に関する内容を含めたキャリア教育の取組提案，正課外における新たなキャリア形成支援プログラムの取組及び将来的な正課教育と連動した総合的なプログラム作成）</p>	<p>平成 27 年度にキャリア・就職支援対策委員会で取りまとめを行ったキャリア教育への対応について，各学科の正課内授業で対応しているものと正課外で対応しているものに分け，7つのキャリア教育の要件を定め，その対応状況について，各学部長・各研究科長・教務委員長に現状報告し，確認を行った。</p> <p>現行のキャリア教育については，各学科とも正課内の授業で実施されているところであるが，正課外においても，教員と連携の上，職業観の涵養等，正課内では困難なプログラムを精査の上，実施した。</p> <p>キャリア形成については，女性獣医師の就業を支援するための獣医学生向けのセミナー，ライフキャリアセミナー及び企業人事担当者とのパネルディスカッション等のセミナーを開催するとともに，各学科 1 年次学生に対して，自分の可能性を探り，積極的な学生生活と意欲的なキャリアデザインを描くための職業適性検査を開催した。</p> <p>また，主に就職を控えた学生を対象にした労働法制に関するセミナーや，起業家の創出・育成に向けた取組として，起業支援セミナーを 3 月に開催した。</p>
<p>(4) インターンシップ情報提供の充実</p>	<p>求人票送付の際及び企業訪問時に，本学の学びに関連した企業のインターンシップ情報を収集し，学生に豊富な情報提供を行った。</p>
<p>9. 学生の海外研修の推進</p>	<p>協定校との海外派遣・受入，国際交流活動に対する取組の見直し及び学生海外研修における安全対策推進を行った。</p> <p>獣医学科の教員，学部学生が中心となって既存の国際交流協定先との交流は従来どおり継続して実施し，他学科での交流も推進した。研修先の拡充については，各学部，各学科の事情も考慮し，対応を検討した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年度より最大 14 人派遣していたペンシルヴァニア大学への派遣学生数を，先方からの要望に基づき，最大 8 人へ減員した。

	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年度からこれまで夏期短期海外研修学生が受講するオンライン英会話、「レアジョブ英会話」の 2 か月間受講料を半額補助し、英会話力向上の支援を行った。 ・平成 29 年度から夏期短期海外研修学生、海外出張助成事業における海外出張者に対し、危機管理サービス「安心サポートデスク」利用料を負担し、海外研修時への危機管理対策を推進した。 ・平成 29 年 10 月に全南大(大韓民国)の大学院生と本学獣医学研究科大学院生の交流について、協定書を締結した。 ・夏期短期海外研修に参加経験のある学生を対象に、台湾の大学への派遣希望者数が少ないことの背景を調査するためアンケートを実施し、見直しを図った。 ・ベルン大学と動物応用科学科との交流を開始するため、同学科教員を引率者としてベルン大学に派遣した。その結果、先方の獣医学部長からベルン応用科学大学の紹介を受け、同大学は、次年度、本学の学生を受け入れることについて了承した。 ・平成 27 年度以降、学生の派遣実績がなかった国立台湾大学に、相互交流の維持及び研修プログラムの改善に向けての交渉を目的として、平成 29 年 2 月末に教職員を現地に派遣し、視察を行った。
<p>10. 学生の表彰制度の充実</p>	<p>越智賞，増井光子賞，古泉賞，学業成績優秀者等の表彰制度の充実を図り，越智賞 5 人，日本獣医師会優等卒業生 1 人，日臨技学生表彰会長賞 1 人，増井光子賞 4 人，古泉賞 6 人，学業成績優秀者 61 人(学年始め)，19 人(卒業認定時)，学生功労賞（個人 5 人 3 団体）を表彰した。</p>
<p>11. 学生募集のための広報活動の効果的実施</p>	
<p>(1) 戦略的な学生募集広報の実現に向けたマーケティング調査実施</p>	<p>学生募集における効果的な広報活動の展開及び広報経費の見直し（効率的な執行）を図るため，コンサルティング会社の支援の下，戦略的な学生募集広報の実現に向けて，過年度の実績等を含めて定量的に検証しながら取り組んだ。</p> <p>コンサルティング会社による伴走支援により，過年度実績とのデータ検証を行いながら，広報活動に追加の広告展開を行うほか，更なる効果向上のため，広報動画の作成に着手した。</p>
<p>(2) 学生募集活動及び広報活動強化</p>	<p>教職員が協力し，以下のとおり取り組んだ。</p> <p>①首都圏を中心とした高校訪問の強化及び関東エリアで開催する高校内進路相談会，高校内模擬授業や全国規模の相談会等への積極的参加により，高校生及び高校教諭への認知度向上を行った。</p> <p>②オープンキャンパス等の学内イベントのほか，高校教員を対象とした大学説明会及び理科実験技術研修会の実施により，教員と高校教諭との良好な関係の構築を図った。</p>

	<p>③大学の情報発信強化及び受験生への訴求力向上のため、平成 29 年 4 月からのホームページのリニューアルに取り組み、受験生向けのサイトの先行公開・各種媒体等を通じた広報活動を行った。</p> <p>④広報活動の重要性と教職員の役割についての理解を深めるための SD 研修会を開催した。</p>
<p>12. 入学試験制度変更及びインターネット出願導入に伴う入学試験関係システムの改定、入学試験日程の見直し及び検定料の見直し</p>	<p>入学試験制度の変更及びインターネット出願導入に伴う入試管理システム、願書受付システムの整備を以下のとおり実施した。</p> <p>①平成 29 年度上半期中に入学試験制度の変更及び Web 出願導入に伴う入学試験関係システムの改定、入学試験日程の見直し(従来 of 生命・環境科学部の C 日程を廃止し、新たにⅡ期入試の導入)及び検定料の見直し(一般入学試験及びセンター試験の受験料割引制度の導入)を行った。さらに、一般入学試験の地方試験会場に広島会場を新設し、生命・環境科学部においても獣医学部と同様に本学を含む全 7 会場で実施するよう変更した。</p> <p>②前述の入学試験制度の変更及び Web 出願導入に伴う「入試管理システム」「願書受付システム」の変更・追加、整備は上半期のうちに整備を終了し、10 月から行われる推薦入学試験等に対応した。</p> <p>③平成 30 年度入試から導入した Web 出願システムについては、A0 入学試験及び推薦等入学試験において、特段問題なく運用でき、出願時等においても、本学及び学外のコールセンターに志願者からの問合せはほぼ見られなかった。また、Web による合否照会とともに、合格者の入学手続において、「合格通知書兼振込用紙」を受験者がダウンロードし、各自で印刷の上、銀行の窓口で振込手続きができるシステムを構築した。これにより、これまで郵送していた「合格通知書」の郵送料が削減でき、合格発表当日に入学手続を完了することが可能となった。一般入試(第Ⅰ期・第Ⅱ期)及びセンター利用入試においては、入学者の早期確保が期待できるシステムであり、このような「合格通知書」のデータによる提供は、全国に先駆けて本学がリーディングケースとなった。</p>
<p>13. 高大接続改革実行プランの施行に伴う大学教育改革、入学者選抜改革の検討及び入学前・入学時修学指導の充実</p>	<p>(1)「大学入学者選抜実施要項」の見直しに係る予告通知に伴う本学の入学者選抜方法等の予告・公表に向けた検討</p> <p>①文部科学省からの通知を受けて、平成 29 年度教学会議において、全学的な方針を決定するとともに、教職員協働で取り組むこととした。</p> <p>②高大接続改革に関わる SD 研修会を開催し、今後、本学が対応すべき入学試験改革及びカリキュラム改革について研修を実施した。</p>

<p>(2) 学科が中心となり、推薦等入学予定者への入学前説明会を実施（平成 29 年 12 月から平成 30 年 1 月）し、学生の意識改革を図る</p>	<p>学科が中心となり、推薦等入学予定者に対してレポート課題(平成 30 年 1 月から 3 月：全 3 回)、基礎学力テスト、学科説明会（1 回）のほか、教育推進センターのチューターによる補習授業(平成 30 年 3 月)を実施した。</p>
<p>(3) 各学科の目的に沿った各学科の推薦等入学予定者（附属高校特別入試合格者含む）を対象とした基礎系科目を中心とした入学前教育の実施</p>	<p>【各学科入学前教育実施状況】</p> <p>①獣医学科 入学前準備教育の課題として一般新聞紙上から任意でテーマを選択し、記事内容についてのレポートの提出を実施した。</p> <p>②動物応用科学科，臨床検査技術学科，食品生命科学科及び環境科学科 入学前準備教育として入学予定者及び父母への説明会を実施し、学科の概要，カリキュラムやリメディアル教育，入学前教育についての説明や，在学者による大学生生活の紹介を行い，課題の提出等を実施した。</p>
<p>(4) 入学時オリエンテーションにおいて，入学時修学指導を実施し，学生の動機付け，導入教育を充実する</p>	<p>①入学式後，4 日をかけて入学時修学指導及び学生生活指導を実施し，学生生活の啓発を実施した。</p> <p>②平成 29 年度から入学式後に全体オリエンテーションを実施し，授業日数の確保を推進した。</p> <p>③部局長連絡会議において出席状況等を報告し，新入生からのアンケートを基に改善を検討した。</p>
<p>14. 高大一貫教育の推進</p>	
<p>(1) 附属高等学校と連携し，高大一貫教育推進</p>	<p>「高大一貫学部概論 A・B」を開講し（86 人受講），博物館や LAVEC 施設等の見学を行った。また，チューターによる，各学部における実習施設や実験機材を用いた体験学習を行った。そのほか，「夏休み研究室体験」を実施し，28 人が参加した。</p>
<p>(2) 多角的観点からの再考や各学科の魅力が伝わる工夫について，附属高等学校教員と大学の各学科長との意見交換等による附属高等学校と共同企画及び PDCA サイクルによる改善</p>	<p>「高大一貫授業学部概論 A・B」のアンケート集計結果を踏まえて，各学科の研究室見学の実施回数見直し，教員との懇談会の実施や入学前共通授業の充実等に取り組み，平成 30 年度高大一貫授業計画に反映させた。</p>
<p>15. 学術情報センターの機能の充実</p>	
<p>(1) 図書館機能の充実</p>	<p>①麻布大学附属学術情報センター収書方針に基づき，定期的な選書を実施し，教育・学習・研究のための図書を拡充し体系的な蔵書を維持するとともに，更なる資料の充実へ向けて，「麻布大学定期購読雑誌スポンサー制度」を導入及び「麻布大学ワンだふる本募金」を開始した。</p>

	<p>②平成 30 年の電子ジャーナル，データベース等を効率的・効果的に提供するため，各種コンソーシアム説明会に参加して最新情報を入手し，契約更新を行った。</p> <p>③獣医学史料の適切な保管環境を維持するため，害虫の侵入状況調査を実施し，今後へ向けて保管計画策定のための準備を行った。</p> <p>④学術情報センターを建て直す計画があり，建物の改修，レイアウト変更等の予算確保が困難なため，配分された予算をできるだけ節約し，利用環境の小さな改善を積み重ねた。</p> <p>⑤アクティブラーニングエリアを拡張し，PCを利用しながら学習できる閲覧席を設置した。</p>
(2) 情報システム機能の維持拡充	<p>①メディアステーション及び 8602PC・LL 教室リプレイス事業において，利用者アンケートを実施して改善点を洗い出し，プリンタの高速化とポイント制への移行，広いスペースで仕切りのある PC デスクの新設，A3 対応スキャナの予約制の導入等，利用者サービス向上に繋がる効果的なリプレイスを実現した。また，8602PC・LL 教室の床の改修工事では，フリーアクセス床の強度・耐久性を検討した上で仕様を決定した。また，リプレイスがスムーズに実施できるスケジュール管理の下，予定どおり工事を完了した。</p> <p>②E ラーニング・国家試験の新サービス移行事業においては，前期に各システムベンダーのデモを実施し，各システムの長所と本学の要求がマッチするようなシステム選定を実施できるよう準備を推進し，11月に導入システムを決定して新システムの構築とデータ移行を進めた。</p>
16. 動物病院の円滑な運営と充実	<p>①動物病院支援に関するワーキンググループにおいて指摘のあった，各種問題点（施設設備の拡充と改善・労働環境の改善・人員増員・確保）等の改善を図るべく，動物病院改革プロジェクトを発足して対応に努めた。</p> <p>②小動物及び産業動物の各診療部において参加型臨床実習を行った。</p> <p>③紙媒体のカルテから，新しい電子カルテシステムへの移行を行った。</p> <p>④耐用年数を超えた医療用機器備品の整備に努めた。</p> <p>⑤日本盲導犬協会との連携協力に関する包括協定書について，動物病院単独の協定でないこと及び今後の実習等での盲導犬の有効活用を考慮し，継続することとした。</p>
17. 動物管理センターの円滑な運営と充実	<p>センターの維持管理のため利用者負担について検討を進め，項目（豚舎利用料金，鶏舎利用料金，小動物飼育施設利用料金，仮設小動物舎利用料金，動物火葬処理料金，発酵堆肥代，豚用飼料利用料金）の新規設定及び一部改定を行い，平成 30 年 4 月から実施することとした。</p>
18. 大学行事等の円滑な運営	<p>例年どおり入学式，卒業式等，各種学内行事への対応を行った。なお，卒業式の時間短縮のため，平成 29 年度卒業式において，クラス担任による卒業生氏名の読み上げを廃止した。</p>

VISION2. 学術研究		決算額	463	予算額	445
<p>本学の教育研究者の特性に応じて、各教育研究者の能力が発揮されるよう、必要な学術研究支援体制の充実及び研究倫理の醸成に努めていくことを目指します。</p>					
<p>1. 研究における特徴・個性の顕在化を図る</p>					
(1) 私立大学研究ブランディング事業の推進	<p>「動物共生科学の創生による、ヒト健康社会の実現」というプラットフォームを基に、両学部教員に加え、教職課程、基礎教育系教員も研究代表者となった 14 プロジェクトを選定し、大学が一丸となって本事業に取り組むための学内横断型の枠組みを構築した。また、9 月には中間評価として当該年度の研究計画に対し、その進捗状況、必要な場合は改善策、広報活動状況等を精査し、全体の動向の把握に努めた。平成 30 年 4 月に外部委員による当該年度の報告評価会を行う予定である。</p>				
(2) 私学事業団学術研究振興資金事業の推進	<p>事業団による審査の結果、トップで採択された「課題名：動物疾患のマイクロバイオーム研究の基盤形成」の最終年度の研究に取り組んだ。</p>				
<p>2. 外部資金獲得の推進</p>					
(1) 外部資金獲得の推進	<p>研究の全学的方針である中期研究大綱の「地球共生系（One Health）」の概念の下、「人と動物と環境の共生」に係る特性を一層伸展させ、研究活動・成果を継続的に発信し、麻布大学ブランドの構築を目指すべく、学内の研究ネットワークの構築を支援する学内競争的資金や、科研費の採択を目指す研究者をバックアップする学内競争的資金を創設した。</p>				
(2) 研究活動の支援・充実	<p>科学研究費補助金申請率 100%及び獲得を目指し、外部資金獲得及び知財産学連携推進を目的としたセミナーを企画し実施した。特に平成 28、29 年度は、本学教員が講師を務めた外部資金獲得セミナーを開催し好評を得た。また、平成 29 年度は、本学としては初めて日本学術振興会から課長級の講師を招いた科研費改革に係る説明会を実施し、多くの教員が参加した。科研費申請率では、申請義務者 1 人を除く 99.1%となり、ほぼ目標を達成した。</p>				
(3) 科研費採択件数	<p>科研費採択件数（新規+継続）は、H27：43 件、H28：43 件、H29：47 件と順調に推移している。</p> <p>論文数（scopus+CiNii より）も H27～H29 512 件（平成 30 年 2 月 1 日時点）、H24～H26 586 件、H21～H23 615 件と一定の件数で投稿されていることから、外部資金獲得の推進及び学内競争的資金の効果的な活用が研究業績に貢献している。</p>				
3. 学内競争的資金の効果的活用（「2. 外部資金獲得の推進」との関連）	<p>①若手研究者育成のための学内競争的資金（パーソナル型、プロジェクト型）を企画・公募・運営した。</p> <p>②本学発の知財の展開と活用に積極的に取り組み、社会貢献に寄与する研究者をバックアップするための学内競争的資金の企画・公募・運営を行った。</p>				

	<p>③研究職を目指す大学院学生への意識改革と研究費をサポートする「学生分」を、学内競争的資金として企画・公募・運営した。</p> <p>(以上の結果による科研費採択件数・論文数等については2(3)を参照)</p>
4. 知的資産の蓄積及び活用と産学官連携の推進	<p>知的資産の蓄積及び活用と産学官連携の推進においては、知的資産ポリシーに基づく社会貢献（研究成果の社会的普及、産学官連携・共同研究の推進、研究成果の発展・深化の支援）を継続し、ライセンス活動も順調に推移している。</p>
5. 研究倫理教育の実施	<p>適切な倫理観に基づく研究活動を行うため、平成 26 年度から、現在の APRIN の前身である CITIjapan プログラムを採用し、全教員、競争的資金業務に係る職員、大学院学生全員に受講を義務づけているほか、毎年新規採用された教員及び新大学院学生に対しては、年度ごとに e-ラーニングの受講を徹底している。</p> <p>また、毎年 APRIN (CITIjapan) からセミナー講師を招き、研究倫理教育の徹底と浸透を図っている。研究倫理セミナーの参加者数は、平成 29 年度平均で 69 人（第 1 回 91 人、第 2 回 46 人）である。</p>
6. 競争的資金の適正管理の実施	<p>教職員の法令遵守意識の向上、不正使用防止等、適正な管理運営に資する体制を維持するため、競争的資金採択者は物品購買システム（オフサイド）の利用を義務づけ、公明正大な運用を実施した。</p>
7. 生物科学総合研究所等の研究活動拠点としての機能の充実と安全性の確保	<p>①国の指針等（動物愛護法、飼養保管基準、動物実験等基本指針、カルタヘナ議定書）に則り、動物愛護・福祉面、安全面、衛生面に留意して研究活動拠点としての機能の充実と安全性の確保に取り組んだ。特に利用者並びに飼育動物の健康面と安全管理に配慮し、施設竣工当初から使用されてきた旧式飼育ラック（FRP 製、排気能力の著しく低下したステンレス製）の入れ替えを平成 32 年度までに完了するよう段階的に進めている。</p> <p>②カルタヘナ法に準拠した逃亡防止飼育ケージの整備を平成 28 年度に引き続き実施した。</p> <p>③感染エリアの拡散防止対策として、安全キャビネット・オートクレーブを更新し、感染エリアでの安全な実験環境を整備した。</p> <p>④施設 1 階部分にあるラジオアイソトープ (RI) 実験エリア内に併設されていた遺伝子組換え実験エリア（非 RI）は RI 実験エリアと分離して再整備を進め、平成 30 年度からの利用に供することを可能とした。</p> <p>⑤感染エリアの拡散防止対策では、BSL2 レベルの病原体を用いた動物感染実験を、教員や学生が安全に実施できるよう、老朽化した設備を更新するため、2 部屋分の安全キャビネットやオートクレーブのリプレイスを進めた。</p> <p>⑥カルタヘナ法に準拠した飼育環境整備では、昨今、遺伝子組換えマウスが主流となったことから、平成 28 年度に逃亡防止機能付きケージの整備をしたが、絶対数が不足しており、平成 29 年度にも当該ケ</p>

	<p>ジの整備を進めた。しかし、主流となっている遺伝子組換え動物が現在約 1150 匹と大量飼育されていることから、国の定める第二種拡散防止措置を徹底するためには、引き続き同レベルのケージ整備が必要となる。衛生環境を保つために定期的な洗浄や劣化による都度の更新が必要となり、衛生対応の観点から洗浄後の乾燥まで使用できないことを考慮すると、現在本学のケージにおけるカルタヘナ対策としてはまだ30%の整備段階といえる。また、当該ケージは従来の狭小ケージよりも一回り大型であるため、当該ケージを格納するサイズのラックも現時点で不足しており、こちらも段階的に適切な整備を進めて行く。なお、今後は遺伝子改変ラットの利用も想定されることから、状況を見ながら検討していく。</p> <p>⑦利用者の健康面、安全面の観点から、施設竣工当初から使用されてきた旧式飼育ラック（FRP 製又は排気能力の著しく低下したステンレス製）の継続使用は教育機関としても適切ではないと判断し、経常費の範囲内で一部入替を実施した。</p>
<p>8. 研究活動の支援・充実</p>	<p>外部資金の獲得及び学内競争的資金の効果的活用の支援に取り組み、2(3)に示す科研費採択件数、論文数の研究業績に貢献した。</p>
<p>9. (仮称) ピッグ・リサーチセンター構想の推進</p>	<p>当初は法人からの検討要請の方針が「収益事業」としての位置づけであったが、本学の強みや特色を活かし、人材育成等の社会貢献を果たすためには教学との連携が必要不可欠であることから、平成 28 年度には法人から学長に対して協力要請があり、学長の下に当該事業構想を検討するワーキンググループ（以下「WG」という。）が設置された。以後、全体会 WG、小 WG を開催して意見交換等を重ね、平成 29 年 9 月末に学長に対して答申案を提出した。</p> <p>実施予定施設である 7 号館 1 階は、参加型獣医臨床実習との共用利用であるため、獣医学部内における当該実習の基本利用方針等の決定を受けて検討する必要があった。当該 WG としては、その仕様や運用決定を待ってから、設備等の検討に入らざるを得なかったこともあり、平成 29 年度前期の段階で、参加型臨床実習を実施するために必要な最低限の整備にとどまった。</p> <p>11 月には学長に対して WG 答申案を提出したが、本事業については、検討開始当初から外部環境も変化し、連携企業も変わる中、事業推進のための施設・設備の整備に係る投資額、その後の必要経費、利用計画等を勘案し、収支予測における採算性が見込みが不十分であることから、これ以上進めないこととして、当月の理事会において、本事業構想案は否決となった。</p>

VISION 3. 社会連携	決算額	13	予算額	13
大学の教育研究理念に基づき、獣医療・人の健康・環境分析における教育研究成果を広く社会に還元することを目指します。				
1. 卒後教育の推進	<p>①獣医学，畜産学，動物応用科学，環境衛生，食品分野等関連領域に関する学術の向上と卒業生の学び直し及び会員相互の親睦を図ることを目的とする「麻布獣医学会」及び「麻布環境科学研究会」を開催し，特別講演として市民にも開放することによって地域社会への情報発信を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・麻布獣医学会は，第 92 回大会を平成 29 年 9 月 23 日に千葉県で開催し，3 人が表彰された。また，原則学外で開催する最後の大会となった。市民公開講座では，鴨川シーワールド獣医師による「海獣と共に暮らす」をテーマとして開催し，卒業生に加え，地域住民の出席も多く，卒後教育と社会貢献に供することができた。（平成 29 年度参加者数 144 人） ・麻布環境科学研究会は，第 37 回大会を平成 29 年 11 月 3 日に本学で開催し，3 人が表彰された。市民公開講座のメインテーマ「おいしく食べて，いきいき長寿～健康寿命と食のかかわり」に沿った 3 つの講演を計画し，在学生のみならず，多くの地域住民等が参加した。（平成 29 年度参加者数 295 人） ・平成 29 年度において，上記 2 つの学会の統合について検討した結果，両会は統合せずに別々の開催とするが，経費面や教学面を考慮して交互に隔年開催することとし，開催場所も原則本学とすることとした。 <p>②専科研修医，本学動物病院と関係のある東京・神奈川の開業獣医師を対象として，「小動物臨床セミナー」を 7 回開催し（延べ参加者 382 人），研修医の教育及び附属動物病院の広報活動等，卒後教育の推進を図った。</p> <p>③卒後教育等，卒業生に対するサービス機能の強化のため，両学部の特徴を引き出すテーマ及び地方会場の選定を含め，学長補佐（広報担当）及び両学部長を中心に検討し，教育セミナーを実施した。教育セミナー（卒後教育セミナーを含む。）においては，平成 28 年度までは獣医・動物系を中心としていたが，平成 29 年度は当初の目的である獣医学，畜産学，動物応用科学，環境衛生，食品分野等の広範囲の関連領域をテーマとしたセミナーを実施した。（平成 29 年度参加者 82 人）</p>			
2. 地域交流の活性化	<p>①包括連携協定に基づき，相模原市との麻布大学との教育課程の編成に関する懇談会を実施した。（平成 29 年 10 月 23 日）</p> <p>②市民大学の共催を行った。（平成 29 年度 獣医学科教員による講座 参加者 20 人，臨床検査技術学科教員による講座 参加者 39 人）</p>			

	<p>③「さがまちカレッジ」を実施し、さがまちコンソーシアムへの協力を行った。（平成 29 年度 4 回実施 のべ参加者 71 組）</p> <p>④生涯学習講座「～シニアライフを生き活きと～」を実施した。（参加者 30 人）</p> <p>⑤さがまちコンソーシアム・ オーサーズカフェに講師を派遣し、講演を行った。（「人と羊のさまざまな関わり」講師：田中智夫教授）</p> <p>⑥そのほか、中央区みらい協働プロジェクト、大野北地区まちづくり協議会等への出席や、大野北地区コミュニティバス利用促進協議会へのいのちの博物館 2 階セミナーの提供等、協定自治体等との連携を強化し、近隣地域との親睦を深め、地域交流の活性化を図った。</p>					
<p>3. いのちの博物館機能の整備と充実</p>	<p>①夏休み子ども教室「博物館で骨を学ぼう！～タヌキの骨とサルの骨～」を開催し、大学で行っている研究の紹介として企画展示を実施し、好評を博した。さらに、町田市のこどもセンター「ただON」への出張セミナー（さがまちカレッジ）を通し、大学と地域との連携を進めた。入館者アンケートではリピーターも多く、好評であった。</p> <p>②近隣の小中学校に学習教材（標本類）の貸出を行った。</p> <p>③さがまちコンソーシアム・オーサーズカフェに学芸員を派遣し、講演を行った。（「麻布大学いのちの博物館の楽しみ方」講師：高槻成紀 上席学芸員）</p> <p>④企画展示を開催した。一部企画については、好評のため、当初の展示期間を延長した。</p> <p>【平成 29 年度企画展示実績】</p> <p>H29. 3. 7～H29. 6. 30 「動物の病気」</p> <p>H29. 7. 4～H29. 10. 28 「フクロウが運んできたもの」</p> <p>H. 29. 10. 31～H. 30. 2. 10 「シカの角のふしぎ」</p> <p>H30. 2. 13～「あざおねって何？」</p> <p>⑤平成 29 年度の入館者総数は、6,060 人であった。</p>					
<table border="1"> <tr> <td>VISION4. 高等学校</td> <td>決算額</td> <td>762</td> <td>予算額</td> <td>738</td> </tr> </table>		VISION4. 高等学校	決算額	762	予算額	738
VISION4. 高等学校	決算額	762	予算額	738		
<p>法人の方針である「学生・生徒第一主義」の下、高等学校の教育理念に基づき、高等学校の教育方針に合う、生徒自身の未来を拓く力を育む人材の育成を目指します。</p>						
<p>1. 高等学校運営の円滑な推進及び高等学校教育の充実と進学率の向上</p>	<p>①高学力の生徒を安定的に獲得するための最重要事項として、進学率の質・量の向上を掲げ、教務部、進路指導部の強化及び学年主任・担任の進路研究研修等バックアップ体制の強化を実施した。また、入学者数の調整や教育の質保証等を考慮し、今後の教員体制及び採用を検討した。</p> <p>②進学率の質・量の向上を目指す取組を次のとおり継続して実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別教育，土曜講座，7 限セミナー ・1 学年全クラスでの「自学自習時間」 ・夏期集中講座 					

	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験の円滑運用及び生徒への意識付け ・予鈴行動の推進 ・勉強合宿 ・夏期短期留学プログラム ・1week 1exercise の推進 ・全校朝テスト ・校務システム (Siems) の有効活用と運用 ・学力テスト (全国統一模擬試験) ・生徒向け各種進路説明会の企画・実施 ・保護者対象進路説明会 ・大学入試合否判定システム (ベネッセ, 河合塾)
2. 教員の資質向上のための研修の充実	<p>教育力, 学校運営の向上のため, 次のとおり教科研修やクラス運営, 分掌等の研修に取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業公開の実施 (後期から実施) ・教員の資質向上に関する取組の実施 ・初任者研修, 十年目研修 ・免許状更新に対する計画及び対応 ・独立行政法人教職員支援機構への派遣 ・他校との情報交換会の実施 ・各教科での研究授業の実施
3. 高大接続改革実行プラン施行に伴う生徒の主体的・協動的な学習	<p>公開授業の実施, 週 2 回の全校朝テスト, 授業評価の推進, 学力別授業の検討, 電子黒板や iPad での授業展開による「思考力」「判断力」「表現力」を問う問題対応, 土曜日授業の 2019 年度 (平成 31 年度) 実施に向けての準備等を行った。</p>
4. 高大一貫教育の推進	(略) (VISION1 参照)
5. 生徒の厚生補導の充実	<p>昨年度に引き続き, 学校行事 (式典・体育祭・文化祭・球技大会・芸術鑑賞会・修学旅行・社会見学・部活動・社会科見学等) の充実を行った。また, 移動通信機器の取扱いについて検討し, 学校行事等において一部試行した。</p>
6. 生徒募集活動の充実と入学定員の適正管理	<p>①生徒募集活動の充実</p> <p>戦略的エリアの設定と広報戦術の改善のため, データ解析の強化, 説明会・相談会の面談者データの蓄積を図り, 精度の高い情報収集を行った。また, 学生生徒募集のため, 次のような広報活動を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入試委員会での入試対策の確立 ・卒業予定者 (中学 3 年生) 及び保護者を対象とした学校説明会の充実 ・管理職・教員による中学校・塾訪問の実施 ・塾対象説明会の実施 ・各説明会への積極的参加 ・個別相談の実施

	<p>②入学定員の適正管理</p> <p>入学者数については、入試データ分析により、各入試種別・評定値別等細部にわたる分析を行い、基準等の見直しを実施し、更なる適正化を図った。</p>				
<p>7. 施設・設備・備品の整備</p>	<p>以下のとおり適切な整備、維持管理を計画的に実施した。</p> <p>①各校舎の不具合を洗い出した上で、教育環境に関する事項を優先に計画的な補修等を実施した。(1号棟階段手摺塗装, 2号棟屋上防水工事)</p> <p>②教育環境向上のための教育備品の整備を優先的に実施した。(放送設備更新及び修繕工事)</p> <p>③新規購入した機器備品等の管理徹底及び薬品類の棚卸しを実施した。 (PRTR届出対象物質等の管財課への報告実施)</p> <p>④生徒数増加に伴う教育備品数の再調査及び不具合を洗い出し、次のとおり整備を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2号棟屋上防水工事(10年後・2027年度) ・PC教室のPC機器入替(5年後更新・2022年度) ・電子黒板の設置(7年後更新・2024年度) <p>(神奈川県経由の文部科学省補助金を活用)</p>				
<p>VISION 5. キャンパス環境</p>	<table border="1"> <tr> <td>決算額</td> <td>928</td> <td>予算額</td> <td>1,028</td> </tr> </table>	決算額	928	予算額	1,028
決算額	928	予算額	1,028		
<p>大学の教育研究理念に基づき、人・動物・自然環境を意識するキャンパス整備を推進し、環境共生の調和を図りつつ、時を経るごとに価値を高めるキャンパスづくりを目指します。</p>					
<p>1. 動物飼育エリアの整備</p>	<p>「動物飼育エリアの整備」は、事業計画に基づき、パネル鶏舎の建設及び旧鶏舎の解体並びに国際基準、アニマルウェルフェアに対応した新規ケージの購入を行った。また、旧鶏舎跡地において(仮称)新小動物舎建築工事に着工した。なお、既存仮設小動物舎の解体は平成30年6月頃の実施となるため、平成30年度への事業繰越しとする。</p> <p>「参加型臨床実習に係る施設整備」は、平成28年度に7号館1階の内装を改修したことから、実施しないこととした。</p>				
<p>2. 動物病院の充実</p>	<p>①物病院増改築に係る基本計画案が、調査企画業務を委託する設計会社から提出され、関係教員等と打合せを行い、調査・企画書を取りまとめた。また、基本設計に向けた検討を実施している。</p> <p>②電子カルテを導入し、稼働を開始した。</p>				
<p>3. 動物管理センターの充実</p>	<p>①平成29年8月にパネル鶏舎が完成し、同月から(仮称)新小動物舎建築工事に着手し、平成30年1月から着工を開始した。</p> <p>②平成30年1月に小動物飼育施設内の犬・猫の新規ケージの導入を完了し、動物管理センターの機能・施設等の充実を図った。</p>				

VISION 6. 法人経営	決算額	942	予算額	944	
建学の精神に基づいた健全経営の下、学納金収入はもとより、新たな財源確保の取組として、法人事業の創出など、安定的な財政基盤の確立を目指します。					
1. 法人経営・大学管理の円滑な実施	<p>第3期中期目標・中期計画の進捗管理と平成29年度事業計画の検証体制の構築及び平成30年度事業計画の予算編成への反映を実施した。</p> <p>各種委員会の見直しについては、教学マネジメントの構築の進捗状況を見て、改めて必要な運営体制を検討することとしている。各委員会における自己点検・評価による検証等を通して、会議組織の統合化や廃止可能性を検討し、改善（統合化・改廃等）に繋げた。</p>				
2. 寄付金獲得に向けた取組	<p>一般寄付金(使途の指定なし)及び6つの特別寄付金(博物館活動等、使途の指定が可能)から成る「麻布獣医学園未来募金」について、学生・生徒の学資負担者及び卒業生に対する趣意書の送付並びに企業向けパンフレットの作成及び企業への協力依頼を開始した。</p>				
3. 支出経費の抑制に向けた取組	<p>平成30年度予算において、経常的経費に対して、平成29年度予算比で最大3%減のマイナスシーリングを目標とした予算編成を実施した。</p> <p>また、利用者の偏りの解消(公平性の担保)及び経費削減意識の強化のため、利用者負担の拡大を当該予算編成に盛り込んだところである。なお、本学園の財務状況及び財政基盤の安定化に向けた取組に対する理解の推進のため、SD研修会(学園の財務状況等について)を開催した。</p>				
4. 業務の適正化、効率化及び教職員の意識向上の推進	<p>業務監査、情報システム監査、競争的資金等監査を計画的に実施した。</p> <p>事務局各課等において、目標管理(事業計画)、業務の実態把握、分担体制、課題と対策を明示し、これに基づく業務の遂行に取り組んだ。</p>				
5. SD活動の推進	<p>本学園の教育研究活動等の適切かつ生産的・効果的な運営を図るため、教職員に必要な技能を習得させ、能力及び資質向上のための様々な機会を設けた。</p> <p>実施に当たっては、各部局等で行っている研修や講演会等を学長の下で取りまとめ、組織的に継続推進した。平成29年6月に全学SD委員会にて平成29年度SD活動予定を策定し、全教職員に周知の上、SDを実施した。各部局等で実施したSD活動については、実施結果として取りまとめ、全学SD委員会で検証し、平成30年度の取組に反映することとした。(平成29年度実績41件)</p>				
6. 学長選考制度の検討及び選考の実施	<p>学長の校務の範囲や学長の選考方法等について整理し、理事会で検討を行った。「次期麻布大学長に求める学長像について」は、理事会で決定の上、学長選考実施前に理事長名で選挙権者に通知した。なお、次期学長決定後の本学園及び麻布大学の運営にあつては、意見内容を整理した上で、改めて方向性を確認することとし、学長の校務の範囲等そのほかの課題については、次期学長決定後改めて検討することとした。</p>				
	合計	決算額	6,139	予算額	6,195

2. 教育研究の概要

2017(平成29)年5月1日現在

(1) 2017(平成29)年度の教育実施体制

①教員及び学生数

(人)

学部・学科等		教員							学生				
		大学設置基準上の教員数		常勤教員数		常勤教員の学位取得状況			非常勤教員数	入学定員	収容定員	学生数	
		総数	内 教授(学部) 内 研究指導教員 教授(大学院)	総数	内 教授(学部) 内 研究指導教員 教授(大学院)	博士	修士 (6年制含む)	学士					
学部	獣医学部	獣医学科	19	10	53	17	55	1	0	49	120	720	876
		動物応用科学科	10	5	21	9	22	3	1		130	490	601
		基礎教育系	—	—	6	1	1	0	0		—	—	—
		小計	—	—	80	27	78	4	1		250	1,210	1,477
	生命・環境科学部	臨床検査技術学科	8	4	14	5	12	1	1	42	80	320	373
		食品生命科学科	8	4	10	5	10	0	0		80	320	372
		環境科学科	8	4	12	4	10	4	0		80	320	365
		国際コミュニケーション	—	—	2	0	0	0	0		—	—	—
		教職課程	2	1	2	1	2	0	0		—	—	—
		寄附講座	—	—	1(2)	(2)	1	0	0		—	—	—
小計	—	—	41(2)	15(2)	35	5	1	240	960	1,110			
大学設置基準上、大学全体で必要な教員数		23	12	—	—	—	—	—	—	—	—		
学部 計		78	40	121(2)	42(2)	113	9	2	91	490	2,170	2,587	
研究科	獣医学研究科	獣医学専攻博士課程	8	4	(41)	(17)	—	—	—	0	10	40	27
		動物応用 博士前期課程	8	4	(21)	(9)	—	—	—		20	40	36
		科学専攻 博士後期課程	8	3	(20)	(8)	—	—	—		4	12	9
		小計	22	10	—	—	—	—	—		34	92	72
	環境保健研究科	環境保健 博士前期課程	12	4	(23)	(8)	—	—	—	0	7	14	7
		科学専攻 博士後期課程	12	4	(18)	(7)	—	—	—		2	6	2
		小計	24	8	—	—	—	—	—		9	20	9
研究科 計		46	18	—	—	—	—	—	0	43	112	81	
附属動物病院		—	—	17(2)	2(2)	6	8	0	0	—	—	—	
附置生物科学総合研究所		—	—	1(3)	(2)	1	0	0	0	—	—	—	
総合計		—	—	139	44	120	17	2	91	533	2,282	2,668	

1. 2017(平成29)年度から獣医学部動物応用科学科の入学定員を変更したことから、平成29年度の収容定員は次のとおり。
 獣医学部動物応用科学科：1年次 130人、2年次 120人、3年次 120人、4年次 120人

②職員数

(人)

	常勤職員	非常勤職員	合計
麻布大学	81	59	140

1. ()は兼務者を表す。
 2. 非常勤教員は、獣医学部、生命・環境科学部、大学院、附属高等学校を兼務するものを含む延べ人数である。
 3. 非常勤教員には、業務委託による講師を含む。
 4. 非常勤職員には、派遣職員を含む。

(2) 入学試験実施状況

①入学試験結果

■ 獣医学部

(人)

学部	学科等	募集 人数	2018 (平成 30) 年度												2017 年度		2016 年度	
			志願者			受験者			合格者			入学者			受験者	入学者	受験者	入学者
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
獣 医 学 部	推薦	28	44	82	126	44	82	126	10	18	28	10	18	28	82	27	89	25
	附属	5人程度 (推薦内)	3	3	6	3	3	6	3	3	6	3	3	6	6	6	4	4
	帰国子女	若干名	0	2	2	0	2	2	0	1	1	0	0	0	2	0	1	0
	社会人	若干名	1	1	2	1	1	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
	外国人	若干名	1	3	4	1	3	4	0	1	1	0	1	1	1	0	3	0
	地域枠	若干名	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	1	1	1
	卒業生後継者	若干名	11	14	25	11	14	25	3	2	5	3	2	5	20	4	19	5
	学士	若干名	12	14	26	12	14	26	1	2	3	1	2	3	—	—	—	—
	AO	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	80	5	114	8
	一般(I期)	70	572	665	1,237	541	636	1,177	73	93	166	40	44	84	1,395	89	1,337	97
	一般(II期)	10	276	302	578	208	248	456	4	8	12	4	6	10	—	—	—	—
	(第2志望)	10	(99)	(118)	(217)	(78)	(94)	(172)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	センター利用	12	393	479	872	389	475	864	47	56	103	4	3	7	508	6	365	5
	計	120	1,314	1,565	2,879	1,211	1,478	2,689	142	184	326	66	79	145	2,097	138	1,933	145
動 物 応 用 学 科	推薦	25	10	23	33	10	23	33	5	12	17	5	12	17	38	20	37	27
	附属	10人程度 (推薦内)	1	5	6	1	5	6	1	5	6	1	5	6	14	14	7	7
	指定校	(推薦内)	1	4	5	1	4	5	1	4	5	1	4	5	—	—	—	—
	帰国子女	若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	外国人	若干名	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	社会人	若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	AO	15	5	39	44	5	39	44	1	14	15	1	14	15	37	15	48	17
	一般(I期)	60	145	238	383	134	223	357	56	124	180	24	56	80	372	94	391	88
	一般(II期)	5	40	61	101	31	40	71	1	4	5	1	0	1	—	—	—	—
	第2志望	若干名	0	2	2	0	2	2	0	2	2	0	0	0	—	—	—	—
	センター利用	25	173	321	494	172	321	493	72	151	223	6	14	20	376	30	362	9
	センター利用 (第II期)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	1	0
	計	130	375	694	1,069	354	658	1,012	137	316	453	39	105	144	837	173	846	148
	合 計	推薦	53	54	105	159	54	105	159	15	30	45	15	30	45	120	47	126
附属		15人程度 (推薦内)	4	8	12	4	8	12	4	8	12	4	8	12	20	20	11	11
指定校		(推薦内)	1	4	5	1	4	5	1	4	5	1	4	5	—	—	—	—
帰国子女		若干名	0	2	2	0	2	2	0	1	1	0	0	0	2	0	1	0
社会人		若干名	1	1	2	1	1	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
外国人		若干名	1	4	5	1	4	5	0	1	1	0	1	1	1	0	3	0
地域枠		若干名	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	1	1	1
卒業生後継者		若干名	11	14	25	11	14	25	3	2	5	3	2	5	20	4	19	5
学士		若干名	12	14	26	12	14	26	1	2	3	1	2	3	—	—	—	—
AO		15	5	39	44	5	39	44	1	14	15	1	14	15	117	20	162	25
一般(I期)		130	717	903	1,620	675	859	1,534	129	217	346	64	100	164	1,767	183	1,728	185
一般(II期)		15	316	365	681	239	290	529	5	14	19	5	6	11	—	—	—	—
センター利用		37	566	800	1,366	561	796	1,357	119	207	326	10	17	27	884	36	727	14
センター利用 (第II期)		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	1	0
計	250	1,689	2,259	3,948	1,565	2,136	3,701	279	500	779	105	184	289	2,934	311	2,779	293	

- 合格者は、正規合格者を示す。
- 2017 (平成 29 年) 度入学試験から、獣医学部動物応用科学科の入学定員(募集人員)を 120 人から 130 人に変更。
- 2018 (平成 30 年) 度入学試験から、獣医学科学士特別入学試験、動物応用科学科指定校推薦特別入学試験及び一般入学試験(第II期)を実施。
- 獣医学科第2志望者の() 数は、一般入学試験(第II期)において、獣医学科志望者のうち動物応用科学科を第2志望とした者。
- 平成 30 年度入学試験から、獣医学科 AO 入学試験廃止。

■ 獣医学部編入学

(人)

学部	学科	募集 人数	選抜区分	2018(平成30)年度												2017年度		2016年度	
				志願者			受験者			合格者			入学者			受験者	入学者	受験者	入学者
				男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計				
獣医学部	獣医学科	—	第1次選抜	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	44	—	41	—
			第2次選抜	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	21	3	20	3
	動物応用科学科	若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1

※2018(平成30年)度入学試験から、獣医学科編入学試験廃止。

■ 生命・環境科学部

(人)

部学	学科等	募集 人数	2018(平成30)年度												2017年度		2016年度		
			志願者			受験者			合格者			入学者			受験者	入学者	受験者	入学者	
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計					
臨床検査技術学科	推薦	20	6	24	30	6	24	30	5	21	26	5	21	26	33	26	47	32	
	附属	5 (推薦内)	4	6	10	4	6	10	4	6	10	4	6	10	7	7	6	6	
	帰国子女	若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	
	社会人	若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	一般I A	55	76	135	211	74	129	203	27	50	77	9	17	26	159	15	173	27	
	一般I B		49	88	137	48	84	132	19	25	44	10	10	20	105	33	70	12	
	一般C	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	85	5	137	20	
	一般II期	若干名	19	45	64	15	33	48	1	9	10	3	10	13	—	—	—	—	
	センター利用	5	70	135	205	70	134	204	16	44	60	1	1	2	152	4	98	0	
	センター利用(第II期)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	0	8	0	
	計	80	224	433	657	217	410	627	72	155	227	32	65	97	544	91	539	97	
	食品生命科学科	推薦	25	3	4	7	3	4	7	3	4	7	3	4	7	6	5	9	8
		附属	7 (推薦内)	1	1	2	1	1	2	1	1	2	1	1	2	4	4	3	3
指定校		(推薦内)	4	2	6	4	2	6	4	2	6	4	2	6	7	7	9	9	
帰国子女		若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
社会人		若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
一般I A		50	92	99	191	88	97	185	61	81	142	26	18	44	125	32	94	27	
一般I B			37	24	61	36	22	58	16	14	30	8	2	10	53	15	84	14	
一般C		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	38	6	187	26	
一般II期		若干名	20	11	31	12	7	19	11	4	15	8	5	13	7	4	11	6	
センター利用		5	168	202	370	167	201	368	65	107	172	9	5	14	128	12	170	1	
センター利用(第II期)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	0	9	0		
計	80	325	343	668	311	334	645	161	213	374	59	37	96	373	85	576	94		
環境科学部	推薦	25	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	9	9	2	2	
	附属	7 (推薦内)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	
	指定校	(推薦内)	4	1	5	4	1	5	4	1	5	4	1	5	12	12	6	6	
	帰国子女	若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	社会人	若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	一般I A	50	83	31	114	77	28	105	72	28	100	28	7	35	95	27	69	25	
	一般I B		36	8	44	33	7	40	26	5	31	12	2	14	45	11	66	18	
	一般C	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	31	4	120	31	
	一般II期	若干名	27	6	33	16	5	21	14	5	19	9	4	13	7	7	8	4	
	センター利用	5	132	74	206	131	74	205	109	61	170	15	2	17	135	9	114	6	
	センター利用(第II期)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4	0	3	0	
	計	80	283	120	403	262	115	377	226	100	326	69	16	85	340	81	388	92	
	合計	推薦	70	10	28	38	10	28	38	9	25	34	9	25	34	48	40	58	42
附属		19 (推薦内)	5	7	12	5	7	12	5	7	12	5	7	12	13	13	9	9	
指定校		(推薦内)	8	3	11	8	3	11	8	3	11	8	3	11	19	19	15	15	
帰国子女		若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	
社会人		若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
一般I A		155	251	265	516	239	254	493	160	159	319	63	42	105	379	74	336	79	
一般I B			122	120	242	117	113	230	61	44	105	30	14	44	203	59	220	44	
一般C		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	154	15	444	77	
一般II期		若干名	66	62	128	43	45	88	26	18	44	20	19	39	14	11	19	10	
センター利用		15	370	411	781	368	409	777	190	212	402	25	8	33	415	25	382	7	
センター利用(第II期)		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	11	0	20	0	
計		240	832	896	1,728	790	859	1,649	459	468	927	160	118	278	1,257	257	1,503	283	

1. 合格者は、正規合格者を示す。
2. 2018(平成30年)度入学試験から、全学科において、一般入学試験C日程を廃止し、一般入学試験(第II期)を実施。

(2017(平成29年)度入学試験までは食品生命科学科及び環境科学科で実施)

■ 生命・環境科学部編入学

(人)

学部	学科	区分	募集人数	2018(平成30)年度												2017年度		2016年度	
				志願者			受験者			合格者			入学者			受験者	入学者	受験者	入学者
				男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計				
生命・環境科学部	臨床検査技術学科	2年次	若干名	1	1	2	1	1	2	1	0	1	0	0	0	2	1	4	2
	食品生命科学科		若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	3	1	1
	環境科学科		若干名	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	1	0	0
	合計		2	1	3	2	1	3	2	0	2	1	0	1	7	5	5	3	

■ 獣医学研究科

(人)

研究科	専攻	区分	募集人数	2018(平成30)年度												2017年度		2016年度	
				志願者			受験者			合格者			入学者			受験者	入学者	受験者	入学者
				男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計				
獣医学研究科	獣医学専攻 博士課程	1期	10	4	1	5	4	1	5	3	1	4	3	1	4	4	4	5	4
		2期	若干名	3	0	3	3	0	3	3	0	3	3	0	3	5	4	5	4
		計	10	7	1	8	7	1	8	6	1	7	6	1	7	9	8	10	8
	動物応用科学専攻 博士前期課程	1期	20	6	9	15	6	9	15	5	7	12	5	6	11	16	10	20	13
		2期	若干名	2	4	6	2	4	6	2	3	5	2	3	5	7	5	7	6
		計	20	8	13	21	8	13	21	7	10	17	7	9	16	23	15	27	19
	動物応用科学専攻 博士後期課程	1期	4	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	1	1	1	0
		2期	若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	4	4
		計	4	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	1	1	2	2	5	4
合計		34	15	15	30	15	15	30	13	12	25	13	11	24	34	25	42	31	

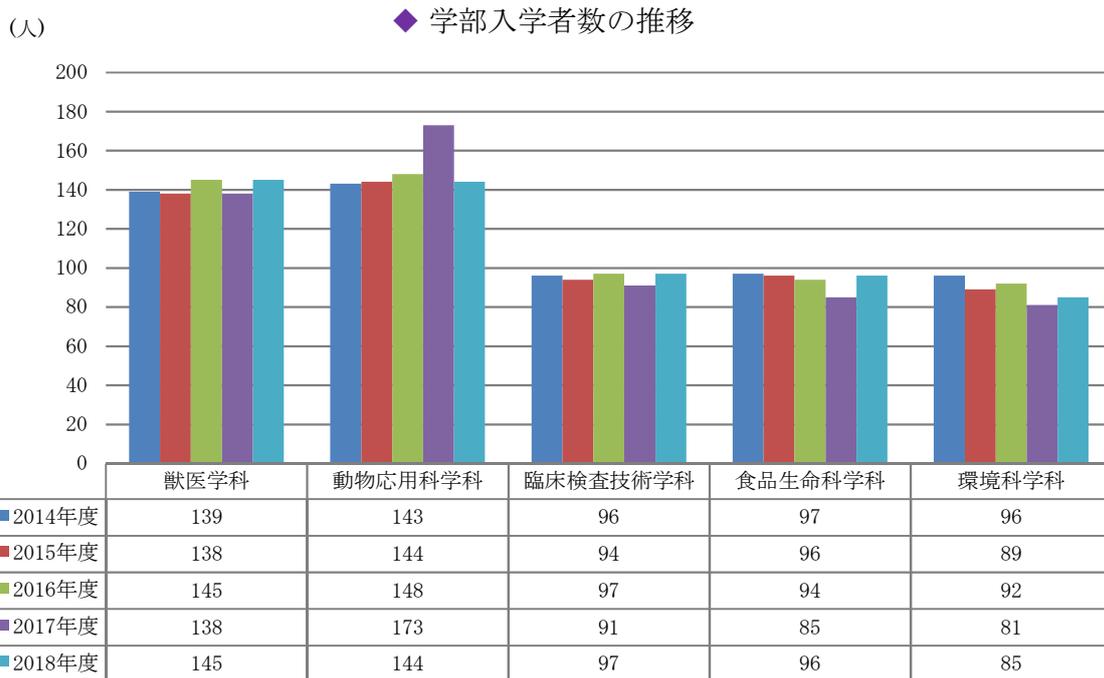
※ 2016(平成28年)度入学試験から、獣医学研究科動物応用科学専攻博士前期課程の入学定員(募集人員)を12人から20人に変更。

■ 環境保健学研究科

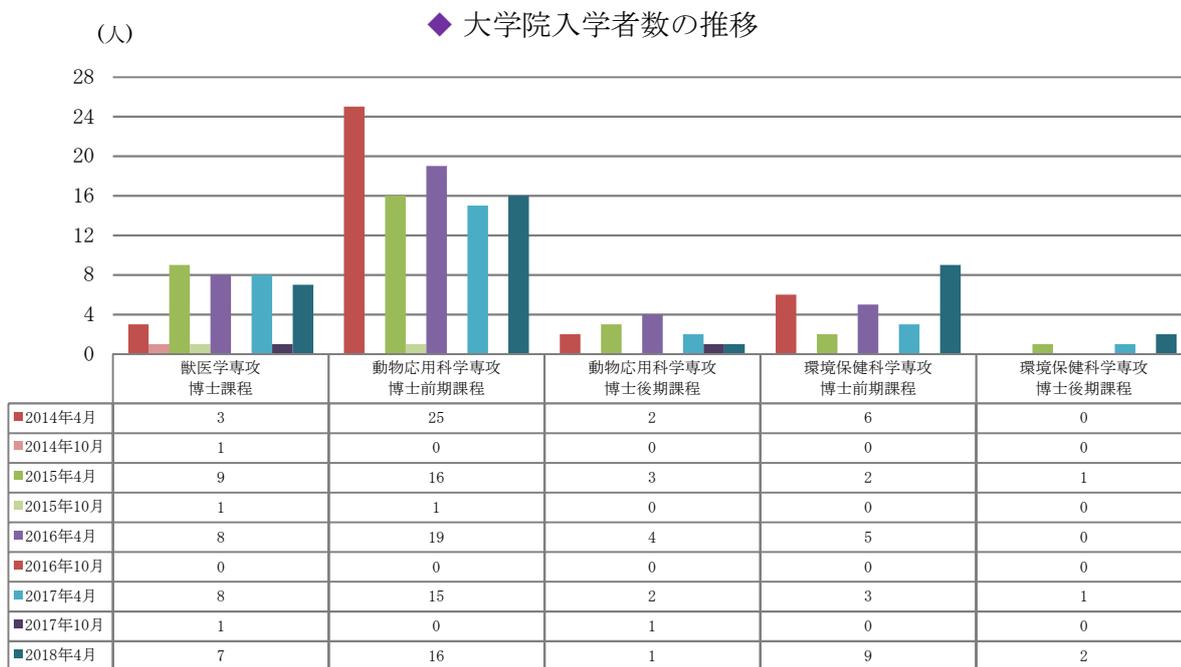
(人)

研究科	専攻	区分	募集人数	2018(平成30)年度												2017年度		2016年度	
				志願者			受験者			合格者			入学者			受験者	入学者	受験者	入学者
				男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計				
環境保健学研究科	環境保健科学専攻 博士前期課程	1期	7	3	7	10	3	7	10	3	7	10	2	7	9	2	2	4	4
		2期	若干名	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	1
		計	7	3	7	10	3	7	10	3	7	10	2	7	9	3	3	6	5
	環境保健科学専攻 博士後期課程	1期	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		2期	若干名	1	1	2	1	1	2	1	1	2	1	1	2	1	1	0	0
		計	2	1	1	2	1	1	2	1	1	2	1	1	2	1	1	0	0
合計		9	4	8	12	4	8	12	4	8	12	3	8	11	4	4	6	5	

②入学者の推移（過去5年）

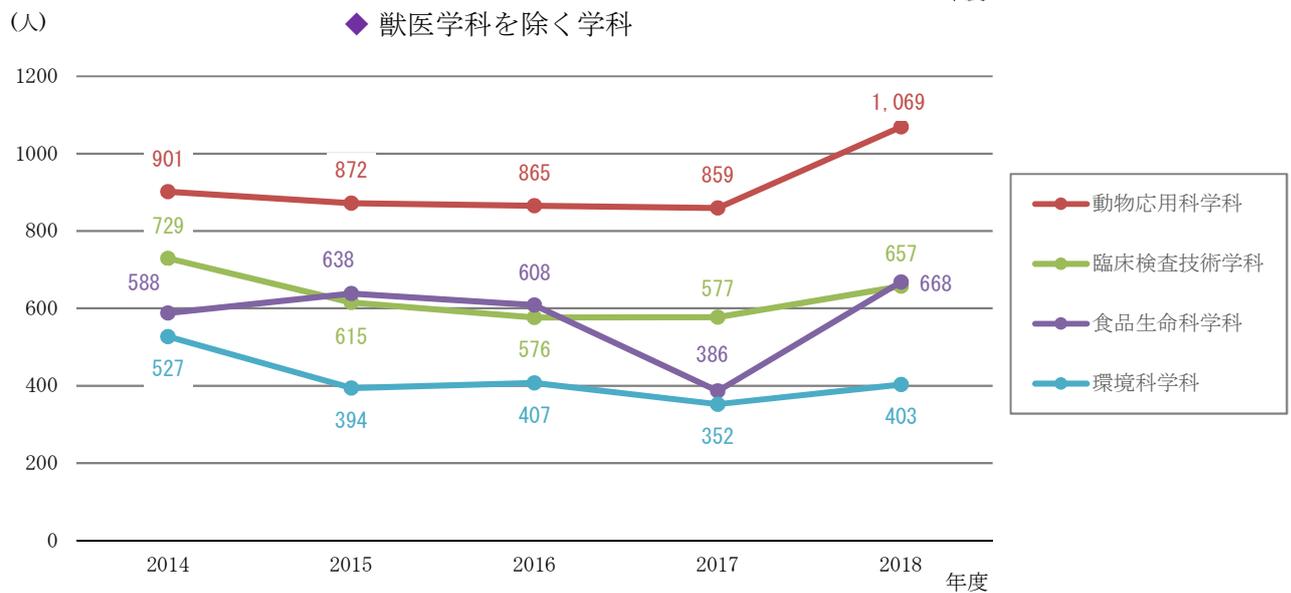
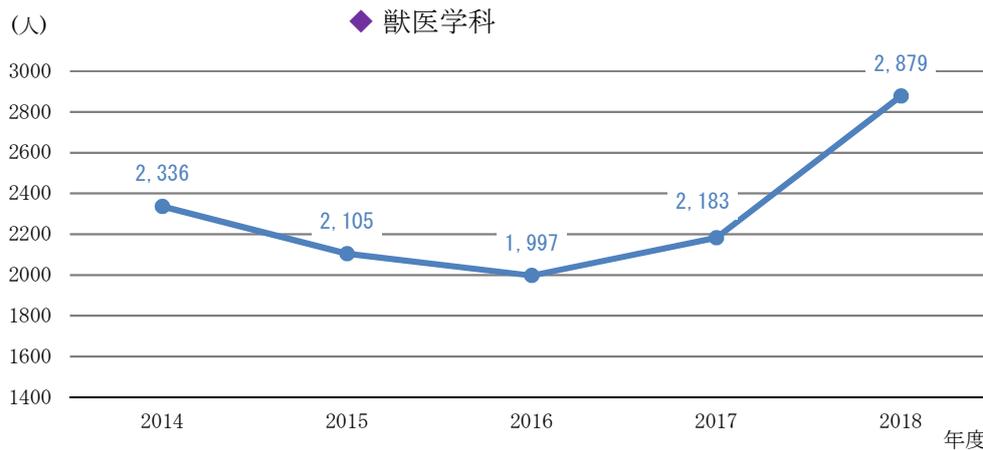


※ 2017（平成29年）度入学試験から、獣医学部動物応用科学科の入学定員（募集人員）を120人から130人に変更。

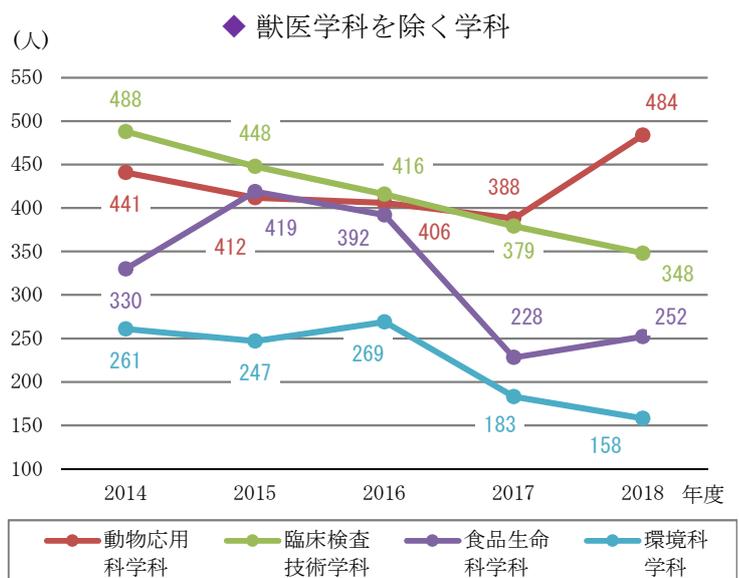
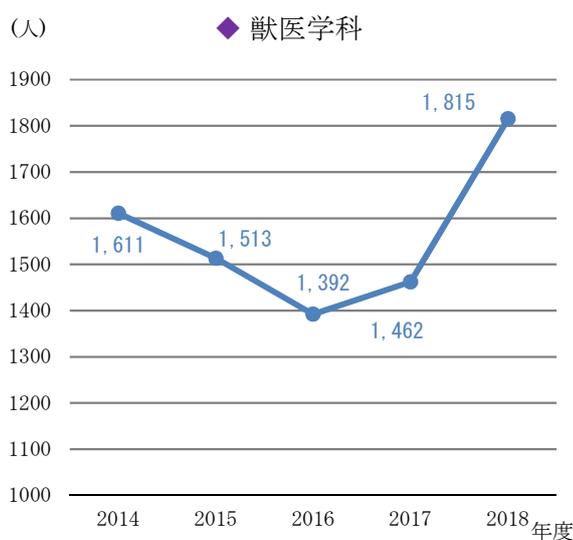


※ 2016（平成28年）度入学試験から、獣医学研究科動物応用科学専攻博士前期課程の入学定員（募集人員）を12人から20人に変更。

③志願者の推移（過去5年）



■ 一般入学試験の志願者

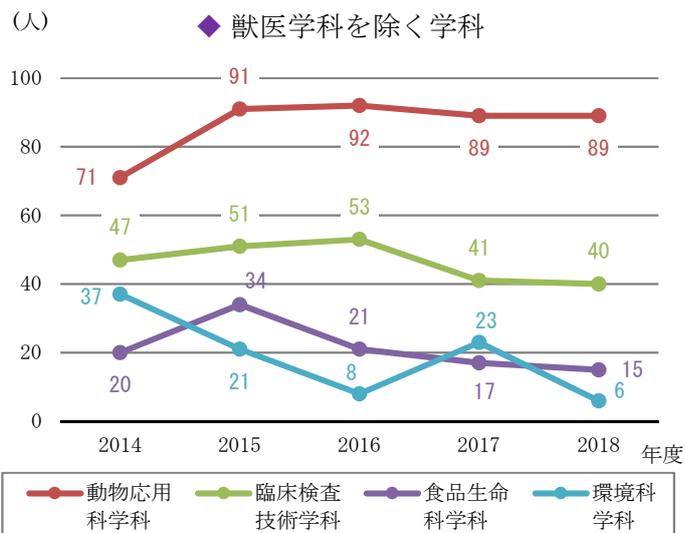


*2018（平成30年）度は一般入試Ⅱ期の志願者を含む。

*動物応用科学科は、2018（平成30年）度は一般入試Ⅱ期の志願者を含む。

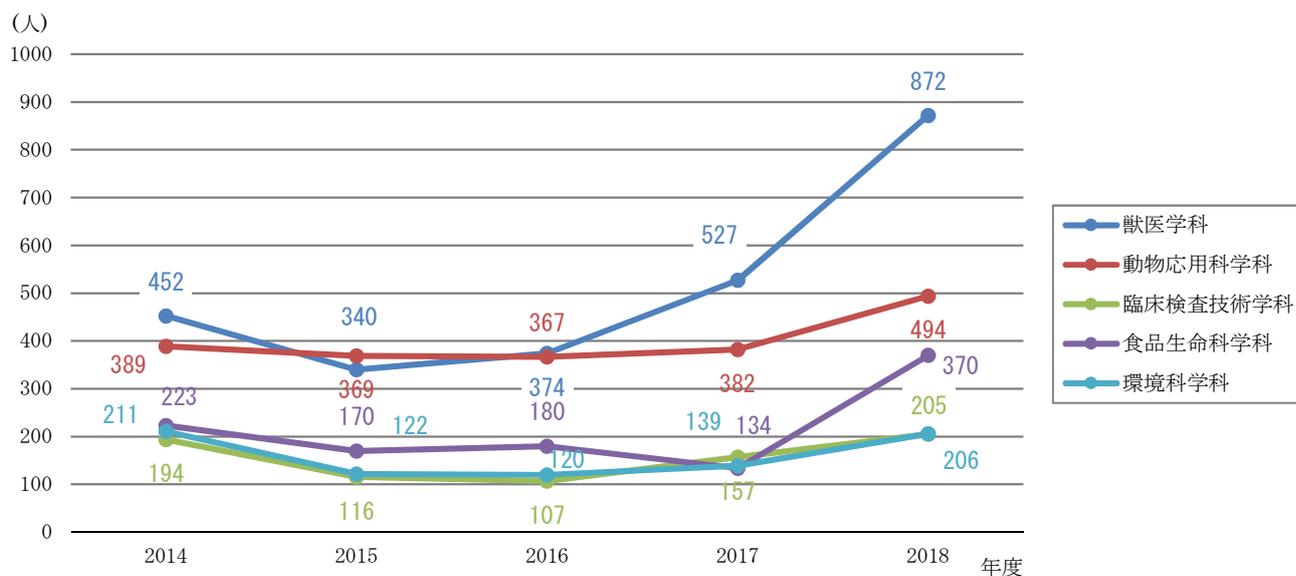
*生命・環境科学部は、一般入試Ⅱ期の志願者を除く。

■ 推薦等入学試験



* 獣医学科卒業生後継者特別入学試験及び獣医学科科学士特別入学試験を除く。
 * 2018（平成30年）度入学試験から、獣医学科 A0 入学試験廃止。

■ 大学入試センター試験利用入学試験



* 2017（平成29）年度まではセンター利用入試Ⅱ期の志願者を含む。（2018（平成30）年度入試より廃止。）

(3) 卒業者・修了者数及び進路状況

2018 (平成 30) 年 5 月 1 日現在

① 卒業者・修了者数 (2017 年度) (人)

学部・学科		卒業者数
獣医学部	獣医学科	140
	動物応用科学科	139
生命・環境科学部	臨床検査技術学科	81
	食品生命科学科	93
	環境科学科	99

(人)

研究科・専攻			修了者数
獣医学研究科	獣医学専攻博士課程		3
	動物応用科学専攻	博士前期課程	20
		博士後期課程	3
環境保健学研究科	環境保健	博士前期課程	4
	科学専攻	博士後期課程	1

2018 (平成 30) 年 3 月 31 日現在

② 博士・修士学位授与数 (人)

研究科・専攻等		学位授与数		
		修士	博士 (獣医学)	博士 (学術)
獣医学研究科	獣医学専攻	—	3	—
	動物応用科学専攻	20	—	3
	麻布大学学位規則第 3 条第 3 項に該当する者※	—	0	0
	小計	20	3	3
環境保健学研究科	環境保健学専攻	4	—	1
	麻布大学学位規則第 3 条第 3 項に該当する者※	—	—	0
	小計	4	—	1
合計		24	3	4

※【麻布大学学位規則】 第 3 条第 3 項

博士の学位は、本学大学院の博士課程を経ない者であっても、論文を提出して、その審査に合格し、かつ、前項に該当する者と同等以上の学力があることを確認された場合には授与することができる。

2018 (平成 30) 年 5 月 1 日現在

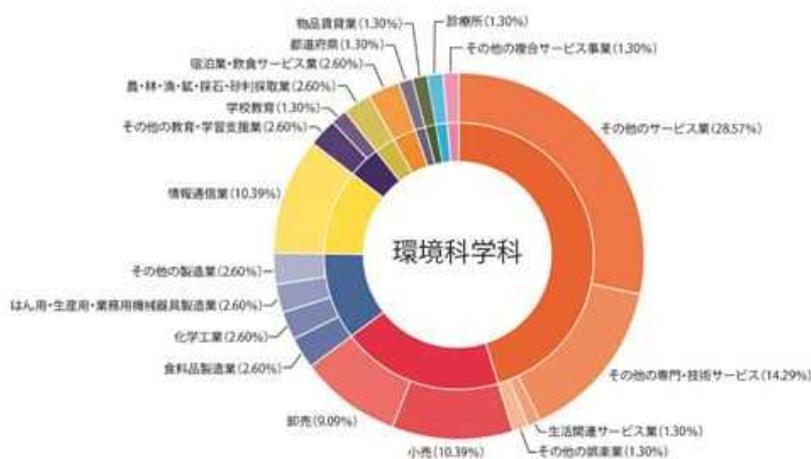
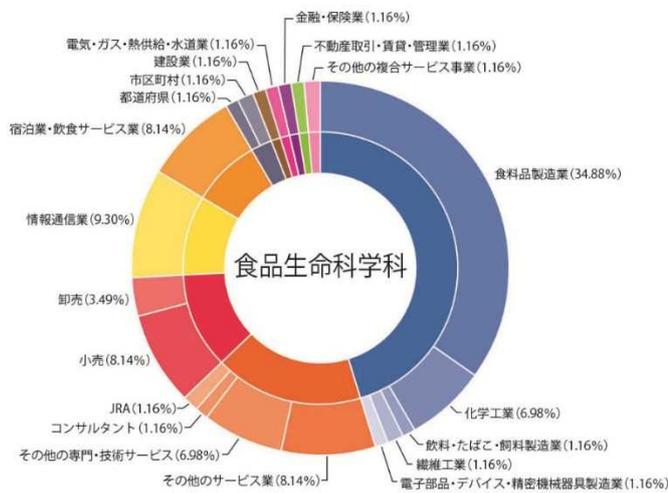
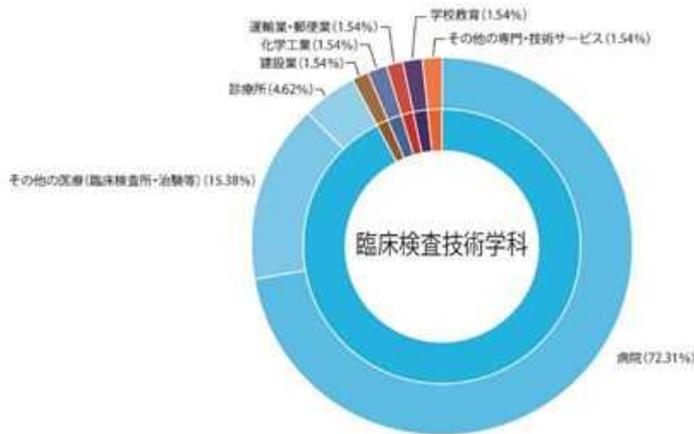
③ 進路状況 (人)

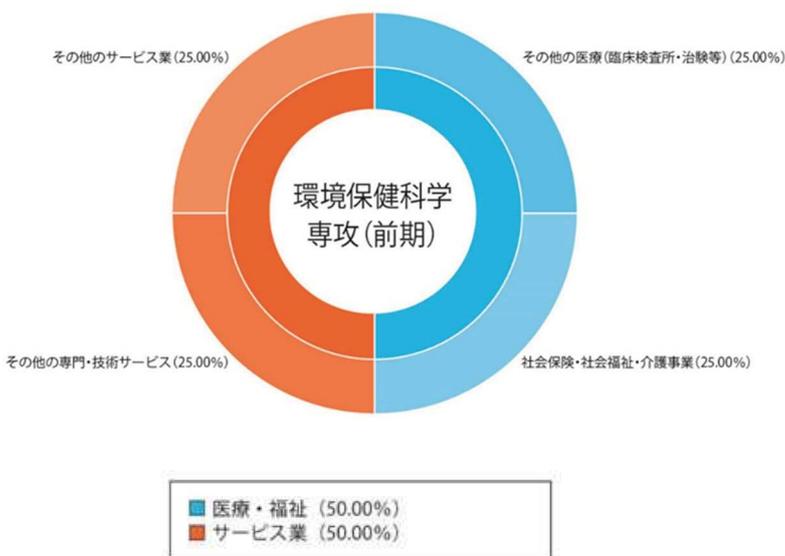
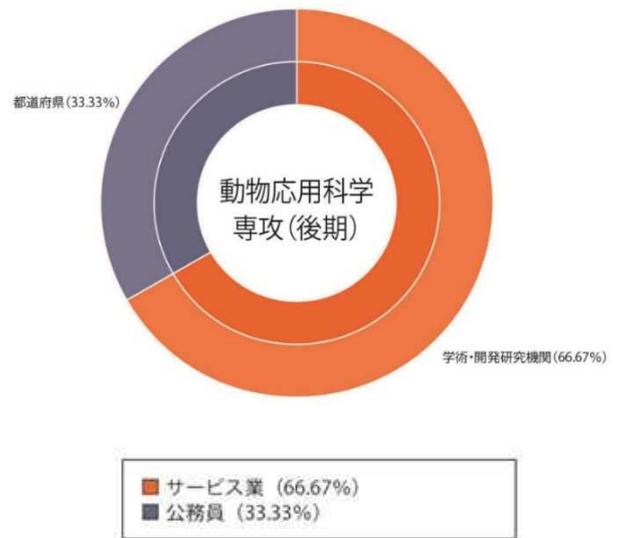
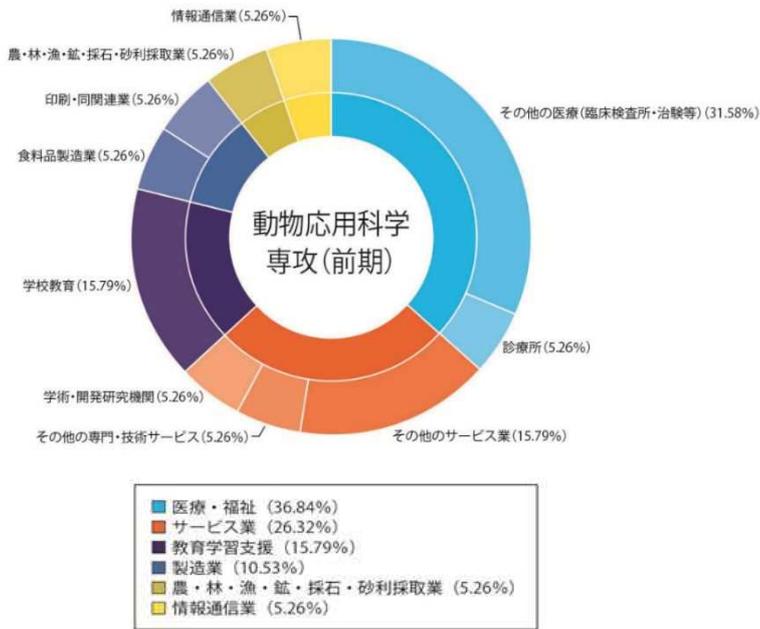
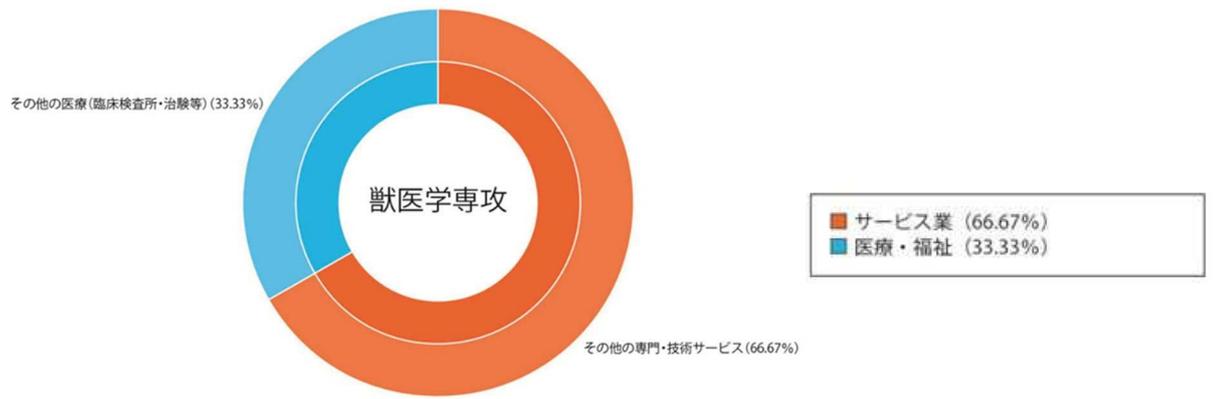
学部・学科		就職	進学	その他
獣医学部	獣医学科	116	8	9
	動物応用科学科	109	22	4
生命・環境科学部	臨床検査技術学科	65	5	7
	食品生命科学科	86	4	3
	環境科学科	77	10	7

(人)

研究科・専攻			就職	進学	その他
獣医学研究科	獣医学専攻博士課程		3	0	0
	動物応用科学専攻	博士前期課程	19	1	0
		博士後期課程	3	0	0
環境保健学研究科	環境保健	博士前期課程	4	0	0
	科学専攻	博士後期課程	1	0	0

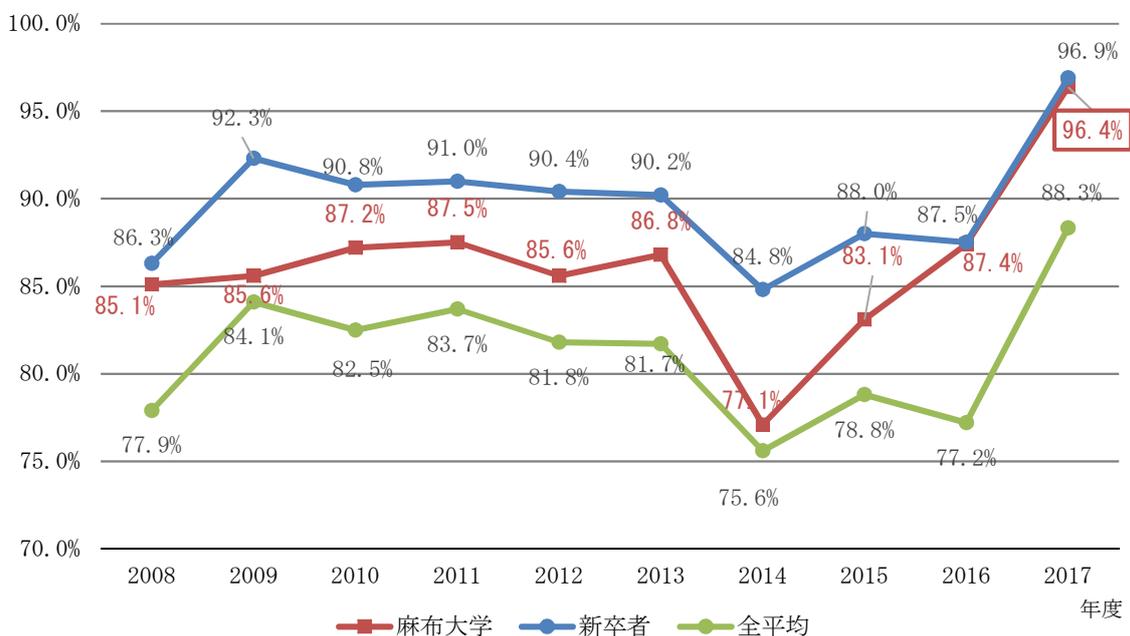
2018（平成30）年5月1日現在





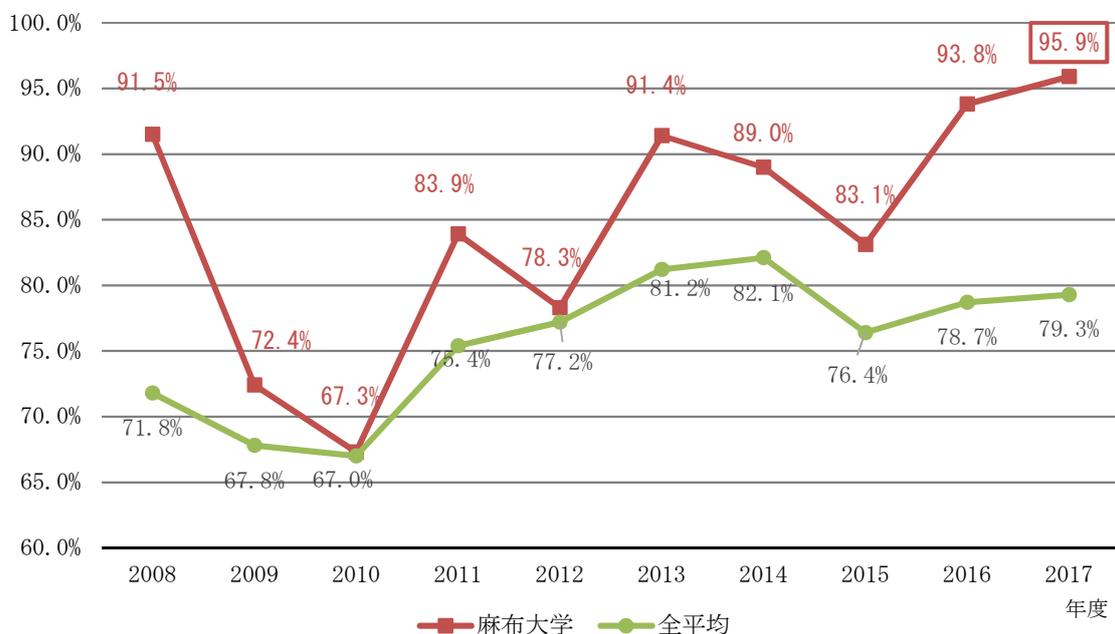
(4) 国家試験

① 獣医師国家試験合格率の推移
(麻布大学 獣医学部獣医学科)



② 臨床検査技師国家試験合格率の推移

(麻布大学 生命・環境科学部臨床検査技術学科, 環境保健学部衛生技術学科)



※ 2011 (平成 23) 年度受験者から生命・環境科学部 臨床検査技術学科入学者が受験。

(5) 退学者数・中退率・留年者数

2018 (平成30) 年5月1日現在

①退学者数

◆ 麻布大学

(人)

学部・学科	獣医学部						生命・環境科学部									
	獣医学科			動物応用科学科			臨床検査技術学科			食品生命科学科			環境科学科			
年度	2017	2016	2015	2017	2016	2015	2017	2016	2015	2017	2016	2015	2017	2016	2015	
1年次	男	0	1	1	3	0	1	0	3	1	1	4	0	2	2	5
	女	0	1	0	2	1	2	1	5	1	0	3	2	1	1	1
	計	0	2	1	5	1	3	1	8	2	1	7	2	3	3	6
2年次	男	1	0	2	1	3	1	1	0	4	1	2	1	2	1	2
	女	2	2	1	0	2	4	2	2	3	1	1	0	0	1	1
	計	3	2	3	1	5	5	3	2	7	2	3	0	2	2	3
3年次	男	3	1	1	1	0	2	0	0	1	0	1	3	1	3	2
	女	1	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	2	2	0	1
	計	4	1	3	1	0	2	1	0	1	0	1	5	3	3	3
4年次	男	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	
	計	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	
5年次	男	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	女	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	計	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
6年次	男	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	女	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	計	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
合計		8	5	7	8	6	10	5	10	11	3	12	8	8	9	12

◆ 麻布大学大学院

(人)

研究科・専攻	獣医学研究科									環境保健学研究科					
	獣医学専攻 博士課程			動物応用科学専攻 博士前期課程			動物応用科学専攻 博士後期課程			環境保健科学専攻 博士前期課程			環境保健科学専攻 博士後期課程		
年度	2017	2016	2015	2017	2016	2015	2017	2016	2015	2017	2016	2015	2017	2016	2015
1年次	男	2	1	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	女	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	3	1	1	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0
2年次	男	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	女	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
3年次	男	0	0	0	—	—	—	0	0	0	—	—	—	0	0
	女	0	0	1	—	—	—	0	0	0	—	—	—	0	0
	計	0	0	1	—	—	—	0	0	0	—	—	—	0	0
4年次	男	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	女	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	計	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計		4	1	2	2	2	1	0	0	1	0	1	0	0	0

②中退率

学部・学科	中退率	
獣医学部	獣医学科	0.9%
	動物応用科学科	1.3%
生命・環境科学部	臨床検査技術学科	1.3%
	食品生命科学科	0.8%
	環境科学科	2.2%

研究科・専攻	中退率	
獣医学研究科	獣医学専攻博士課程	14.8%
	動物応用 博士前期課程	5.6%
	科学専攻 博士後期課程	0.0%
環境保健学研究科	環境保健 博士前期課程	0.0%
	科学専攻 博士後期課程	0.0%

※ 中退率=2018 (平成30) 年5月1日現在での2017 (平成29) 年度(4月1日~翌年3月31日)退学者数÷2017年度在籍学生数 (2017年5月1日現在) ×100

③留年者数

学部・学科	留年者数	
獣医学部	獣医学科	31人
	動物応用科学科	7人
生命・環境科学部	臨床検査技術学科	18人
	食品生命科学科	12人
	環境科学科	15人

研究科・専攻	留年者数	
獣医学研究科	獣医学専攻博士課程	0人
	動物応用 博士前期課程	0人
	科学専攻 博士後期課程	0人
環境保健学研究科	環境保健 博士前期課程	0人
	科学専攻 博士後期課程	0人

(6) 国際交流

2018 (平成 30) 年 3 月 31 日現在

①学術交流協定・機関

■学術交流協定

	名称	国名	協定締結年	協定形態
1	アスンシオン大学	パラグアイ共和国	1986(昭和 61)年	大学間
2	ペンシルヴァニア大学	アメリカ合衆国	1990(平成 2)年	獣医学部間
3	国立中興大学	台湾	1997(平成 9)年	大学間
4	全北大学校	大韓民国	2004(平成 16)年	大学間
5	吉林農業大学	中華人民共和国	2005(平成 17)年	大学間
6	北京農学院	中華人民共和国	2006(平成 18)年	大学間
7	チェンマイ大学	タイ王国	2007(平成 19)年	大学間
8	モンゴル大学	モンゴル国	2008(平成 20)年	大学間
9	モンゴル科学アカデミー	モンゴル国	2008(平成 20)年	機関間
10	フスタイ国立公園	モンゴル国	2008(平成 20)年	機関間
11	モンゴル自然史博物館	モンゴル国	2008(平成 20)年	機関間
12	国立台湾大学	台湾	2013(平成 25)年	獣医学部間
13	ベルン大学	スイス連邦	2015(平成 27)年	獣医学部間

■学術交流準協定

	名称	国名	協定締結年	協定形態
1	エディンバラ大学	スコットランド(英国)	2008(平成 20)年	大学－獣医学部間

① 海外派遣学生 (2017 年度)

② 外国人留学生数 (2017 年度)

(人)

学部・研究科等		海外派遣学生数	外国人留学生数
獣医学部	獣医学科	14	0
	動物応用科学科	4	0
生命・環境科学部	臨床検査技術学科	0	0
	食品生命科学科	0	0
	環境科学科	0	0
学部計		18	0
獣医学研究科	獣医学専攻博士課程	0	3
	動物応用科学専攻博士前期課程	0	0
	動物応用科学専攻博士後期課程	0	1
環境保健学研究科	環境保健科学専攻博士前期課程	0	0
	環境保健科学専攻博士後期課程	0	0
研究科計		0	4
合計		18	4

※ 海外派遣学生数は、学術交流協定校への派遣のみを対象としている。

(7) 研究・知的財産等

2018 (平成 30) 年 3 月 31 日現在

① 競争的資金等受入状況 (2017 年度)

■ 文部科学省 科学研究費補助金

交付元	研究種目	件数 (件)		交付金額 (千円)		
				直接経費	間接経費	計
文部科学省	新学術領域研究	新規	0	0	0	0
		継続	1	14,500	4,350	18,850
	新学術領域研究 (公募研究)	新規	1	3,400	1,020	4,420
		継続	0	0	0	0
	基盤研究 (A)	新規	0	0	0	0
		継続	1	7,400	2,220	9,620
	基盤研究 (B)	新規	0	0	0	0
		継続	2	5,700	1,710	7,410
	基盤研究 (C)	新規	8	13,000	3,900	16,900
		継続	24	22,600	6,780	29,380
	挑戦的萌芽研究 (挑戦的研究(萌芽))	新規	1	3,600	1,080	4,680
		継続	2	1,300	390	1,690
	若手研究 (A)	新規	0	0	0	0
		継続	0	0	0	0
	若手研究 (B)	新規	2	3,700	1,110	4,810
		継続	5	4,977	1,493	6,470
	奨励研究	新規	1	490	0	490
		継続	0	0	0	0
	特別研究員奨励費	新規	2	1,900	0	1,900
		継続	0	0	0	0
小計	新規	15	26,090	7,110	33,200	
	継続	35	56,477	16,943	73,420	
合計			50	82,567	24,053	106,620

※本学教員等が「研究代表者」となっているもの。

■ その他の競争的資金等

交付元	件数 (件)		受入額(千円)		
			直接経費	間接経費	計
文部科学省	獣医学部	2	4,810	390	5,200
	生命・環境科学部	0			
内閣府	獣医学部	0	5,254	1,576	6,830
	生命・環境科学部	1			
農林水産省	獣医学部	5	11,089	0	11,089
	生命・環境科学部	0			
環境省	獣医学部	1	12,450	1,250	13,700
	生命・環境科学部	0			
厚生労働省	獣医学部	1	4,620	2,748	7,368
	生命・環境科学部	1			
日本中央競馬会, 国立がん研究開発費	獣医学部	1	5,450	0	5,450
	生命・環境科学部	1			
受入金額合計 (千円)			43,673	5,964	49,637

② 学内競争的資金の状況 (2017年度)

学内競争的資金	件数 (件)		金額 (千円)
若手育成研究 (パーソナル型)	獣医学部	3	900
	生命・環境科学部	1	300
若手育成研究 (プロジェクト型)	獣医学部	1	3,000
	生命・環境科学部	0	0
知財展開研究経費	獣医学部	3	1,200
	生命・環境科学部	1	600
学際型研究	獣医学部	0	0
	生命・環境科学部	0	0

2018 (平成 30) 年 3 月 31 日現在

③ 知的財産データ

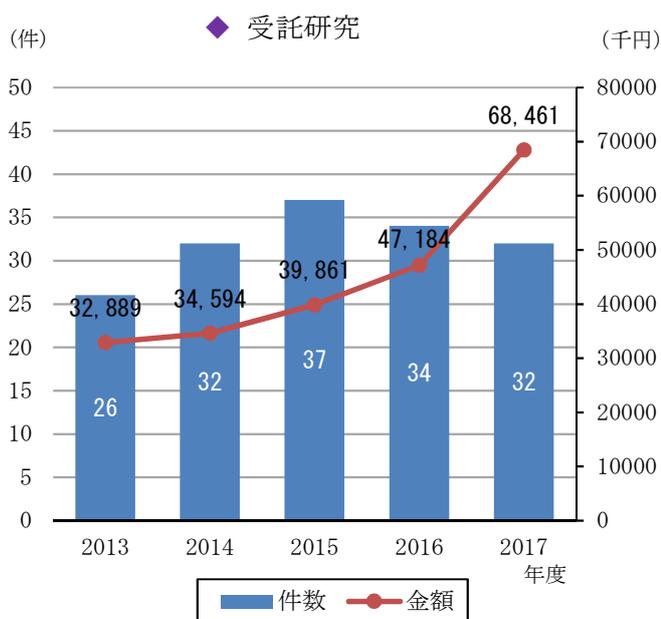
(件)

出願・登録	年度	2017 年度	2016 年度	2015 年度	2014 年度	2013 年度	合計
国内特許出願		7	8	10	7	7	39
海外特許出願		4	4	9	9	7	33
国内外審査請求		3	7	6	5	2	23
国内特許登録		6	3	3	3	0	15
特許登録		0	1	2	0	0	3
商標登録		0	0	0	1	0	1
技術移転(ライセンス, 譲渡等)		3	2	4	4	2	15

※ 2013(平成 25)年度～2017(平成 29)年度の職務発明を対象とする。

2018 (平成 30) 年 3 月 31 日現在

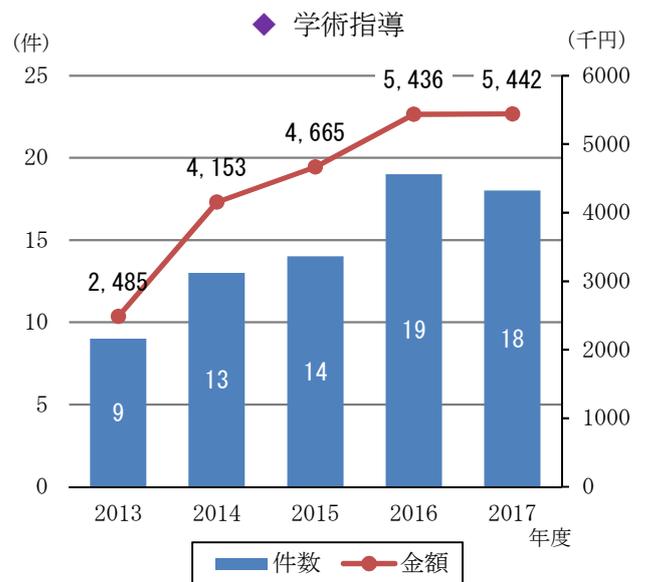
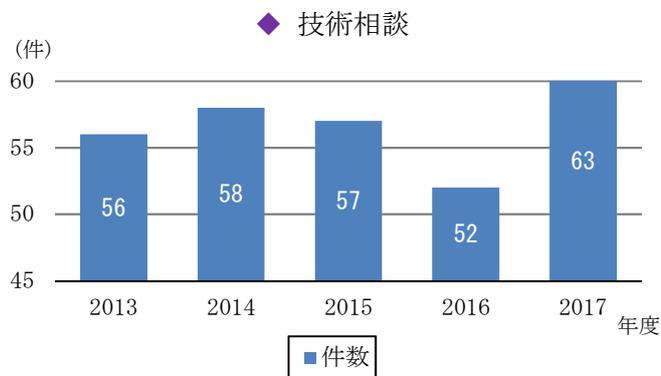
④ 受託研究等の受入状況





◆ 寄附講座

年度	金額 (千円)	件数 (件)
2013	20,000	1 (継続)
2014	10,500	1 (継続)
2015	10,500	1 (継続)
2016	10,500	1 (継続)
2017	10,500	1 (継続)



※件数及び金額は、契約した年度をもって記載

(8) 産官学連携

2018 (平成 30) 年 3 月 31 日現在

①自治体・団体・企業等との連携

	名称	連携内容	協定締結年	備考
1	相模原市立図書館, 市内大学・短期大学	相互協力	1994(平成 6)年	
2	神奈川県教育委員会	部活動支援学生ボランティア事業	2005(平成 17)年	
3	東京都町田市(町田市学長懇談会)	包括協定	2006(平成 18)年	
4	公益社団法人相模原・町田大学地域コンソーシアム	地域貢献・生涯学習	2007(平成 19)年	
5	公益財団法人日本盲導犬協会	包括協定	2008(平成 20)年	
6	一般財団法人 C.W. ニコル・アフアの森財団	学術交流	2010(平成 22)年	
7	かながわ産学公連携推進協議会	産学官連携	2010(平成 22)年	
8	日本水産株式会社	寄付講座	2011(平成 23)年	
9	神奈川県(県及び県内農学系 4 大学)	都市農業振興	2012(平成 24)年	
10	相模原市教育委員会, 座間市教育委員会	市民大学	2013(平成 25)年	
11	一般社団法人日本養豚協会	包括協定	2013(平成 25)年	
12	一般財団法人生物科学安全研究所	包括協定	2013(平成 25)年	
13	特定非営利活動法人 緑のダム北相模	包括協定	2013(平成 25)年	
14	独立行政法人地域医療機能推進機構相模野病院	包括協定	2013(平成 25)年	
15	株式会社日本産業動物管理センター	包括協定	2013(平成 25)年	
16	愛媛県	就職活動支援	2014(平成 26)年	
17	相模原市	災害時の動物救護活動	2014(平成 26)年	
18	神奈川県衛生研究所	連携協力	2014(平成 26)年	
19	一般社団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会	連携協力	2014(平成 26)年	2020(平成 32)年 12 月 31 日まで
20	相模原市	包括協定	2014(平成 26)年	
21	一般社団法人日本養豚開業獣医師協会	包括協定	2014(平成 26)年	
22	一般社団法人学術著作権協会, 全国大学図書館	資料複写	2015(平成 27)年	
23	横浜市教育委員会	教員養成の連携・協働	2015(平成 27)年	
24	神奈川県農業共済組合	連携協力	2015(平成 27)年	
25	全国食肉衛生検査所協議会	連携協力	2017(平成 29)年	
26	株式会社スポーツクラブ相模原 (S C 相模原)	クリーンパートナー契約	2017(平成 29)年	
27	株式会社ゼルビア (FC 町田ゼルビア)	クラブパートナー契約	2017(平成 29)年	
28	神奈川県	災害時の動物救護活動	2017(平成 29)年	
29	神奈川県教育委員会	連携協力	2018(平成 30)年	3 月 6 日付

②大学間連携

	名称	連携内容	協定締結年	備考
1	放送大学	単位互換	1994(平成6)年	
2	神奈川県内の大学間における学術交流協定 (県内30の大学キャンパスにおける大学院単位互換)	単位互換	2001(平成13)年	
3	日本獣医生命科学大学	連携協力	2016(平成28)年	

(9) 地域連携

2018(平成30)年3月31日現在

①地域連携事業(2017年度)

	名称	テーマ	実施日等
麻布大学 教育セミナー	麻布大学教育セミナー in 静岡	① ヒトと動物の新しい共生科学 ② 暮らしの中の水、身体の中の水 —化学物質が作る安全と危険— ③ 附属動物病院における獣医療	平成29年7月9日
	小動物臨床セミナー	① 附属動物病院皮膚科における脱毛症のアプローチ ② 心エコー検査実習 ③ 犬と猫の内分泌疾患(機能亢進症) ④ 1次診断におけるてんかんの診断 ⑤ 骨、関節のX線診断 ⑥ 整形外科的検査でナニ? ⑦ 鼻腔腫瘍の診断と治療	平成29年6月9日～ 平成30年2月9日 毎週金曜日、全7回
麻布大学生涯学習講座 ～シニアライフを生き活きと～		地域はシニアの参画を求めている	平成29年9月20日
市民大学 (相模原市教育委員会、座間市教育委員会(事業委託者:公益社団法人相模原・町田大学地域コンソーシアム)との連携事業)		① 今さら訊けない、いや、今からでも聞きたい 身近な動物たちの話	平成28年7月27日～ 9月7日 毎週水曜日、 全5回
		② 免疫と疾患の知識を深める	平成28年7月28日～ 9月8日 毎週木曜日、 全5回
		相模川を多面的に捉える ～地理学・海洋生命科学・薬学から～ あなたが相模川の汚染を引き起こしている? —医薬品による水環境汚染の可能性—	平成29年12月8日担当 行政コース:3大学連携オ ムニバス形式
さがまちカレッジ (公益社団法人相模原・町田大学地域コンソーシアムとの連携事業)		① 健康な鶏から安全な卵を手にするために —アニマルウェルフェアの考え方—	平成29年6月24日
		② 食品を作るカビを見てみよう	平成29年7月22日
		③ 動物の頭の骨を観察してみよう!～サルとタヌキの骨くらべ～	平成29年11月5日
		④ 愛されわんこを目指すには!親子でできるワンコミュニケーション	平成29年12月9日
オーサーズカフェ (相模原市立市民・大学交流センター(指定管理者:公益社団法人相模原・町田大学地域コンソーシアム)との連携事業)		① 麻布大学いのちの博物館の楽しみ方	平成29年5月27日
		② 人と羊のさまざまな関わり	平成29年9月23日

②麻布大学いのちの博物館

麻布大学いのちの博物館では、先人が残した貴重な遺産を継承するとともに、

(1)研究内容, (2)動物標本, (3)歴史資料を広く社会に紹介している。

■ 2017 年度開館日数及び入館者数

開館日数	入館者総数	うちイベント時 入館者数	うち通常時 入館者数	1日平均入館者数
250日	6,060人	2,444人	3,616人	14.4人

※ 1日平均入館者数=通常時入館者数÷開館日数

③高大連携協定校

	名称	連携内容	協定締結年	備考
1	神奈川県立座間高等学校	【大学側】	2003(平成15)年	
2	神奈川県立城山高等学校	聴講生徒・研究室体験生徒の受入れ	2003(平成15)年	
3	神奈川県立麻溝台高等学校	大学教員による高校への出張講義	2004(平成16)年	
4	神奈川県立相原高等学校	【高校側】 教育実習生の受入れ	2004(平成16)年	
5	神奈川県立川崎工科高等学校	【双方】	2010(平成22)年	
6	神奈川県立大和東高等学校	教育についての情報交換及び交流	2010(平成22)年	
7	神奈川県立相模原高等学校	その他双方が協議した合意事項	2011(平成23)年	

④聴講生徒・研究室体験生徒の受入状況(2017年度)

	聴講生徒	研究室体験生徒
獣医学部	1人	18人
生命・環境科学部		6人
附属動物病院		4人

(10) 麻布大学附属高等学校に関する情報

①教育理念

夢を語り，学問を追究・実践し，誠実なる校風の基，平和社会の建設に貢献する。

②教育方針

「未来を拓く力の育成」

高校の3年間は，人生の中でも最も多感で，社会人として必要な人格形成に重要な意味をもつ期間と捉え，生徒は，誠実な校風のもと，学業，部活等とともに仲間と学びあうことを通じて，「自己を知り，自らを磨く」ことにより，「自身の未来を拓く力（自らの進路をみつめ，学力の向上，人格的素養を磨く）」を育む。

③学校教育目標

1. 個性を伸ばし，生徒一人ひとりの進路に応じた確かな学力の定着（学力）
2. 基本的な生活習慣（あいさつ・時間厳守・マナーやルールの尊重）を育み，国際化の社会に対応できる能力（情報発信力，コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力など）の育成（生きる力）
3. 自ら課題をみつめ，自ら考え解決をめざす能力の養成（生きる力）
4. 多様な価値観を認め合い，他者を思いやる心の育成（命の大切さ）
5. あらゆる生命や自然環境を尊重する精神の涵養（命の大切さ）

2017（平成29）年5月1日現在

④教職員数

(人)

	校長	副校長	教頭	教諭	契約講師	非常勤講師	専任職員	合計
教職員数	1	1	1	36	7	39	5	90

※()は兼務者を表す。

⑤クラス別生徒数

2017（平成29）年5月1日現在

学年	クラス	組	生徒数	学年	クラス	組	生徒数	学年	クラス	組	生徒数
1年	特進クラス	A	37	2年	理系・特進クラス	A	41	3年	理系・特進クラス	A	41
		B	38			B	41			B	41
		C	37			C	41			C	40
		D	37			D	42			D	40
	進学クラス	E	37		文系・進学クラス	E	42		理系・進学クラス	E	41
		F	38			F	41			F	40
		G	37			G	41			G	40
		H	38			H	41			H	40
		I	38			I	39			I	33
							J			40	J
計 (人)			337	理系・進学クラス			K	40	K	33	
							L	39	L	33	
							M	39	M	33	
				計 (人)			527	計 (人)			489

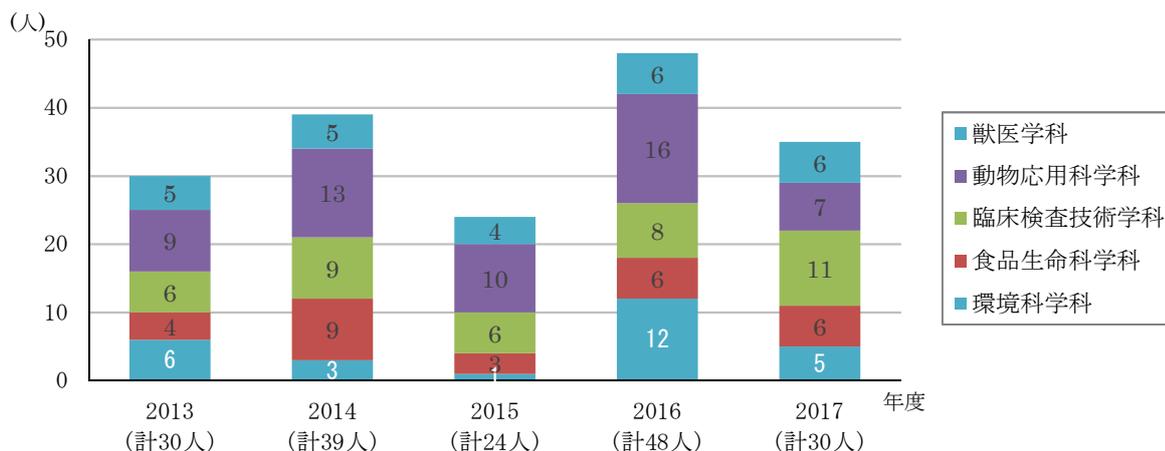
⑥卒業生数及び進路状況

2018（平成30）年5月1日現在

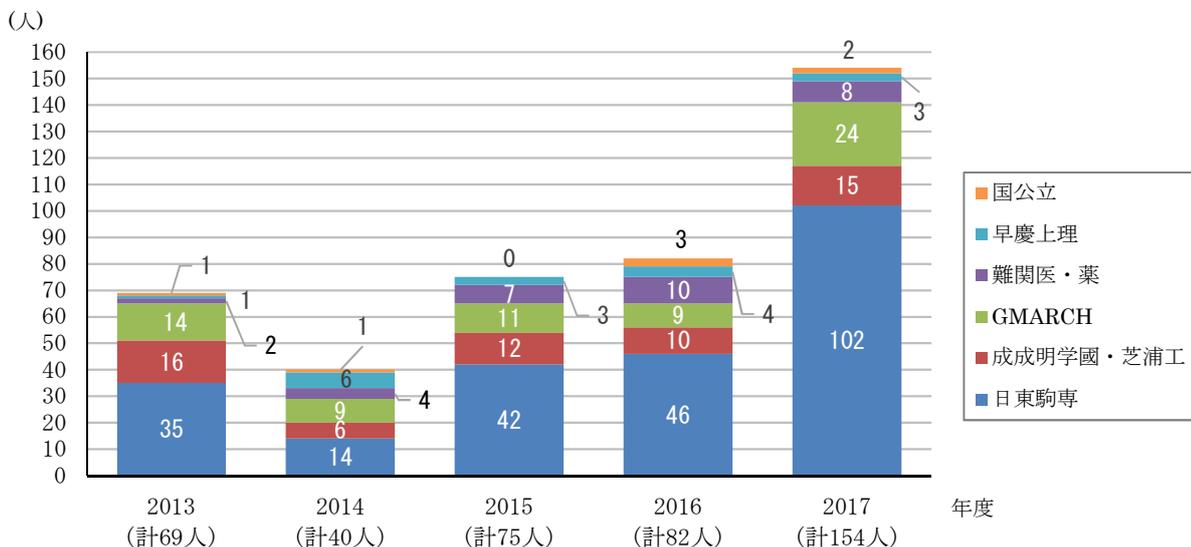
卒業生数	就職	進学						その他 (浪人等)
		麻布大学	国立大学	私立大学	短期大学	専門学校・各種学校	その他(留学等)	
488	5	30	2	305	18	56	1	71

2018（平成30）年5月1日現在

⑦麻布大学合格者数の推移



⑧難関大学合格者数の推移



※早慶上理・・・早稲田，慶応義塾，上智，東京理科
 難関医・薬・・・獨協医科，昭和，昭和薬科，東京薬科，帝京，帝京平成，横浜薬科
 GMARCH・・・明治，青山学院，立教，中央，法政，学習院
 成成明学國・芝浦工・・・成蹊，成城，明治学院，國學院，芝浦工
 日東駒専・・・日本，東洋，駒澤，専修

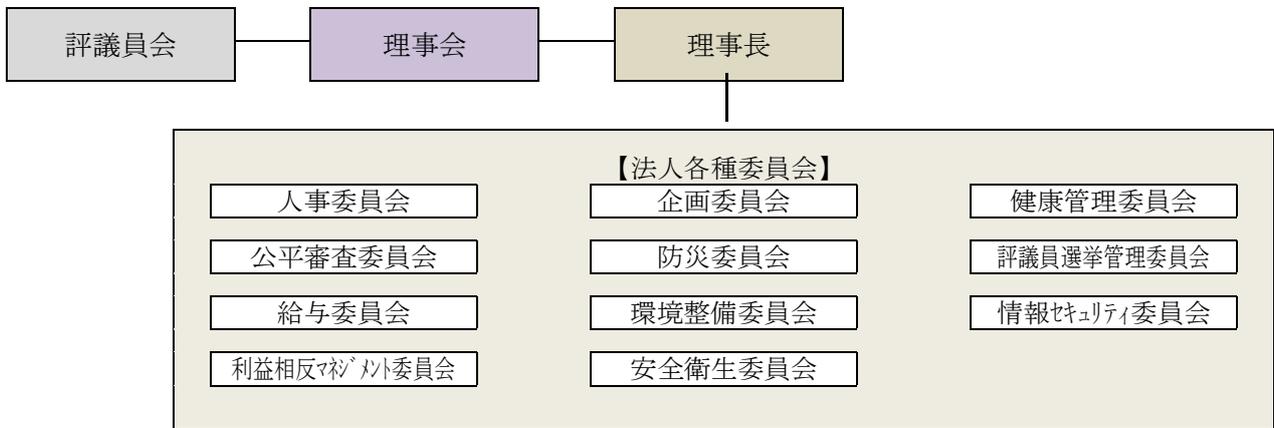
⑨入学試験結果

(人)

	募集人数	2018（平成30）年度												2017年度		2016年度				
		志願者			受験者			合格者			入学者			受験者	入学者	受験者	入学者			
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計							
全日 制 普 通 科	推薦入試	55	53	51	104	53	51	104	53	51	104	53	51	104	110	110	85	85		
	一般入 試 前期	A方式	単願	廃止														84	84	
			併願		318	271	589	317	269	586	317	269	586	43	48	91	624	137	985	237
		B方式	併願	200	259	321	580	259	321	580	259	321	580	25	40	65	675	87	733	121
			オープン方式		26	16	42	25	16	41	11	8	19	2	3	5	32	1	20	1
	一般入試後期	若干名	3	2	5	2	2	4	1	1	2	1	1	2	3	2	10	1		
一般入試計		606	610	1,216	603	608	1,211	588	599	1,187	71	92	163	1,334	227	1,832	444			
計		659	661	1,320	656	659	1,315	641	650	1,291	124	143	267	1,444	337	1,917	529			

3. 管理運営の概要

(1) 学園運営に係る会議等



(2) 会議等の開催状況

①理事会

月日	会議等	議事内容
4月25日	第1回 理事会	I 審議事項 なし II 報告事項 1) 職員の人事異動について 2) 職員（大学教員）の長期出張について 3) 平成28年度麻布大学・大学院及び附属高等学校の卒業生数及び修了者数について 4) 平成29年度麻布大学・大学院及び附属高等学校の入学人数について 5) 鶏舎整備工事の入札結果について 6) 平成29年度法人各種委員会委員について 7) 第63回臨床検査技師国家試験結果について 8) 大学報告について 9) 高等学校報告について III その他 1) 学校法人麻布獣医学園の保有する個人情報の取扱いに関する規程及び関係諸規程の一部改正等について 2) 評議員会の活動内容に関する情報公開に係る要望について 3) その他 ①大学設置基準等の一部改正について

月日	会議等	議事内容
5月30日	第2回 理事会	<p>I 審議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 麻布大学学則の一部改正(案)について 2) 学校法人麻布獣医学園の保有する個人情報の取扱いに関する規程及び関係諸規程の一部改正等(案)について 3) 平成28年度事業の実績及び決算について <ol style="list-style-type: none"> (1) 事業報告書 (2) 資金収支計算書及び事業活動収支計算書 (3) 貸借対照表 (4) 財産目録 (5) 監事監査報告書 4) 高校2号棟屋上防水工事(案)について 5) (仮称)新小動物舎建築工事(案)について <p>II 報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 創立125周年記念募金の決算報告について 2) 大学報告について 3) 高等学校報告について <p>III その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) その他 <ol style="list-style-type: none"> ①生命・環境科学部における今後の志願者確保等の方策について ②獣医学部動物応用科学科の入学者増加に伴う対応について
6月27日	第3回 理事会	<p>I 審議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 獣医学部動物応用科学科の教員採用について <p>II 報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 教員の人事について 2) (仮称)新小動物舎及び獣医臨床センター6階(小動物舎飼育施設)のケージ導入について 3) 高校2号棟屋上防水工事の入札結果について 4) 学校教育法第109条第2項に基づく平成29年度大学基準協会認証評価及び獣医学教育評価に係る実地視察について 5) 大学報告について 6) 高等学校報告について <p>III その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学園の現状と課題について 2) 学園における今後の学長の在り方について 3) 役員研修会の開催について
7月25日	第4回 理事会	<p>I 審議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 教員の人事(案)について 2) 平成29年度有価証券による運用(案)について <p>II 報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 職員の人事について 2) 有限責任監査法人トーマツ「平成28年度監査覚書」について 3) 第1・四半期の財務状況等報告について <ol style="list-style-type: none"> (1) 資金収支報告 (2) 資金残高及び資産運用報告 (3) 麻布大学附属動物病院の運営状況報告 4) (仮称)新小動物舎建築工事の入札結果について 5) 高等学校運営会議報告について 6) 大学報告について 7) 高等学校報告について <p>III その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学園の現状と課題について 2) 学園における今後の学長の在り方について(継続) 3) 役員研修会(教学役職者等との合同SD研修会)について

月日	会議等	議事内容
9月26日	第5回 理事会	<p>I 審議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 教員の人事(案)について 2) 非常勤職員の手当に関する規程の一部改正(案)について 3) 競争的資金に係る麻布大学特任教員に関する規則の特例に関する規則の制定(案)について 4) 麻布大学奨学金貸与規程の一部改正(案)について 5) 平成30年度予算編成大綱(案)について <p>II 報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 平成29年度有価証券購入について 2) 鶏舎の竣工について 3) 競争的資金等(公的機関)獲得状況について 4) 大学報告について 5) 高等学校報告について <p>III その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学園における今後の学長の在り方について(継続) 2) その他 <ol style="list-style-type: none"> ①附属動物病院における研修医制度等の課題について
10月24日	第6回 理事会	<p>I 審議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 教員の人事(案)について 2) 麻布大学奨学金貸与規程の一部改正(案)について(継続) <p>II 報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 職員の人事について 2) 第2・四半期の財務状況等報告について <ol style="list-style-type: none"> (1) 資金収支報告 (2) 資金残高及び資産運用報告 (3) 麻布大学附属動物病院の運営状況報告 3) 会計検査院の現地検査について 4) 「(仮称)新小動物舎建築工事」の進捗状況について 5) 平成29年度大学基準協会認証評価及び獣医学教育評価に係る実地調査結果について 6) 動物応用科学科の収容定員増に係る設置計画履行状況等調査(面接調査)の実施について 7) 学校法人麻布獣医学園未来募金について 8) 高等学校運営会議報告について 9) 大学報告について 10) 高等学校報告について 11) その他 <ol style="list-style-type: none"> ①第3期中期目標・中期計画(平成27年度～平成32年度)の検証体制に係る進捗状況について ②附属動物病院改革支援に係る事務局長の役割について <p>III その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学園における今後の学長の在り方について(継続) 2) その他 <ol style="list-style-type: none"> ①獣医学部の平成30年4月1日付採用に係る教員選考の理事会決定時期の変更について ②次期附属高等学校長の人事及び今後の事務局長体制について

月日	会議等	議事内容
11月21日	第7回 理事会	<p>I 審議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 教員の人事(案)について 2) 学園における今後の学長の在り方について 3) 学校法人麻布獣医学園非常勤教職員就業規則等の原案について 4) (仮称) Pig Research Center 事業構想(案)について 5) 附属高等学校の中期目標・中期計画の実現に向けて-教員体制の充実について- <p>※当日の緊急動議により議題追加</p> <p>II 報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 教員の人事について 2) 「(仮称)新小動物舎建築工事」の進捗状況について 3) 会計検査院の現地検査結果について 4) 大学報告について 5) 高等学校報告について <p>III その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) その他 <ol style="list-style-type: none"> ①附属動物病院の基本運営方針等について ②大学教員の評価制度について
12月26日	第8回 理事会	<p>I 審議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 教員の人事(案)について 2) 麻布大学附属高等学校長の人事(案)について 3) 麻布大学附属高等学校における教員体制の充実(案)について(継続) 4) 平成30年度予算要望(人員)(案)について 5) 依願退職者の取扱いについて 6) 学園における今後の学長の在り方について(継続) <p>II 報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 職員の人事について 2) 平成30年度麻布大学推薦等入学試験・編入学試験結果について 3) 「(仮称)新小動物舎建築工事」の進捗状況について 4) 平成29年度「私立大学等改革総合支援事業」の選定結果について 5) 災害時における動物救護活動に関する協定の締結について 6) 麻布大学に対する大学評価(認証評価)結果(委員会案)について 7) 麻布大学獣医学部獣医学科に対する獣医学教育評価結果(委員会案)について 8) 大学報告について 9) 高等学校報告について 10) その他 <ol style="list-style-type: none"> ①平成20年度戦略的大学連携支援事業について <p>III その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) その他 <ol style="list-style-type: none"> ①特別表彰について ②職員会からの要求書について ③獣医師対象の内視鏡セミナーの紹介について ④附属高等学校における参与の設置について

月日	会議等	議事内容
1月30日	第9回 理事会	<p>I 審議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 教員の人事(案)について 2) 麻布大学学則の一部改正(案)について 3) 本学附属機関の長の選任にかかわる麻布大学運営規程及び学校法人麻布獣医学園人事規則の一部改正(案)について 4) 依願退職者の取扱いについて(継続) 5) 学園における今後の学長の在り方について(継続) <p>II 報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 職員の人事について 2) 平成30年度麻布大学一般入学試験等の志願者状況について 3) 第3・四半期の財務状況等報告について <ol style="list-style-type: none"> (1) 資金収支報告 (2) 資金残高及び資産運用報告 (3) 麻布大学附属動物病院の運営状況報告 4) 「(仮称)新小動物舎建築工事」の進捗状況について 5) 大学報告について 6) 高等学校報告について <p>III その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 平成30年度事業計画(案)及び平成30年度予算(案)概要について 2) 職員会からの要求書に対する回答について 3) その他 <ol style="list-style-type: none"> ①今後の私立大学における定員管理、助成制度等について ②大学入学試験会場について
2月27日	第10回 理事会	<p>I 審議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 教員の人事(案)について 2) 中期目標・中期計画(平成27年度～平成32年度)の一部変更(案)について 3) 平成30年度事業計画(案)について 4) 平成30年度予算(案)について <p>II 報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 職員の人事について 2) 平成30年度麻布大学入学試験結果について 3) 平成30年度麻布大学附属高等学校入学試験結果について 4) 「(仮称)新小動物舎建築工事」の進捗状況について 5) 大学報告について 6) 高等学校報告について <p>III その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 平成30年度理事会・評議員会開催予定(案)について 2) 職員会からの「契約職員の雇用継続についての要求書」について 3) その他 <ol style="list-style-type: none"> ①動物応用科学科の収容定員増に係る設置計画履行状況等調査の結果について ②事務局長の業務報告について ③奨学金制度について ④募金事業に係る取組について ⑤学校法人麻布獣医学園退職手当支給規程について
2月27日	第11回 理事会	<p>I 審議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 中期目標・中期計画(平成27年度～平成32年度)の一部変更(案)について 2) 平成30年度事業計画(案)について 3) 平成30年度予算(案)について

月日	会議等	議事内容
3月20日	第12回 理事会	<p>I 審議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 教員の人事(案)について 2) 学校法人麻布獣医学園非常勤教職員就業規則等の制定及び学校法人麻布獣医学園人事規則等の一部改正について 3) 麻布大学運営規程の一部改正(案)について 4) 麻布大学附属動物病院(家畜病院)規則の一部改正(案)について 5) 麻布大学いのちの博物館規則の一部改正(案)について 6) 生命・環境科学部の寄附講座設置(案)について <p>II 報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 平成30年度麻布大学一般入学試験等結果について 2) 平成30年度麻布大学附属高等学校入学試験結果について 3) 第69回獣医師国家試験結果について 4) 「(仮称)新小動物舎建築工事」の進捗状況について 5) 神奈川県教育委員会と麻布大学との連携と協力に関する協定書について 6) 麻布大学に対する大学評価(認証評価)結果について 7) 麻布大学獣医学部獣医学科に対する獣医学教育評価結果について 8) 専門職大学及び専門職学部・学科の創設に係る関係法令の公布について 9) 大学報告について 10) 高等学校報告について <p>III その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 設置計画履行状況等調査結果に係る対応について 2) 平成30年度 学園・麻布大学・麻布大学附属高等学校の行事予定について 3) その他 <ol style="list-style-type: none"> ①麻布大学学長選挙について ②次期学長候補者との面談・意見聴取について

②評議員会

月日	会議等	議事内容
5月30日	第1回 評議員会	<p>I 報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) キャンパスマスタープラン第III期の進捗状況について 2) 創立125周年記念募金の決算報告について <p>II 協議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 平成28年度事業の実績及び決算について <ol style="list-style-type: none"> (1) 事業報告書 (2) 資金収支計算書及び事業活動収支計算書 (3) 貸借対照表 (4) 財産目録 (5) 監事監査報告書 <p>III その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 評議員会の活動内容に関する情報公開について 2) その他
2月27日	第2回 評議員会	<p>I 報告事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) キャンパスマスタープラン第III期の進捗状況について 2) 平成30年度麻布大学入学試験結果について 3) 平成30年度麻布大学附属高等学校入学試験結果について 4) 麻布大学附属高等学校長の人事について <p>II 協議事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 中期目標・中期計画(平成27年度～平成32年度)の一部変更(案)について 2) 平成30年度事業計画(案)について 3) 平成30年度予算(案)について <p>III その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 平成30年度評議員会開催予定(案)について 2) その他

③給与委員会

月日	会議等	議事内容
9月11日	第1回給与委員会	1.平成29年10月1日付け採用者の格付について
1月30日	第2回給与委員会	1.平成30年4月1日付け採用者の格付について
3月8日	第3回給与委員会	1.平成30年4月1日付け採用者の格付について

④環境整備委員会

月日	会議等	議事内容
4月11日	第1回環境整備委員会（持ち回り）	1.委員の一部変更について 2.化学物質の安全管理保管に係る専門委員会の設置について

⑤安全衛生委員会

月日	会議等	議事内容
4月24日	第1回安全衛生委員会（持ち回り）	1.平成29年3月の事務職員の超過勤務状況について 2.学内巡視の状況について 3.その他
6月2日	第2回安全衛生委員会（持ち回り）	1.労働災害について 2.平成29年4月の事務職員の超過勤務状況について 3.学内巡視の状況について 4.その他
6月26日	第3回安全衛生委員会（持ち回り）	1.平成29年5月の事務職員の超過勤務状況について 2.学内巡視の状況について 3.その他
7月31日	第4回安全衛生委員会（持ち回り）	1.平成29年6月の事務職員の超過勤務状況について 2.学内巡視の状況について 3.その他
8月28日	第5回安全衛生委員会（持ち回り）	1.平成29年7月の事務職員の超過勤務状況について 2.学内巡視の状況について 3.その他
9月25日	第6回安全衛生委員会（持ち回り）	1.職員会推薦委員の任期について 2.平成29年8月の事務職員の超過勤務状況について 3.学内巡視の状況について 4.その他
9月28日	臨時安全衛生委員会（持ち回り）	1.職員会からの委員の推薦について
10月30日	第7回安全衛生委員会（持ち回り）	1.平成29年9月の事務職員の超過勤務状況について 2.学内巡視の状況について 3.その他
11月27日	第8回安全衛生委員会（持ち回り）	1.ストレスチェック実施結果について 2.労働災害について 3.平成29年10月の事務職員の超過勤務状況について 4.学内巡視の状況について 5.その他
12月25日	第9回安全衛生委員会（持ち回り）	1.平成29年11月の事務職員の超過勤務状況について 2.学内巡視の状況について 3.その他

月日	会議等	議事内容
1月30日	第10回安全衛生委員会（持ち回り）	1. 労働災害について 2. 平成29年12月の事務職員の超過勤務状況について 3. 学内巡視の状況について 4. その他
2月26日	第11回安全衛生委員会（持ち回り）	1. 平成30年度安全衛生委員会開催日程及び職場巡視日程（案）について 2. 平成30年度安全衛生管理活動計画表（案）について 3. 平成30年1月の事務職員の超過勤務状況について 4. 学内巡視の状況について 5. その他
3月26日	第12回安全衛生委員会（持ち回り）	1. 労働災害について 2. 平成30年2月の事務職員の超過勤務状況について 3. 学内巡視の状況について 4. その他

⑥防災委員会

月日	会議等	議事内容
7月19日	第1回防災委員会	1. 学校法人麻布獣医学園消防計画別表（火元責任者等）の一部改正について（案） 2. 自衛消防隊編成の一部改正について（案） 3. 平成29年度 防災訓練の実施について（案） 4. 平成29年度入学者向け防災教育の実施について（報告） 5. その他
12月13日	第2回防災委員会（持ち回り）	1. 学校法人麻布獣医学園消防計画別表の一部改正について

⑦健康管理委員会

月日	会議等	議事内容
10月17日	第1回健康管理委員会	1. 平成30年度事業計画及び予算案について

(3) 2017（平成29）年度 主要行事

	大学		附属高等学校
	会議	行事等（学園行事含む）	会議・行事等
4月	獣医学部教授会（3日） 生命・環境科学部教授会（10日） 環境保健学研究科教授会（12日） 教学会議（18日） 部局長連絡会議（19日） 獣医学研究科教授会（24日）	学年始め及び前期始め（1日） 入学式（2日） 入学者オリエンテーション（2・4～6日） 辞令交付式（3日） 事務職員採用者研修（4日） プレメントテスト（4・5日） 大学院入学者オリエンテーション（5日） 大学院在学者が イアンス（5日） JSPS 特別研究員説明会（5日） 在学者・編入生が イアンス（6日） 組換えDNA 実験教育訓練（6・17日） 前期授業開始（7日）	前期始業式（6日） 職員会議（6・27日） 入学式（7日） オリエンテーション（10・11日） 健康診断（12日） 部長会議（18・25日） 部会議（20日） 保護者進路説明会（30日） 修学旅行説明会（30日）
5月	獣医学部教授会（8日） 環境保健学研究科教授会（10日） 生命・環境科学部教授会（15日） 教学会議（16日） 部局長連絡会議（17日） 獣医学研究科教授会（29日）	監査法人監査（1～11日） 決算に係る学内監査（18日） 共同利用施設合同説明会（22日） 卒業生子女対象入試説明会（28日）	部長会議（2・16・30日） 体育祭（10日） 学年会議（18日） 中間試験（23～26日）

II 事業の概要

	大学		附属高等学校
	会議	行事等（学園行事含む）	会議・行事等
6月	獣医学部教授会(5日) 生命・環境科学部教授会(12日) 環境保健学研究科教授会(14日) 教学会議(20日) 部局長連絡会議(21日) 獣医学研究科教授会(26日)	ミニ・オープンキャンパス(4日) バイオセキュリティ教育講演会(6日) 研究倫理セミナー(19日) 学業成績優秀者・学生功労賞・ 増井光子賞表彰式(23日) 共同利用施設合同説明会(27日)	部長会議(6・13・27日) 職員会議(8日) 学年会議(15日) 修学旅行(2年)(16～24日) 校外行事：社会見学(16日) 校外行事：テーブルマナー(16日) 部会議(29日)
7月	獣医学部教授会(3日) 生命・環境科学部教授会(10日) 環境保健学研究科教授会(12日) 教学会議(18日) 部局長連絡会議(19日) 獣医学研究科教授会(24日) 環境保健学研究科臨時教授会(26日)	大学院入学試験(第I期・10月 期)(15日) vetOSCE本試験(22日) 科研費獲得セミナー(24日) 前期授業終了(27日) 前期定期試験(31日～8月3日)	期末試験(5～11日) 部長会議(11日) 学年会議(11日) 職員会議(19日) 前期終業式(20日) 部会議(20日)
8月	獣医学部教授会(1日) 生命・環境科学部教授会(4日)	オープンキャンパス(5・6日) 夏期休業(11日～9月14日) vetOCBT本試験(19日) 役員研修会(29日)	公私合同説明会(9日) オープンスクール(27日) 後期始業式(30日) 職員会議(30日)
9月	獣医学研究科教授会(11日) 環境保健学研究科教授会(13日) 教学会議(19日) 部局長連絡会議(20日) 学術研究戦略会議(28日)	学園創立記念日(10日) 前期追・再試験(15～21日) グランディング事業中間報告会(20日) 第92回麻布獣医学会(23日) 前期終わり(24日) 後期始め(25日) 後期授業開始(25日) 高大合同SD研修会(27日) 高大連携に係る教育交流懇談会 (27日) 9月期卒業式(29日)	翔淵祭(文化祭)(2・3日) 部長会議(12・19・26日) 部会議(14日) 職業学習(1年)(25日) 入試説明会(2年)(25日)
10月	獣医学部教授会(2日) 生命・環境科学部教授会(9日) 環境保健学研究科教授会(11日) 獣医学部臨時教授会(13日) 教学会議(17日) 部局長連絡会議(18日) 獣医学研究科教授会(30日)	辞令交付式(2日) 大学院入学式(2日) 卒業生後継者特別入学試験(7日) A0入学試験(第2次選抜)(7日) 防災訓練(19日) 共同利用施設合同説明会(19日) 大学祭(21・22日) グランディング事業パル展示会 (21・22日) 知財啓発セミナー(24日)	文理説明会(2年)(2日) 部長会議(2・10・17・24・31日) 職員会議(5日) 学年会議(12日) 中間試験A(17～20日) 防災訓練(20日) 部会議(26日) 学校説明会(28日) 文理選択説明会(1年)(30日)

	大学		附属高等学校
	会議	行事等 (学園行事含む)	会議・行事等
11 月	獣医学部教授会 (6 日) 環境保健学研究科教授会 (8 日) 生命・環境科学部教授会 (8 日) 教学会議 (14 日) 部局長連絡会議 (15 日) 獣医学部臨時教授会 (23 日) 生命・環境科学部臨時教授会 (24 日) 獣医学研究科教授会 (27 日)	第 37 回麻布環境科学研究会 (3 日) 研究倫理セミナー (10 日) 永年勤続表彰 (15 日) 推薦・特別入学試験 (18 日) 生命・環境科学部編入学試験 (18 日)	芸術鑑賞会 (2 日) 部長会議 (7・14・21・28 日) 職員会議 (9 日) 球技大会 (10 日) 学年会議 (16 日) 科目説明会 (1 年) (20 日) 学校説明会 (23 日) 保護者進路説明会 (26 日) 選択科目説明会 (2 年) (27 日) 部会議 (30 日)
12 月	獣医学部教授会 (4 日) 生命・環境科学部教授会 (11 日) 環境保健学研究科教授会 (13 日) 獣医学研究科教授会 (18 日) 教学会議 (19 日) 部局長連絡会議 (20 日)	ハラスメント防止研修会 (5・7 日) 後期定期試験 臨床検査技術学科 3・4 年次 (5~7 日) 後期追・再試験 臨床検査技術学 科 3・4 年次 (18~20 日) 冬期休業 (23 日~1 月 8 日) 仕事納め (28 日)	個別進学相談会 (2・3 日) 部長会議 (5 日) 職員会議 (6 日) 中間試験 B (7~13 日) 一般入試出願説明会 (3 年) (13 日) 学年会議 (14 日) 部会議 (14 日) 保護者対象一般入試説明会 (3 年) (17 日) 冬期休業 (23 日~1 月 10 日)
1 月	獣医学部教授会 (9 日) 環境保健学研究科教授会 (10 日) 生命・環境科学部教授会 (15 日) 教学会議 (16 日) 部局長連絡会議 (17 日) 獣医学研究科教授会 (29 日)	仕事始め (9 日) 授業開始日 (9 日) 大学入試センター試験 (13・14 日) 後期授業終了 (24 日) 後期定期試験 (29~31 日・2 月 5 日)	授業開始日 (11 日) 職員会議 (11・25 日) センター試験自己採点会 (3 年) (15 日) 小論文模試 (1・2 年) (15 日) 部長会議 (16・23・30 日) 学年会議 (18 日) 推薦入学試験 (22 日) 卒業認定会議 (25 日)
2 月	獣医学部教授会 (6 日) 獣医学部臨時教授会 (6 日) 生命・環境科学部教授会 (8 日) 環境保健学研究科教授会 (14 日) 教学会議 (20 日) 部局長連絡会議 (21 日) 獣医学研究科教授会 (26 日)	一般入学試験 (第 I 期) (1~4 日) 後期定期試験合否発表 (13 日) 大学院入学試験 (第 II 期) (16 日) 一般入学試験 (第 II 期) (28 日)	部会議 (1・22 日) センター模試 (2 年) (2 日) 部長会議 (6・13・20・27 日) 職員会議 (8 日) 一般入学試験 (前期) (10 日) 学年会議 (15 日) 小論文模試 (1・2 年) (19 日)
3 月	獣医学部教授会 (1 日) 生命・環境科学部教授会 (2 日) 環境保健学研究科教授会 (2 日) 獣医学部臨時教授会 (5・16 日) 生命・環境科学部臨時教授会 (6・16 日) 獣医学研究科教授会 (6 日) 教学会議 (12 日) 部局長連絡会議 (13 日)	生物研平成 29 年度研究プロジェクト 報告会 (12 日) 卒業式・修了式 (15 日) 春期休業 (24~31 日) ミニ・オープンキャンパス (25 日) プランディング事業パル展示会 (25 日) 辞令交付式 (29 日) 後期終わり及び学年終わり (31 日)	卒業式 (1 日) 学年末試験 (5~9 日) 一般入学試験 (後期) (6 日) 部長会議 (7・13・22 日) 部会議 (15 日) 学年会議 (15 日) 進級会議 (16 日) 職員会議 (16・23 日) 新入生説明会 (17 日) 卒業生入試講演会 (1 年) (19 日) 修了式・離任式 (20 日) ハラスメント防止研修会 (20 日) 新年度準備会議 (23 日)

1. 学校法人会計の特徴と企業会計との比較

学校法人は、「教育研究活動」という公共性の高い事業を遂行することを目的としており、この教育研究活動を円滑に遂行するため財政の安定と永続性が求められます。原則として企業のように利益追求(営利)を目的とするわけではないため、企業における損益計算を目的とする商業簿記による会計処理では、学校法人の経営状況を把握することが難しくなります。そのため、学校法人では企業会計とは異なる独自の会計形態をとっており、これを「学校法人会計」といいます。

学校法人会計と企業会計は、次のような違いがあります。

	学校法人会計	企業会計
目的	永続的な運営のため、「収支の均衡状況」と「財政状態」を正確に捉えること	「損益」(収益と費用)を正しく計算し、企業の「営業成績」と「財政状態」を利害関係者に開示すること
会計基準	学校法人会計基準	企業会計原則, 原価計算基準等
会計年度	4月1日～翌年3月31日	定款で定めることができる
作成書類	資金収支計算書 事業活動収支計算書 貸借対照表 上記附属の内訳表・明細表	キャッシュフロー計算書(上場企業) 損益計算書 貸借対照表 株主資本等変動計算書
決算書類の様式	予算額, 決算額及びその差異を明記すること	予算額記載の必要性なし
基本財産	基本(自己所有財産)	基本(株主出資)
利益処分	なし(収支均衡を原則とする)	あり(株主配当)
管理機能	あり(予算管理も重視)	あり(主に決算管理)
受託責任機能	教育研究を支援する委託者(学費支弁者, 国・公共団体, 寄付者等)	利益獲得を目的とする委託者(株主, 利害関係者等)
利益測定機能	なし(事業活動収支計算書にて収支バランスの測定)	あり(損益計算書)

学校法人会計において作成する計算書類

① 資金収支計算書

当該会計年度に行った諸活動に対応する全ての収入及び支出の内容を明らかにし、支払資金(現金及び預貯金)の収入及び支出の顛末を明らかにするものです。

② 事業活動収支計算書

当該会計年度の事業活動毎の収支の内容と均衡状態を明確にし、経営状況を表すものです。

法人に帰属する負債(借入金, 前受金等)にならない収入(事業活動収入)から基本金組入額を差し引いた額と資産・借入金返済などの資本的支出にあてる額を除いた支出を計上します。

③ 貸借対照表

決算日(年度末)における資産・負債・基本金及び収支差額を明らかにし、学校法人の財政状態を表すものです。

2. 財務状況の推移

(1) 事業活動収支計算書の推移

学校法人会計基準【改正前】(消費収支) (単位:円)			
科目	2013年度	2014年度	
学生生徒等納付金	4,936,470,200	4,994,001,700	消費 収入 関係
手数料	191,821,115	192,797,650	
寄付金	84,834,965	90,241,174	
補助金	777,433,536	740,605,538	
資産運用収入	36,324,246	31,116,730	
資産売却差額	0	2,653,963	
事業収入	410,880,258	435,783,190	
雑収入	150,990,208	287,244,465	
帰属収入計	6,588,754,528	6,774,444,410	

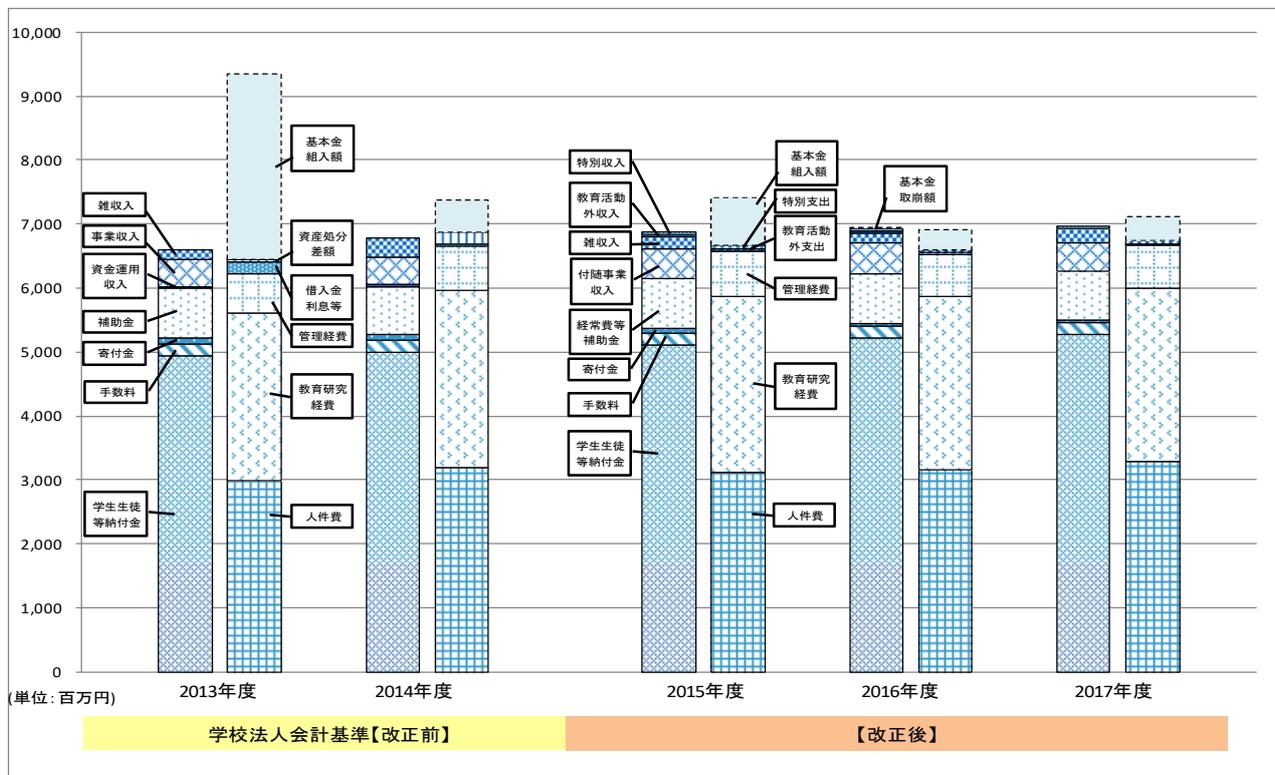
科目	2013年度	2014年度	
人件費	2,988,066,683	3,198,510,536	消費 支出 関係
教育研究経費	2,623,276,994	2,757,594,306	
管理経費	615,500,953	692,815,627	
借入金等利息	182,014,558	32,912,714	
資産処分差額	31,175,026	197,137,411	
徴収不能額	0	0	
徴収不能引当金繰入額	413,982	1,655,812	
消費支出計	6,440,448,196	6,880,626,406	

基本金組入額	2,895,538,495	495,854,834
基本金取崩額	0	0

【改正後】(事業活動収支) (単位:円)				
科目	2015年度	2016年度	2017年度	
学生生徒等納付金	5,112,809,650	5,221,497,850	5,267,040,850	事業 活動 収入 関係
手数料	188,448,340	177,049,816	190,241,490	
寄付金	70,188,423	47,600,060	40,779,399	
経常費等補助金	781,030,264	781,703,145	756,267,637	
付随事業収入	452,235,542	481,611,999	451,016,299	
雑収入	201,204,161	151,843,988	214,924,527	
教育活動外収入計	21,210,432	22,947,410	13,412,778	
特別収入計	45,669,619	44,361,876	39,414,065	
事業活動収入計	6,872,796,431	6,928,616,144	6,973,097,045	

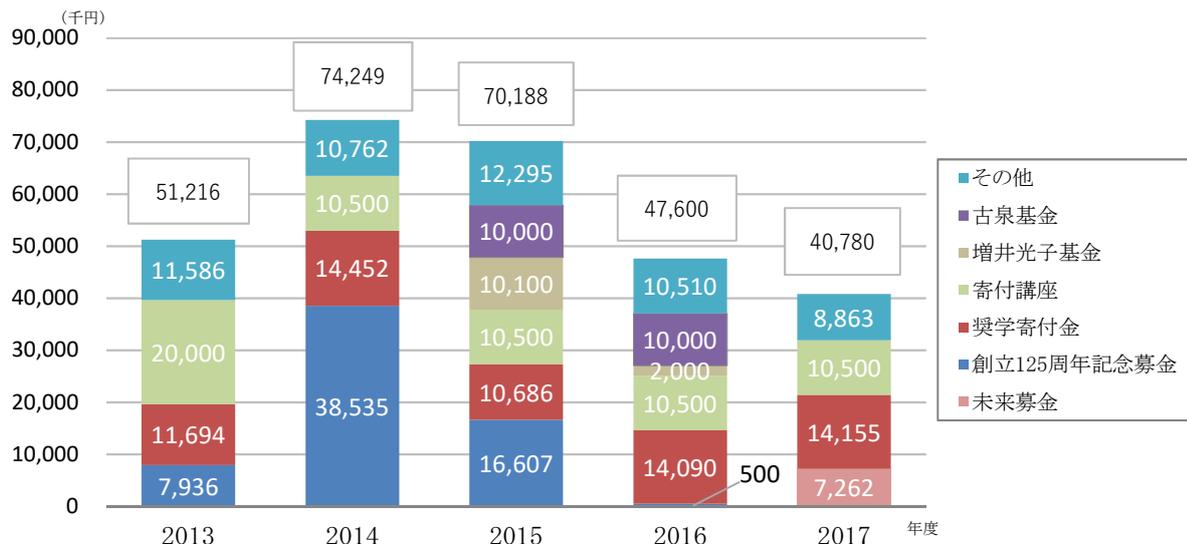
科目	2015年度	2016年度	2017年度	
人件費	3,118,588,362	3,158,760,325	3,286,166,411	事業 活動 支出 関係
教育研究経費	2,752,280,725	2,706,180,530	2,704,150,097	
管理経費	709,288,704	653,509,077	669,797,694	
徴収不能額等	1,639,226	1,909,276	1,771,653	
教育活動外支出計	30,912,734	28,912,755	26,912,774	
特別支出計	58,467,425	39,945,903	46,690,149	
事業活動支出計	6,671,177,176	6,589,217,866	6,735,488,778	

基本金組入額	741,760,042	327,990,932	376,655,036
基本金取崩額	0	16,000,000	0



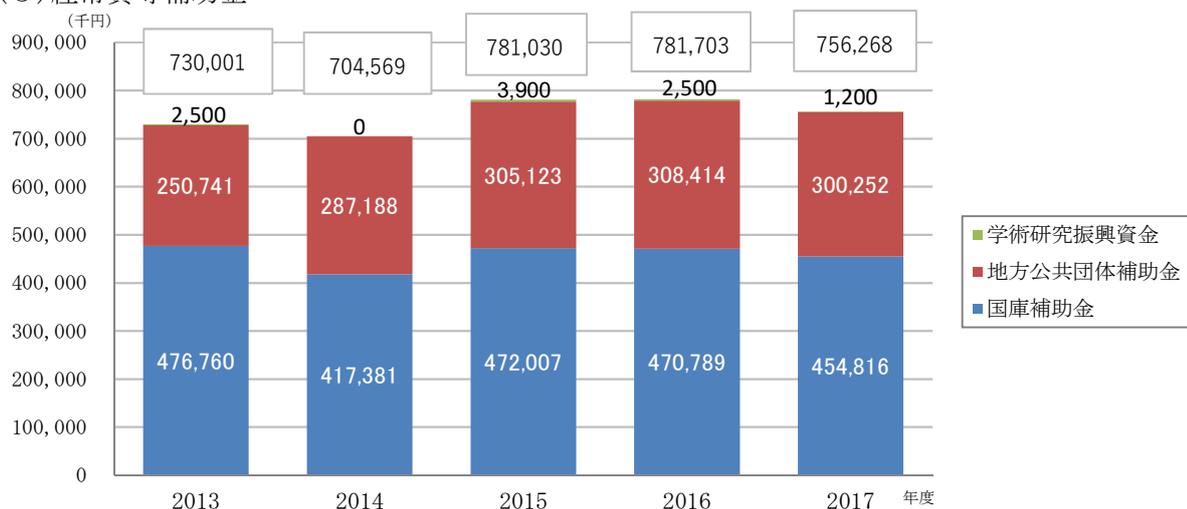
※ 学校法人会計基準の改正に伴い、2015年度より、『消費収支』は『事業活動収支』に改められた。
 『事業活動収支』は、「教育活動収支」、「教育活動外収支」及び「特別収支」に区分され、経常的な活動及び臨時的な活動における収支内容が明らかとなった。
 ※ 基本金組入額とは、学校法人の永続的維持に必要な資産を継続的に保持するため、維持すべきものとして事業活動収入のうちから組み入れた金額で、組み入れるべき金額としては、教育の用に供される固定資産額で、以下のようなものがある。
 建物、構築物、教育研究用機器備品、図書などの取得価額の合計

(2) 寄付金の推移



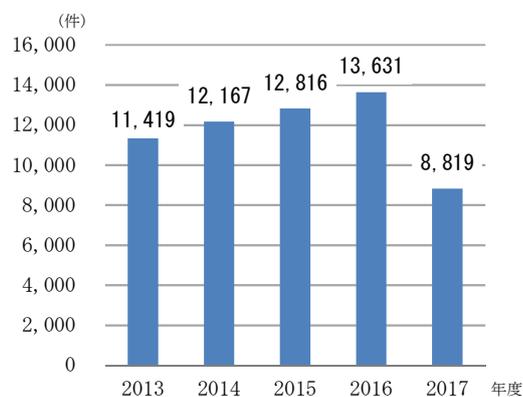
1. 枠内の数字は、各年度の寄付金合計金額(千円)である。
2. 2017年度から麻布獣医学園未来募金を開始した。

(3) 経常費等補助金

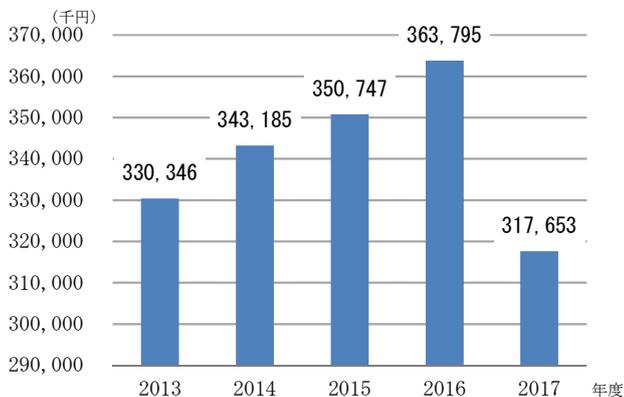


1. 枠内の数字は、各年度の補助金合計金額(千円)
2. 2016年度及び2017年度に私立大学等改革総合支援事業に選定された。
3. 2016年度に支援期間5年の私立大学研究ブランディング事業に選定された。

(4) 附属動物病院診療件数



(5) 附属動物病院診療収入



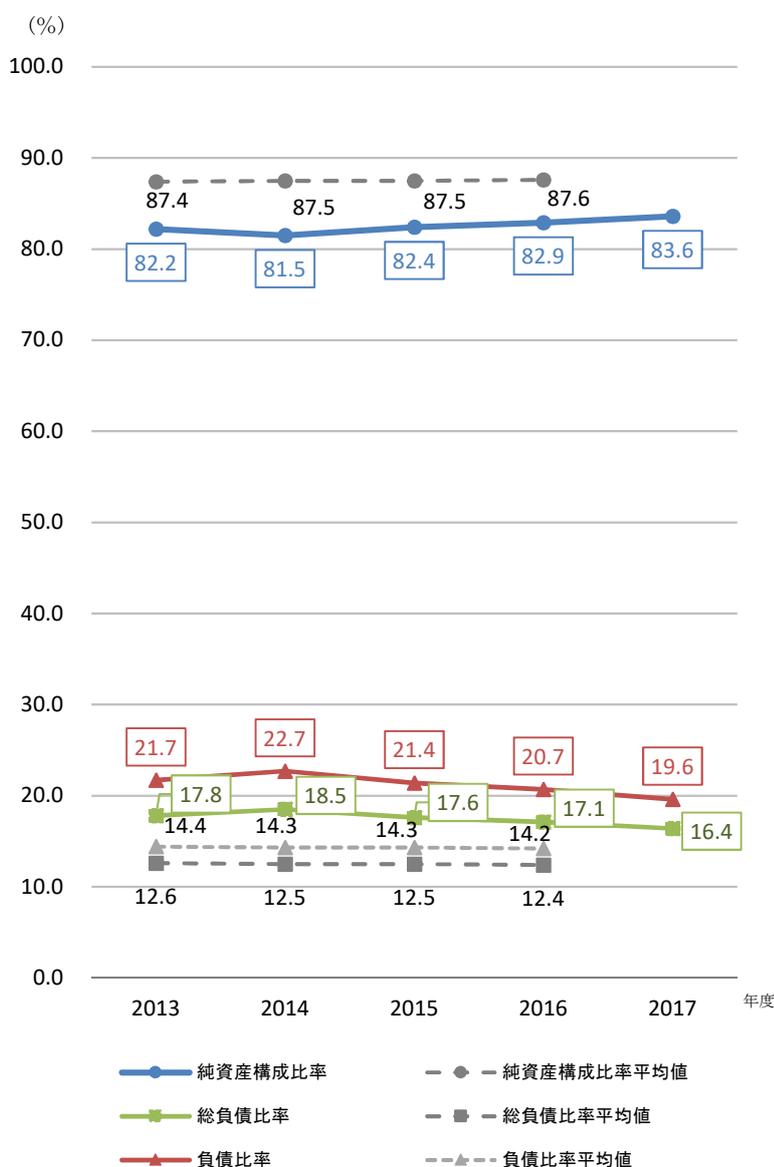
※学用(教育研究用)の件数を除く。

3. 財務比率の推移

- 掲載している本学の財務比率は、「新学校法人会計基準」(※)に基づき算出したものです。
- 財務比率の「全国平均値」は、いずれも「今日の私学財政(大学・短期大学編)」(日本私立学校振興・共済事業団編)の医歯系法人を除く大学法人の平均値です。

※ 新学校法人会計基準：2015(平成27)年4月1日付け施行の学校法人会計基準の一部を改正する省令(平成25年4月22日文科科学省令第15号)により改正された学校法人会計基準。2015(平成27)年度以降の財務計算書類に適用されている。

(1) 純資産構成比率, 総負債比率, 負債比率



☞ 「純資産構成比率」 = $\frac{\text{純資産}}{\text{総負債} + \text{純資産}} \times 100$

○資産の調達源泉を分析し、財政基盤の安定性を把握することができる最も概括的で重要な指標であり、高いほど、総資産に対する自己資金率が高く、財政状態が安定しているといえる。

☞ 「総負債比率」 = $\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}} \times 100$

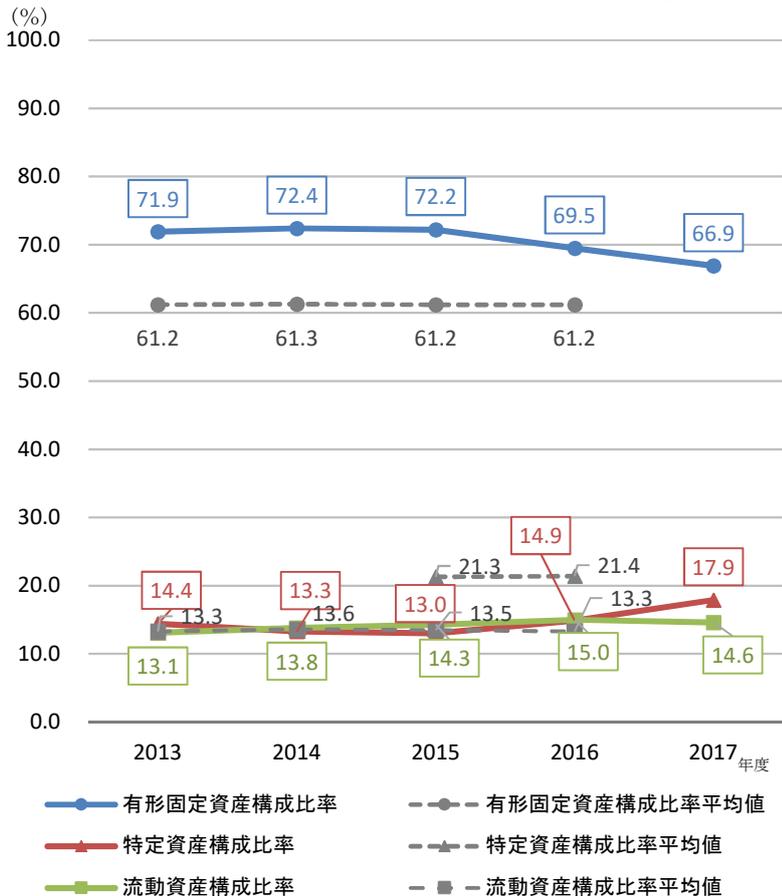
○総資産に対する他人資金の比重を評価する比率で、低いほど、自己資金が多く、財政基盤が安定しているといえる。

☞ 「負債比率」 = $\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}} \times 100$

○他人資金である総負債が、自己資金である純資産を上回っていないかを測る比率であり、低い方が望ましい。

- 純資産構成比率は、全国平均値よりも低い水準です。総負債比率及び負債比率は、全国平均値よりも高い水準で推移しています。

(2) 有形固定資産構成比率, 特定資産構成比率, 流動資産構成比率



●有形固定資産構成比率は、全国平均値よりも高い水準で推移しています。特定資産構成比率は、全国平均値よりも低い水準です。流動資産構成比率は、全国平均値に近い水準で推移しています。

☞「有形固定資産構成比率」= 有形固定資産 ÷ 総資産 × 100

○土地・建物等の有形固定資産の構成比が、資産構成上、バランスをとれているか評価する指標である。学校規模に対して、設備投資が過剰となる場合は、財政を逼迫させる要因となるため、注意が必要である。

☞「特定資産構成比率」= 特定資産 ÷ 総資産 × 100

○長期にわたって特定の目的のために保有する金融資産の蓄積状況の評価する指標である。この比率が高い場合、中長期的な財政支出に対する備えが充実しており、計画的な学校法人経営に資するといえる。

☞「流動資産構成比率」= 流動資産 ÷ 総資産 × 100

○現金預金や短期有価証券などの現金化が可能な資産の保有状況の評価する指標である。この比率が著しく低い場合、資金繰りが苦しい状況にあると評価できるが、低い場合であっても、有利な運用条件を求めて特定資産化している場合もあり、その点も合わせて評価する必要がある。

◆「固定資産」について◆

2014年度までの旧区分：

「固定資産 = 有形固定資産 + (旧)その他の固定資産」
↓

2015年度からの新区分：

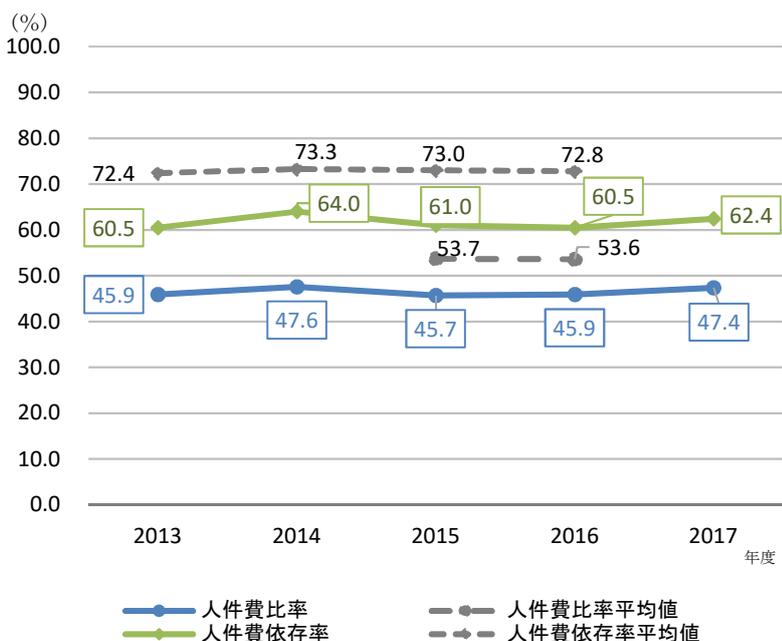
「固定資産 = 有形固定資産 + (新)特定資産 + (新)その他の固定資産」

○「(旧)その他の固定資産」が「(新)特定資産」と「(新)その他の固定資産」に区分され、「(新)特定資産構成比率」が新設されました。

(新)特定資産：用途が特定されている預金や有価証券等（各種引当特定資産等）

(新)その他の固定資産：電話加入権、ソフトウェア等

(3) 人件費比率, 人件費依存率



●人件費比率及び人件費依存率は、いずれも全国平均値よりも低い水準です。

☞「人件費比率」= 人件費 ÷ 経常収入 × 100

○人件費は経常支出の中で最大の部分を占めるため、この比率が特に高くなると支出全体を膨張させ、収支の悪化を招きやすい。

☞「人件費依存率」= 人件費 ÷ 学生生徒等納付金 × 100

○一般的に人件費は学生生徒等納付金で賄える範囲内に収まっていること(100%以内)が理想的である。

◆ (旧) 帰属収入と (新) 経常収入について ◆

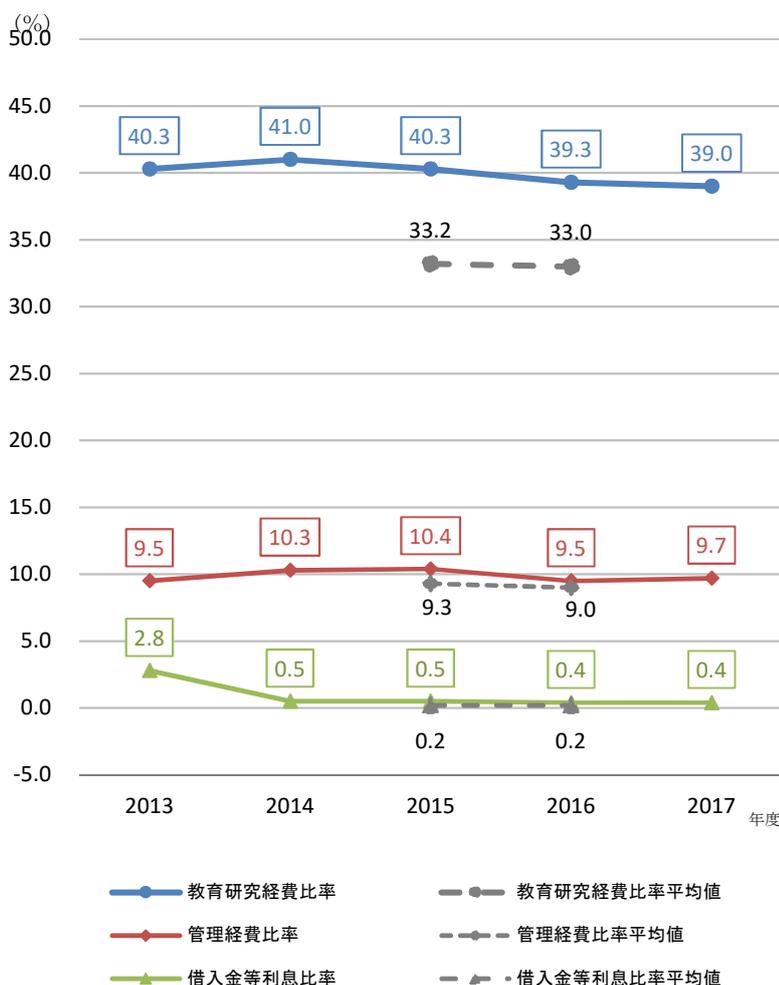
○ (旧) 帰属収入 = (新) 事業活動収入

○ (新) 経常収入 = (新) 教育活動収入 + 教育活動外収入 【(旧) 帰属収入 - 臨時的な収入】

経常収入とは、「(旧) 消費収支計算書」における「帰属収入」(負債とならない収入)から臨時的な収入(施設設備取得に対する補助金及び寄付金, 有価証券や不動産等の資産売却差額等)を除いた通常の実業活動によって得た経常的な収入のことをいいます。したがって, (旧) 帰属収入 > (新) 経常収入となります。

新学校法人会計基準の施行に伴い, 従来, 帰属収入を分母としていた財務比率の多くが, 経常収入を分母とするよう変更になりました。

(4) 教育研究経費比率, 管理経費比率, 借入金等利息比率



☞ 「教育研究経費比率」 = 教育研究経費 ÷ 経常収入 × 100

○教育研究経費は, 学校法人の本業である教育研究活動の維持・発展を支えと共に, 経常費等補助金の配分とも関係する費用であり, 収支均衡を失しない範囲内(基本金組入後収支比率が 100%前後であること)で高くなることが望ましい。

☞ 「管理経費比率」 = 管理経費 ÷ 経常収入 × 100

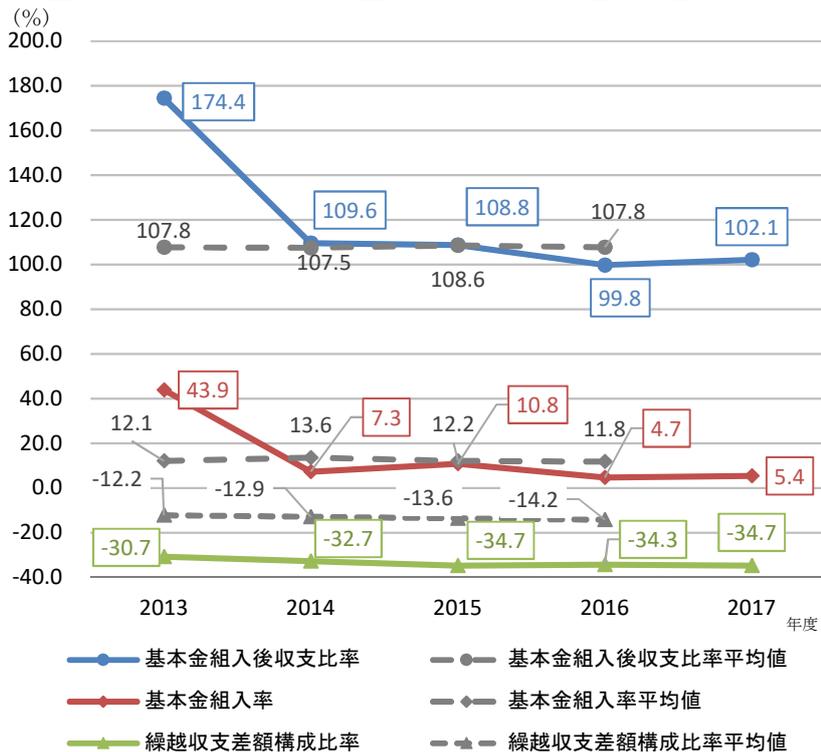
○管理経費は, 学校法人の運営のため, ある程度の支出は必要であるが, 教育研究活動以外の目的で支出される経費であり, 比率としては低い方が望ましい。

☞ 「借入金等利息比率」 = 借入金等利息 ÷ 経常収入 × 100

○借入金等利息は, 外部有利子負債がなければ発生しないものであるため, この比率は低い方が望ましい。

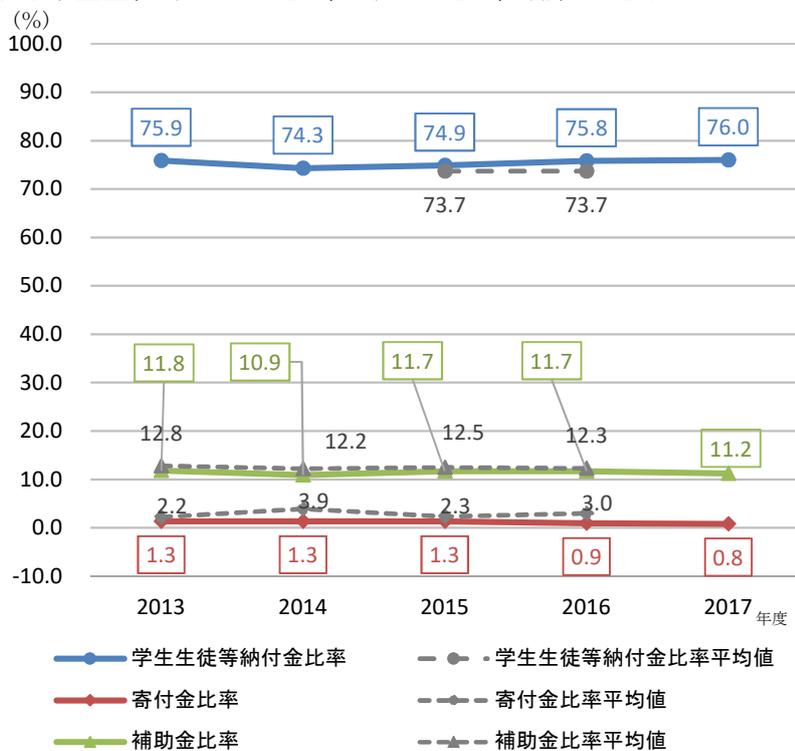
●教育研究経費比率, 管理経費比率及び借入金等利息比率は, いずれも全国平均値より高い水準です。

(5) 基本金組入後収支比率, 基本金組入率, 繰越収支差額構成比率



●繰越収支差額構成比率は、0%以下で全国平均値よりも低い水準で推移しています。

(6) 学生生徒等納付金比率, 寄付金比率, 補助金比率



●学生生徒等納付金比率は、全国平均値よりも高い水準で推移しています。寄付金比率及び補助金比率は、全国平均値よりも低い水準で推移しています。

☞「基本金組入後収支比率」= 事業活動支出 ÷ (事業活動収入 - 基本金組入額) × 100

○この比率は、一般的に収支が均衡する100%前後が望ましいと考えられるが、基本金組入額の影響を受けるため、評価する際は、基本金組入内容を考慮する必要がある。

☞「基本金組入率」= 基本金組入額 ÷ 事業活動収入 × 100

○大規模な施設の取得等を単年度に集中して行った場合、一時的にこの比率が上昇する。

☞「繰越収支差額構成比率」= 繰越収支差額 ÷ (総負債 + 純資産) × 100

○繰越収支差額は、毎会計年度の当年度収支差額が累積されたもので、学校法人の収支均衡状態を示す重要な指標であり、収支均衡を示す0%前後であることが望ましい。ただし、繰越収支差額は、主に基本金組入額の影響を受けるため、基本金組入内容や中長期的な事業計画と合わせて評価する必要がある。

☞「学生生徒等納付金比率」= 学生生徒等納付金 ÷ 経常収入 × 100

○事業活動収入の中で最大の割合を占めており、補助金や寄付金と比べて外部要因に影響されることがない自己財源であることから、安定的に推移することが望ましい。なお、この比率が高いほど、学生生徒等納付金の依存度が高く、収入源の多様化が課題となる。

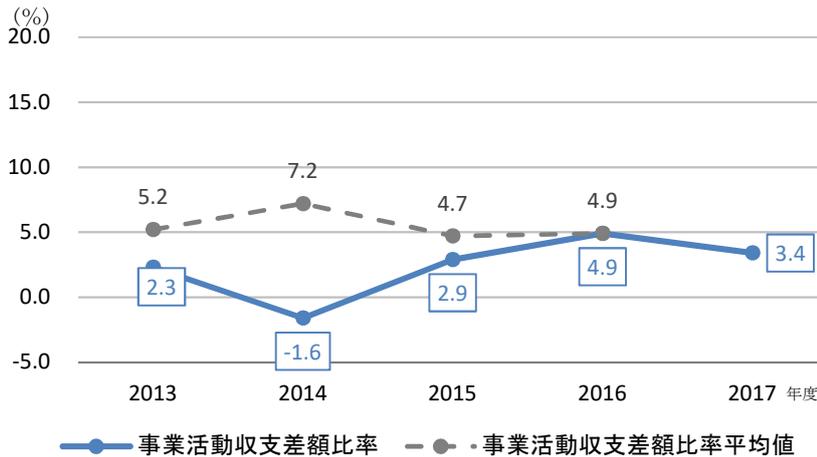
☞「寄付金比率」= 寄付金(特別収支の施設設備寄付金及び現物寄付含む) ÷ 事業活動収入 × 100

○一定水準の寄付金収入を継続して確保することが経営の安定のために好ましい。

☞「補助金比率」= 補助金(特別収支の施設設備補助金含む) ÷ 事業活動収入 × 100

○学校法人の教育研究活動や管理運営機能、また、教育研究に係る環境の整備、安全性の確保等の支援を目的として交付される資金であり、この比率が高いということは自助努力による多様な取り組みが評価されている表れでもあるが、補助金は、国や地方公共団体の補助金政策の動向に影響を受けることから、他の収入の比率と合わせて評価する必要がある。

(7) 事業活動収支差額構成比率



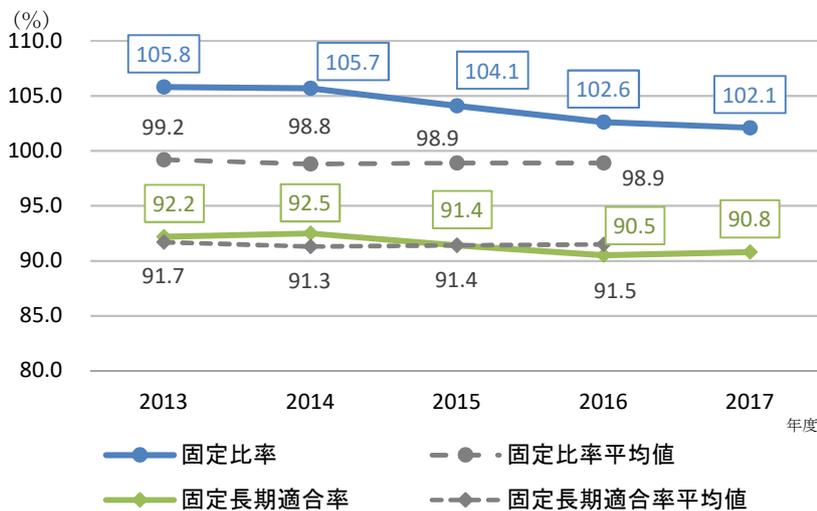
●全国平均値よりも低い水準で推移しています。

「事業活動収支差額構成比率」

$$= \frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}} \times 100$$

○この比率がマイナスであることは、当年度の事業活動収入で事業活動支出を賄うことができない状況であり、経営が圧迫されており、将来の資金繰りに支障をきたす可能性を示唆している。この比率のプラスが大きいくほど、自己資金が充実し、財政面での将来的な余裕につながることを示唆し、プラスの範囲内で基本金組入額が収まることが望ましい。

(8) 固定比率, 固定長期適合率



●固定比率は、100%以上で全国平均値よりも高い水準で推移しています。

固定長期適合率は、100%以下で全国平均値よりも高い水準で推移しています。

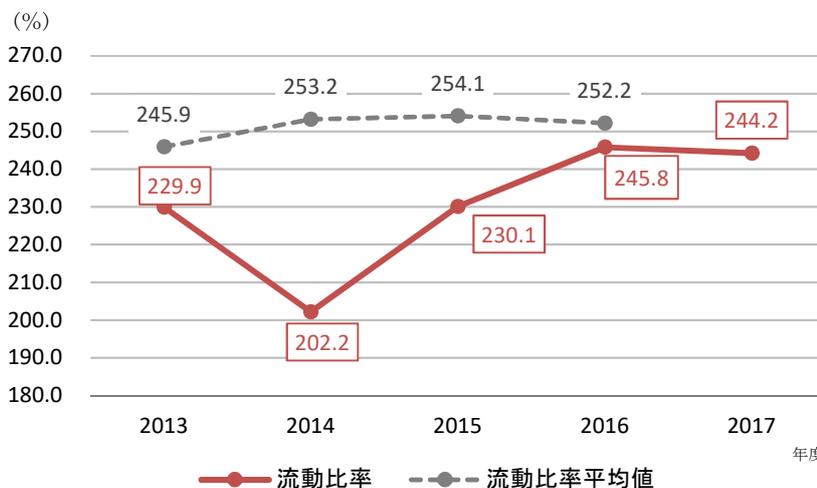
「固定比率」 = $\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}} \times 100$

○土地・建物・施設等の固定資産に対して、どの程度純資産が投下されているか、すなわち、資金の調達源泉とその用途を対比させる比率である。本来投下資金は自己資金を充てることが望ましく、借入金等の外部資金を投下資金とした場合、この比率が100%を超える。

「固定長期適合率」 = $\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産} + \text{固定負債}} \times 100$

○この比率が100%を超えた場合、固定資産の調達源泉に短期借入金等の流動負債を導入していると解することができ、財政の安定性に欠けることを示すこととなり、100%以下で低いほど、理想的とされる。

(9) 流動比率



●200%以上で全国平均値よりも低い水準で推移しています。

「流動比率」 = $\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$

○1年以内に償還又は支払わなければならない流動負債に対して、現金預金又は1年以内に現金化が可能な流動資産がどの程度用意されているか、短期的な支払能力を判断する指標である。一般的に金融機関等では、200%以上であれば優良とみなし、100%を切っている場合、資金繰りに窮しているとみなしている。ただし、将来に備えて引当特定資産に資金を留保している場合もあり、当該資産の積立状況も考慮して評価する必要がある。

区分	比率名	算式	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
消費収支計算書関係	人件費比率	人件費	45.4	47.2	45.7	45.9	47.4
	人件費依存率	人件費 学生生徒等納付金	60.5 (72.4)	64.0 (73.3)	61.0 (73.0)	60.5 (72.8)	62.4
	教育研究経費比率	教育研究経費	39.8	40.7	40.3	39.3	39.0
	管理経費比率	管理経費	9.3	10.2	10.4	9.5	9.7
	借入金等利息比率	借入金等利息	2.8	0.5	0.5	0.4	0.4
	消費収支比率	消費支出	174.4	109.6	108.8	99.8	102.1
	学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金	74.9	73.7	74.9	75.8	76.0
	寄付金比率	寄付金	1.3	1.3	1.3	0.9	0.8
	補助金比率	補助金	11.8	10.9	11.7	11.7	11.2
	基本金組入率	基本金組入額	43.9	7.3	10.8	4.7	5.4
	帰属収支差額比率	帰属収入－消費支出	2.3	△1.6	2.9	4.9	3.4
	有形固定資産構成比率	有形固定資産	71.9	72.4	72.2	69.5	66.9
	その他の固定資産構成比率	総資産	61.2	61.3	61.2	61.2	61.2
	流動資産構成比率	流動資産	25.5	25.1	21.3	21.4	14.6
	固定比率	固定資産	105.8	105.7	104.1	102.6	102.1
固定長期適合率	自己資金	99.2	98.8	98.9	98.9	90.8	
流動比率	自己資金＋固定負債	92.2	92.5	91.4	90.5	90.8	
総負債比率	流動負債	229.9	202.2	230.1	245.8	244.2	
負債比率	総負債	17.8	18.5	17.6	17.1	16.4	
自己資金構成比率	自己資金	21.7	22.7	21.4	20.7	19.6	
消費収支差額構成比率	消費収支差額	△30.7	△32.7	△34.7	△34.3	△34.7	
貸借対照表関係		総資産	△12.2	△12.9	△13.6	△14.2	△14.2
事業活動関係	比率名	算式					
事業活動関係	人件費比率	人件費					
	人件費依存率	人件費 学生生徒等納付金					
	教育研究経費比率	教育研究経費					
	管理経費比率	管理経費					
	借入金等利息比率	借入金等利息					
	基本金組入後収支比率	事業活動支出					
	学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金					
	寄付金比率	寄付金					
	補助金比率	補助金					
	基本金組入率	基本金組入額					
	事業活動収支差額比率	事業活動収入－基本金組入額					
	有形固定資産構成比率	有形固定資産					
	特定資産構成比率	特定資産					
	流動資産構成比率	流動資産					
	固定比率	固定資産					
固定長期適合率	自己資金						
流動比率	自己資金＋固定負債						
総負債比率	流動負債						
負債比率	総負債						
自己資金構成比率	自己資金						
繰越収支差額構成比率	繰越収支差額						
	繰越収支差額						

注) 1. ()内の数字は「今日の私学財政(大学・短期大学編)」「日本私立学校振興・共済事業団編」に記載されている医師系法人を除く大学法人の平均値を示す。
 2. 総資産＝負債＋基本金＋消費収支差額 自己資金＝基本金＋消費収支差額
 3. 学校法人会計基準の改正に伴い、2015年度以降の財務比率の算式等が変更された。
 事業活動収入＝帰属収入 経常収入＝教育活動収入＋教育活動外収入